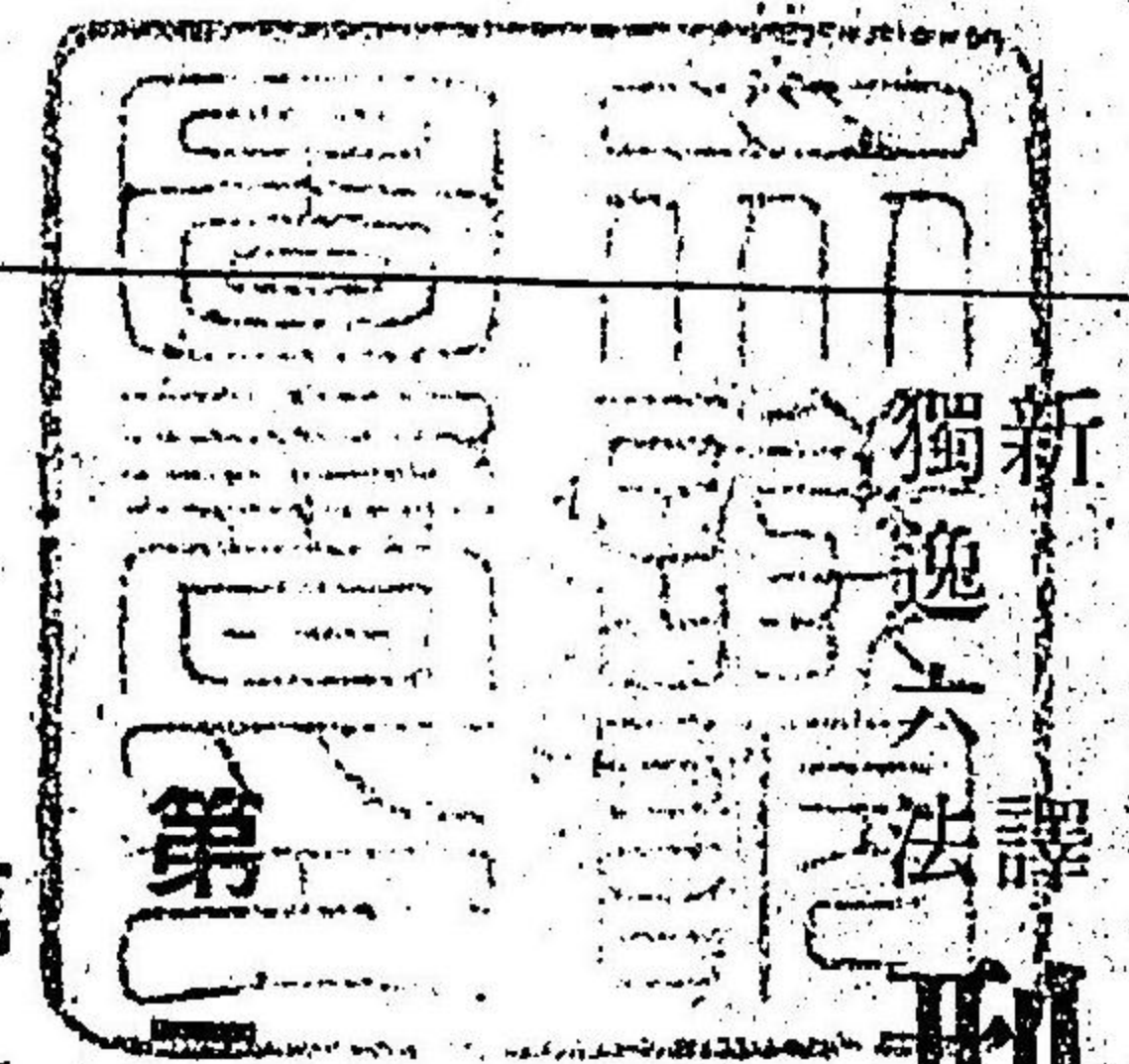


CG3
781
03

項二五ノ一
項二五ノ二



刑事訴訟法

法學士 阿部文二郎 譯

第一章 裁判所ノ事物ノ管轄

第一條 裁判所ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 關聯スル數個ノ事件カ審級ヲ異ニスル裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ上級管轄權ヲ有スル裁判所ニ併合シテ繫屬セシムルコトヲ得

便宜上上級裁判所ノ決定ニヨリ併合シタル事件ノ分離ヲ命スルコトヲ得

第三條 一人ニテ數個ノ犯罪ヲナシタルトキ又ハ一個ノ犯罪ニ付キ正犯、共犯、犯罪庇護者又ハ隠私者數名アルトキハ事件ノ關聯アリトス

第四條 關聯事件ノ併合又ハ併合事件ノ分離ハ審理開始後ト雖檢事局又ハ被告人ノ申立又ハ職權

第一編 總則 第一章 裁判所ノ事物ノ管轄

CG3
781
03

ニヨリ裁判所決定ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得
此決定ハ他ノ裁判所ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲナス此ノ如キ管轄權ヲ有スル裁判所ナキトキハ
此決定ハ共通上級ノ裁判所之ヲナス

第五條 併合中ニ限リ上級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ訴訟手續ノ標準トナス

第六條 裁判所ハ訴訟手續中職權ヲ以テ事物ノ管轄ヲ調査ス

第二章 裁判 籍

自第七條
至第二十一條

二六

第七條 裁判籍ハ犯罪地ヲ管轄スル裁判所ニ歸スルモノトス

犯罪事實カ内國ニ於テ發行スル印刷物ノ内容ニヨリ定マルトキハ印刷物發行地ヲ管轄スル裁判所
ノミヲ前項ノ管轄裁判所ト看做ス但誹毀罪ノ場合ニ於テハ私訴ニヨリ訴追セラレタルトキニ限リ
印刷物頒布地ヲ管轄スル裁判所モ亦管轄權ヲ有ス但被害者カ其管轄地内ニ住所又ハ居所ヲ有スル
トキニ限ル

二六

第八條 裁判籍ハ被告人カ訴提起ノ當時ニ住所ヲ有シタル地ヲ管轄スル裁判所ニモ亦歸スルモノト
ス
被告人獨逸帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ其裁判籍ハ通常ノ居所ニヨリ居所不明ナルトキハ最後

二九

ノ住所ニ依リ定マルモノトス

第九條 犯罪ヲ外國ニ於テ犯シタル場合ニ裁判籍カ第八條ニ從ヒ定マラサルトキハ逮捕地ヲ管轄ス
ル裁判所之ヲ管轄ス逮捕セサルトキハ帝國裁判所ニ於テ管轄裁判所ヲ定ム

犯罪ヲ内國ニ於テ犯シタル場合ト雖犯罪地ノ裁判籍及住所ノ裁判籍ヲ知ルコト能ハサルトキ亦同
シ

三〇

第十條 犯罪ヲ外國又ハ洋海ニアル獨逸船舶内ニ於テナシタルトキハ船籍港ヲ管轄スル裁判所又ハ
犯罪後始メテ著船スル獨逸國港ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

第十一條 治外法權ノ權利ヲ享有スル獨逸人並ニ外國ニ於テ任用セラレタル帝國又ハ一聯邦ノ官吏
ノ裁判籍ハ本國ニ於テ有シタル住所ニ從フ斯クノ如キ住所ナキトキハ本國ノ首府ヲ住所ト看做ス
首府數個ノ裁判所管區ニ分ルルトキハ住所ト看做スヘキ地ハ獨逸各邦司法省一般ノ命令ヲ以テ之
ヲ定ム獨逸人聯邦ニ屬セサルトキハ柏林市ヲ其人ノ住所ト見做ス柏林市數個ノ裁判所管區ニ分ル
ルトキハ住所ト看做スヘキ地ハ帝國宰相一般ノ命令ニヨリ之ヲ定ム

二七

第十二條 第七條乃至第十一條ノ規定ニ從ヒ管轄權ヲ有スル裁判所二個以上アルトキハ最初審理ヲ
開始シタル裁判所優先權ヲ有ス但共通ノ上級裁判所ハ審理及裁判ヲ管轄權アル他ノ裁判所ニ委任
スルコトヲ得

第十三條 關聯事件ノ各カ第七條乃至第十一條ノ規定ニ從ヒ異リタル裁判所ノ管轄ニ屬スヘキトキハ裁判籍ハ其一個ニ付キ管轄權アル各裁判所ニ歸スルモノトス

關聯スル數個ノ事件各異リタル裁判所ニ繫屬シタルトキハ檢事局ノ申立ニヨリ繫屬裁判所ノ合意ヲ以テ事件ノ全部又ハ一部ヲ一個ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得、檢事局又ハ被告人併合ノ申立ヲナシタルニ拘ラス裁判所ノ合意ナキトキハ共通ノ上級裁判所ニ於テ併合ヲナスヘキモノナリヤ否ヤ及裁判所中ノ孰レニ併合スヘキヤヲ裁判ス
同一ノ方法ニヨリ更ニ併合ヲ取消スコトヲ得

第十四條 數個ノ裁判所ノ間ニ管轄ニ付キ爭ヲ生シタルトキハ共通ノ上級裁判所ニ於テ其審理及裁判ヲナスヘキ裁判所ヲ定ム

第十五條 管轄權ヲ有スル裁判所カ法律上又ハ事實上判事ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキ又ハ其裁判所ニ於ケル辯論カ公安ヲ害スル恐レアルトキハ直近上級裁判所ハ他ノ同等ナル裁判所ニ審理及裁判ヲ委任ス

第十六條 被告人ハ管轄違ノ異議ヲ豫審ノ終結マテニ若シ豫審ヲ經サルトキハ公判手續開始決定ノ朗讀ヲナスマテニ述ヘサルヘカラス否ラサレハ其權利ヲ喪失ス

第十七條 豫審ノ管轄ヲ確定スル裁判ニヨリ公判手續ノ管轄モ亦確定ス

三三、三

三四、三
五三、六

第十八條 公判手續開始ノ後ト雖モ裁判所ハ被告ノ異議アルトキニ限り管轄違ヲ言渡スコトヲ得

第十九條 數個ノ裁判所中ノ一個カ管轄裁判所ナル場合ニ於テ各裁判所カ最早不服ヲ申立ツルコト能ハサル裁判ニヨリ管轄違ノ言渡ヲナシタルトキハ共通ノ上級裁判所ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス

第二十條 管轄權ナキ裁判所ノナシタル審理行為ハ管轄違ノ故ヲ以テ無効トナルコトナシ

第二十一條 管轄權ナキ裁判所ハ遲延ノ恐レアルトキニ限り其管轄地内ニ於テナスヘキ審理行為ヲナスヘキモノトス

第三章 裁判所職員ノ除斥及忌避

自第二十二條
至第三十二條

第二十二條 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニヨリ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

第一 判事被害者ナルトキ

第二 判事嫌疑者若クハ被害者ノ夫若クハ後見人ナルトキ

第三 判事嫌疑者又ハ被害者ト直系ノ血族姻族又ハ養子ノ關係アルトキ又ハ三等親内ノ傍系血族又ハ二等親内ノ傍系姻族ノ關係アルトキ但姻族關係ヲ生シタル婚姻ノ既ニ解消シタルトキト雖亦同シ

第四 判事其事件ニ付キ檢事局ノ官吏、警察官、被害者ノ辯護士又ハ辯護人トナリテ其職務ヲ行

第五 判事其事件ニ付キ證人又ハ鑑定人トナリテ訊問ヲ受ケタルトキ

第二十三條 上訴ニヨリ不服ヲ申立ラレタル裁判ニ干與シタル判事ハ上級審ニ於テ其事件ノ裁判ニ干與スルコトヲ得ス

豫審判事ハ豫審ヲナシタル事件ニ付キ公判ノ構成員トナルコトヲ得ス亦公判外ニ於テナス刑事部ノ裁判ニモ干與スルコトヲ得サルモノトス

刑事部ノ公判ニハ公判手續開始ノ裁判ニ干與シタル判事二名以上干與スルコトヲ得ス檢事局ノ申立ニ關シ報告ヲナシタル判事ハ勿論之ニ干與スルコトヲ得サルモノトス

第二十四條 判事法律ニヨリ職務ノ執行ヨリ除斥セララルル場合並ニ偏頗ノ恐レアルトキハ之ヲ忌避スルコトヲ得

偏頗ノ恐レアルタメノ忌避ハ判事ノ公平ニ對スル嫌疑ヲ是認スルニ適當ナル理由アルトキニ之ヲナスコトヲ得

檢事局、私訴人及嫌疑者ハ忌避權ヲ有ス忌避權者ノ請求アルトキハ裁判ニ干與スヘキ判事ノ氏名ヲ指示ス

第二十五條 偏頗ノ恐レアル爲メニナス判事ノ忌避ハ第一審ノ公判ニ於テハ公判手續開始決定ヲ朗讀

四二

四一

スルマテニ控訴及上告ニ付テノ公判ニ於テハ其報告ノ始マルマテニ申立ツルコトヲ要ス

第二十六條 忌避ノ申請ハ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲナス此申請ハ裁判所書記ノ面前ニ於テ調書ニヨリ之ヲナスコトヲ得

忌避ノ申請ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス宣誓ハ疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得ス忌避セラレタル判事ノ證言ハ疏明ノタメ之ヲ引用スルコトヲ得

忌避セラレタル判事ハ忌避ノ原因ニ付キ職務上陳述ヲナスヘキモノトス

第二十七條 忌避ノ申請ニ付テハ忌避セラレタル判事ノ所屬裁判所之ヲ裁判ス若シ裁判所カ忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲナスコト能ハサルトキハ直近上級ノ裁判所之ヲ裁判ス

豫審判事又ハ區裁判所判事忌避セラレタルトキハ地方裁判所之ヲ裁判ス忌避セラレタル判事ニ於テ忌避ノ申請ヲ正當ナリトスルトキハ裁判ヲ要セス

第二十八條 忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲナスコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲナスコトヲ得

判決判事ニ對シテナシタル忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ノミニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス同時ニ判決ニ對スルトキニ限り之ヲナスコトヲ得

第二十九條 忌避セラレタル判事ハ忌避申請ノ完結前ハ猶豫スヘカラサル行爲ニ限り之ヲナスコトヲ得

四三

四二

四二

四二

ヲ得

八

四四

第三十條 忌避申請ノ完結ニ付キ管轄權アル裁判所ハ忌避ノ申請ナキモ判事ヨリ忌避セラルルニ足ルヘキ事情ヲ申出タルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ判事カ法律ニ依リ除斥セラルヘキ疑ヲ生シタルトキニモ亦其裁判ヲナスヘキモノトス

四五

第三十一條 本章ノ規定ハ參審官及裁判所書記ニ之ヲ準用ス

參審官ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ區裁判所判事之ヲ裁判シ裁判所書記ノ除斥又ハ忌避ニ付テハ其所屬裁判所又ハ判事之ヲ裁判ス

第三十二條 第二十二條ノ規定ハ陪審官ニ之ヲ適用ス

第四章 裁判所ノ裁判及其告知

自第三十三條
至第四十二條

第三十三條 裁判所ノ裁判ハ公判ニ於テナストキハ關係人ヲ訊問シタル後公判外ニ於テナストキハ檢事局ノ書面又ハ口頭ノ陳述アリタル後之ヲ言渡スモノトス

第三十四條 上訴ニヨリ不服ヲ申立テ得ル裁判並ニ申立ヲ却下スル裁判ニハ理由ヲ付スヘキモノトス

第三十五條 裁判ヲ受クル者ノ在廷ニ於テナス裁判ハ言渡ニヨリ之ヲ告知ス求メニヨリ謄本ヲ其

人ニ付與ス

其他ノ裁判ノ告知ハ送達ニヨリ之ヲナス

拘留セラレタル者ニハ其求メニヨリ送達シタル書面ヲ讀聞カスヘキモノトス

第三十六條 送達又ハ執行ヲ要スル裁判ハ所要ノ行爲ヲナスヘキ檢事局ニ交付ス此規定ハ單ニ裁判所ニ於ケル内部ノ職務又ハ法廷ニ於ケル秩序ニ關スル裁判ニハ之ヲ適用セス

豫審判事及區裁判所判事ハ凡テノ種類ノ送達並ニ決定及處分ノ執行ヲ直接ニナスコトヲ得

一九

第三十七條 送達ノ場合ニ於ケル手續ニハ送達ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第三十八條 刑事訴訟手續ニ關シ證人及鑑定人ヲ直接ニ呼出スコトヲ得ル者ハ呼出狀ノ送達ヲ執達吏ニ委任スヘシ

一九

第三十九條 公訴ノ準備手續、豫審及刑ノ執行ノ場合ニ於ケル手續ノタメ獨逸各邦司法者ハ省令ニヨリ送達ノ證明ニ付キ簡單ナル方式ヲ定ムルコトヲ得

第四十條 未タ公判ノ呼出狀ヲ送達セサル嫌疑者ニ對シ定規ノ方法ニヨリ獨逸帝國內ニ於テ送達ヲナスコト能ハス且ツ送達ニ關スル外國ノ現行法ヲ遵奉スルコト能ハス又假リニ之ヲ遵奉シ得タリトスルモ其效ナキコトヲ豫知シ得ル場合ニハ送達スヘキ書類ノ趣旨ヲ獨逸又ハ外國ノ新聞紙ニ公告ス其發行後二週間ヲ經過シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス送達ヲナス官吏ハ新聞紙ノ

撰擇權ヲ有ス

公判ノ呼出狀ヲ既ニ被告ニ送達シタル場合ニ其後ノ送達ヲ定期ノ方法ニヨリ獨逸帝國內ニ於テナスコト能ハサルトキハ送達スヘキ書類ヲ第一審裁判所ノ揭示板ニ貼附ス貼附後二週間ヲ經過シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス判決及決定ハ主文ノミヲ貼附ス

第四十一條 檢事局ニ對スル送達ハ送達スヘキ書類ノ原本ヲ提出シテ之ヲナス送達ト同時ニ期間ノ進行始マルトキハ檢事局ハ提出アリタル日ヲ原本ニ記入ス

第五章 期間及原狀回復 自第四十二條至第四十七條

一五 第四十二條 日ヲ以テ定メタル期間ノ計算ニハ期間ノ始マルヘキ時又ハ事件ノアリタル日ヲ算入セス

第四十三條 週又ハ月ヲ以テ定メタル期間ハ名稱又ハ數ニ於テ期間ノ始リタル日ニ應當スル末週又ハ末月ノ日ノ滿了ヲ以テ終了ス、末月中ニ應當日ナキトキハ期間ハ其月ノ末日ノ滿了ヲ以テ終了ス

一七 期間ノ末日日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルトキハ期間ハ其次ノ平日ノ滿了ヲ以テ終了ス

第四十四條 申立人天災又ハ其他ノ避クヘカラサル事變ニヨリ期間ノ遵守ヲ妨ケラレタルトキニ限

リ期間ノ懈怠ニ對シ原狀回復ノ申立ヲナスコトヲ得、申立人過失ナクシテ送達ヲ知ラサリシトキハ之ヲ避クヘカラサル事變ト看做ス

第四十五條 原狀回復ノ申請ハ障礙ノ止ミタル後一週内ニ期間ヲ守ルヘカリシ裁判所ニ懈怠ノ理由ヲ開示説明シテ差出スコトヲ要ス

申請ト同時ニ懈怠シタル行爲ヲ退完スヘシ

第四十六條 申請ニ付テハ正當ノ時期ニ行爲ヲナシタル場合ニ事件ニ付キ裁判ヲナスヘキ裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

申請ヲ許ス裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得ス

申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲナスコトヲ得

第四十七條 裁判所ノ裁判ノ執行ハ原狀回復ノ申請ニヨリ停止セララルコトナシ但裁判所ハ執行ノ延期ヲ命スルコトヲ得

第六章 證人 自第四十八條至第七十一條

第四十八條 證人ノ呼出ハ不參ノ法律上ノ結果ヲ指示シテ之ヲナス

證人トシテノ陸海軍現役軍人ノ呼出ハ軍事官廳ニ囑託シテ之ヲナス

一五ノ
二項
一七

第四十九條 帝國宰相、各聯邦ノ大臣、共和市府元老院ノ議員、獨逸高等官廳ノ長官及各省長官ハ其官廳所在地ニ於テ訊問ス若シ所在地外ニ滞在スルトキハ滞在地ニ於テ之ヲ訊問ス
聯邦參議院ノ議員ハ其院所在地ニ滞在中ハ其地ニ於テ之ヲ訊問ス立法議會ノ議員ハ其會期間及議會ノ所在地ニ滞在中ハ其地ニ於テ之ヲ訊問ス
此規定ニ遵フコト能ハサル場合ニハ左ノ許可ヲ要ス

帝國宰相ニ付テハ皇帝ノ許可

大臣及聯邦參議院ノ議員ニ付テハ各邦君主ノ許可

共和市府元老院ノ議員ニ付テハ其院ノ許可

第一項ニ掲ケタル其他ノ官吏ニ付テハ直屬上官ノ許可

立法議會ノ議員ニ付テハ議會ノ許可

第五十條 合式ノ呼出ヲウケテ出頭セサル證人ニハ其不參ニヨリ生シタル費用ノ賠償並ニ「三百マルク」以下ノ罰金及其罰金ヲ徵收スルコト能ハサル場合ノタメ六週間以内ノ拘留ヲ言渡スヘシ又證人ヲ拘引スルコトヲ得、再度出頭セサルトキハ更ラニ其罰ヲ言渡スコトヲ得
證人ノ不參ニ付キ免責ノ事由アルトキハ罰金及費用賠償ノ言渡ヲナサス證人カ後日ニ不參ノ正常ナル理由ヲ辯明シタルトキハ證人ニ對シテ言渡シタル命令ヲ更ニ取消スヘシ

豫審判事、準備手續ニ於ケル區裁判所判事、受命判事、受託判事モ亦此處分ヲナスコトヲ得
陸海軍現役ノ軍人ニ對スル罰ノ確定及ヒ其執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲナス、軍人ノ引致ハ軍事官廳ニ囑託シテ之ヲナス

第五十一條 左ニ掲ケタル者ハ證言ヲ拒ムノ權ヲ有ス

第一 嫌疑者ノ婚姻豫約者

第二 嫌疑者ノ配偶者但婚姻カ既ニ解消シタルトキト雖亦同シ

第三 嫌疑者ト直系ノ血族姻族又ハ養子ノ關係アル者又ハ三等親内ノ傍系血族又ハ二等親内ノ姻族關係アル者但姻族關係ヲ生シタル婚姻ノ解消シタルトキト雖亦同シ
右ニ掲ケタル者ニハ訊問前證言ヲ拒ム權利アルコトヲ告ケサルヘカラス此等ノ者ハ此權利ノ拋棄ヲ訊問中ニ於テモ取消スコトヲ得

第五十二條 左ニ掲ケタル者ハ左ノ場合ニ於テ證言ヲ拒ムノ權ヲ有ス

第一 僧侶ハ教導執行ノ際委託セラレタル事件ニ付キ

第二 嫌疑者ノ辯護人ハ其資格ニ於テ委託セラレタル事件ニ付キ

第三 辯護士及醫師ハ其業務執行ノ際委託セラレタル事件ニ付キ

第二第三ニ掲ケタル者ハ默秘ノ義務ナキトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

一一五

第五十三條 官吏ハ退職ノ後ト雖其職務上黙秘スヘキ義務アル事情ニ付テハ其所屬官廳又ハ最後ノ所屬官廳ノ許可ヲ得タルトキニ限り證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

帝國宰相ニ付テハ皇帝、大臣ニ付テハ各邦君主、共和市府元老院ノ議員ニ付テハ其院ノ許可ヲ要ス

此許可ハ官吏ノ證言カ獨逸帝國又ハ各聯邦ノ安寧ニ妨害ヲ加フヘキ場合ノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

一一四

第五十四條 證人ハ其答辯ニヨリ自己又ハ第五十一條第一乃至第三ニ掲ケタル親族ニ刑事裁判上ノ訴追ヲ招クヘキ恐レアル問ニ付テノ陳述ヲ拒ムコトヲ得

一一三

第五十五條 證人ハ第五十一條第五十二條第五十四條ノ場合ニ於テ證言拒絶ノ理由タル事實ヲ疏明セサルヘカラス疏明ハ證人ノ宣誓ニヨル保證ヲ以テ足ル

一一二

第五十六條 左ニ掲クル者ハ宣誓ヲナサシメスシテ之ヲ訊問ス
第一 訊問當時滿十六歳ニ達セサル者、知能ノ欠缺若クハ耗弱ノ爲メ宣誓ノ意義ヲ充分ニ了解セサル者

サル者

第二 刑法上證人トナリ宣誓シテ訊問セラルル能力ナキ者

第三 審問事項ニ付キ共犯者、犯罪庇護者又ハ隱私者ト目セラルル者又ハ既ニ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者

一一一

第五十七條 證人カ嫌疑者ト第五十一條ニ因リ證書ヲ拒ミ得ル關係ニ立ツトキハ判事ニ於テ之ニ宣

一〇七

誓ヲナサシメテ訊問スヘキヤ否ヤヲ定ム

前項ノ證人ハ訊問後ト雖證言ノ宣誓ヲ拒ムコトヲ得裁判所ハ此權利アルコトヲ證人ニ告知スヘシ

第五十八條 證人ハ後ニ訊問スヘキ證人ノ居ラサル所ニ於テ各別ニ訊問ス

證人ト證人又ハ證人ト嫌疑者トノ對質ハ之ヲ公判マテ中止スルトキハ事件ノタメ不利益トナルトキニ限り準備手續ニ於テ之ヲナス

第五十九條 判事ハ宣誓前適當ノ方法ニヨリ證人ニ宣誓ノ意義ヲ指示スヘシ

第六十條 證人ハ訊問前ニ宣誓ヲ爲ササルヘカラス但特別ノ理由殊ニ宣誓ノ許否ニ付キ疑アルトキハ訊問ノ終リマテ之ヲ延ハスコトヲ得

一〇六

第六十一條 訊問前ニナスヘキ宣誓ハ次ノ如シ

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ

訊問後ニナスヘキ宣誓ハ左ノ如シ

良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ

第六十二條 宣誓ハ左ノ語ヲ以テ始マリ

予ハ全知全能ノ神ニ誓フ

次ノ語ヲ以テ終ハルモノトス

神必ス我ヲ助ケン

一六

第六十三條 宣誓ハ宣誓方式ヲ掲クル宣誓文ヲ尾誦シ又ハ朗讀シテ之ヲナス、宣誓者ハ宣誓ヲナス際右手ヲ舉クヘシ

文字ヲ書スルコトヲ得ル哑者ハ宣誓方式ヲ掲クル宣誓文ヲ謄寫シ且ツ署名シテ宣誓ヲナス文字ヲ書スルコトヲ得サル哑者ハ通事ノ助ニ依リ符徴ヲ以テ宣誓ヲ爲ス

第六十四條 法律上此宣誓ニ代ヘ或ル誓約式ヲ用キルコトヲ許サレタル教會員カ其會ノ誓約式ニテ陳述ヲナストキハ之ヲ宣誓ト看做ス

第六十五條 證人ノ宣誓ハ第二百二十二條ノ場合ノ外公判ニ於テ之ヲナス

證人カ公判ニ出頭スルニ付キ差支アルコト若クハ將來遠隔ノ地ニ赴ク爲メ特ニ出頭シ難キコトヲ豫知シ得タルトキ又ハ眞實ヲ供述セシムルタメ宣誓ヲ必要トスルトキハ豫審ニ於テモ宣誓ヲナサシムルコトヲ得

準備手續ニ於テハ、遅延ノ恐レアルトキ又ハ公訴提起ノ定マル事實ニ付キ眞實ノ供述ヲナサシムル方法トシテ宣誓ヲ必要トスルトキニ限り宣誓ヲナサシムルコトヲ得
準備手續ニ於テ宣誓ヲナサシメタルトキハ其理由ヲ調書ニ記載スヘシ

第六十六條 證人宣誓シテ訊問ヲ受ケタル後同一ノ準備手續又ハ同一ノ本案手續ニ於テ更ニ訊問

ヲ受クル場合ニハ判事ハ再度ノ宣誓ニ代ヘ屢キニナシタル宣誓ヲ引用シテ證人ニ其供述ノ眞正ヲ保證セシムルコトヲ得

第六十七條 訊問ハ證人ニ其氏名、年齢、宗旨、身分、職業、住所ヲ問フテ之ヲ開始ス必要ナル場合ニ於テハ其事件ニ於ケル證人ノ信用ニ關スル事情殊ニ嫌疑者又ハ被害者トノ關係ニ付テノ問ヲ證人ニナスヘシ

第六十八條 證人ニハ其訊問事項ニ付キ知り居ルコトヲ關連シテ供述セシムヘシ訊問前審理事項及若シ嫌疑者アルトキハ其人ヲ證人ニ告クヘシ

供述ヲ明白完全ナラシムル爲メ且ツ證言ノ基クトコロヲ究ムル爲メ必要ナル場合ニ於テハ更ニ問ヲ發スヘシ

第六十九條 法律上ノ理由ナクシテ證言又ハ宣誓ヲ拒ミタル證人ニハ之ニヨリ生シタル費用ノ賠償並ニ三百マルク以下ノ罰金及ヒ其罰金ヲ徵收スルコト能ハサル場合ノ爲メ六週間以内ノ拘留ヲ言渡スヘシ

證言ヲ強制スルタメ亦拘留ヲ命スルコトヲ得但各審級ニ於ケル訴訟手續終結ノ時又ハ六月以上違警罪ニアリテハ六週ヲ超ユヘカラス

豫審判事、準備手續ニ於ケル區裁判所判事、受命判事、受託判事モ亦此處分ヲナスコトヲ得

此處分ヲ盡シタルトキハ同一ノ行爲ヲ目的トスル同一又ハ他ノ訴訟手續ニ於テ更ニ之ヲナスコトヲ得ス

陸海軍現役ノ軍人ニ對スル罰ノ確定及ヒ其執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第七十條 判事又ハ檢事局ヨリ呼出サレタル證人ハ手數料規則ニ從ヒ日時消費ノ賠償出頭旅費及ヒ訊問ニ於ケル滞在費用ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第七十一條 各聯邦ノ君主其家族並ニ「ホーヘンツォルレルン」公家ノ家族ハ其住居ニ就テ之ヲ訊問ス舊「ハンノーフェル」王家、舊「クールヘツセン」及ヒ舊「ナアサアウ」公家ノ家族ニ付テモ亦同シ

此等ノ人ハ宣誓方式ヲ掲クル宣誓文ニ署名シテ宣誓ヲナス
此等ノ人ハ公判ニ呼出サルコトナシ此等ノ人ニ對スル裁判上ノ訊問ニ付テノ調書ハ公判ニ於テ之ヲ朗讀ス

第七章 鑑定及檢證 自第七十二條至第九十三條

第七十二條 鑑定人ニハ證人ニ付テノ第六章ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ之ニ異ナル規定アルモノハ此限リニアラス

第七十三條 立會フヘキ鑑定人ノ選定及ヒ其員數ノ指定ハ判事之ヲ爲ス
或ル種類ノ鑑定ニ付キ鑑定人ヲ公任シタル場合ニ於テハ特別ノ事情カ之ヲ必要トスルトキニ限リ他ノ鑑定人ヲ選定スヘシ

第七十四條 判事ヲ忌避スルノ權アルト同一ノ原因ニ基キ鑑定人ヲ忌避スルコトヲ得、但鑑定人ヲ證人トシテ訊問シタルコトヲ以テ忌避ノ原因トナスコトヲ得ス

忌避ノ權ハ檢事局、私訴人及ヒ嫌疑者ニ屬ス選任セラレタル鑑定人ハ特別ノ事情アルニアラサレハ之ヲ忌避權利者ニ指名スヘシ

忌避ノ原因ハ之ヲ疏明セサルヘカラス宣誓ハ疏明方法トシテ用キルコトヲ許サス

第七十五條 鑑定人ニ選任セラレタル者ハ必要ナル種類ノ鑑定ヲナスタメニ公ニ任用セラレタルトキ又ハ鑑定ヲナスタメ知ラサルヘカラサル學術、技術又ハ工藝ヲ公ニ營業トスルトキ又ハ其施行ノタメ公ニ任用セラレ又ハ授權セラレタルトキハ其選任ニ從ハサルヘカラス
裁判所ニ於テ鑑定ヲナサント述ヘタル者モ亦鑑定ヲ爲ス義務アリ

第七十六條 鑑定人ハ證人カ證言ヲ拒ムノ權アルト同一ノ原因ニ依リ鑑定ヲ拒ムノ權アリ鑑定人ハ其他ノ原因ニ依テモ亦鑑定ヲナス義務ヲ免ルルコトヲ得

官吏ヲ鑑定人トシテ訊問スルコトハ、其上級官廳ヨリ訊問ノ爲メニ職務上ノ利益ニ損害ヲ生スヘ

キコトヲ述ルトキハ之ヲ爲サス

一三八

第七十七條 鑑定ヲ爲ス義務アル鑑定人出頭セス又ハ鑑定ヲ拒ミタル場合ニ於テハ費用ノ賠償及「三百マルク」以下ノ罰金ヲ言渡スヘシ再度服命セサル場合ニ於テハ更ラニ六百「マルク」以下ノ罰金ヲ言渡スコトヲ得

陸海軍ノ現役軍人ニ對スル罰ノ確定及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲナス

第七十八條 判事ハ必要ト認ムル場合ニ限リ鑑定人ノ行務ヲ指揮ス

一三七

第七十九條 鑑定人ハ鑑定ヲ爲ス前左ノ宣誓ヲナス
要求セラレタル鑑定ヲ公平ニ良知、良心ニ從テ爲スヘキコトヲ誓フ

鑑定人當該種類ノ鑑定ヲナスタメ一般ニ宣誓シタルトキハ其宣誓ヲ引用スルヲ以テ足ル

第八十條 鑑定人ハ鑑定準備ノ爲メ證人又ハ嫌疑者ヲ訊問シテ一層明瞭ニナスコトヲ請求スルコトヲ得

同一ノ目的ノ爲メ鑑定人ニハ訴訟記録ヲ閲覽シ證人又ハ嫌疑者ノ訊問ニ立會ヒ此等ノ人ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ許ス

第八十一條 被告人ノ精神状態ニ關スル鑑定準備ノ爲メ、裁判所ハ鑑定人ノ申立ニヨリ辯護人ノ意見ヲ聽キタル後被告人ヲ公立癡狂院ニ入レテ觀察スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

辯護人ヲ有セサル被告人ニハ辯護人ヲ官選ス

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲナスコトヲ得抗告ハ停止ノ效力ヲ有ス

癡狂院ニ於ケル監視ハ六週間ヲ超ユルコトヲ得ス

一四〇

第八十二條 準備手續ニ於テハ鑑定人其鑑定ヲ書面ヲ以テナスヘキヤ又ハ口頭ヲ以テナスヘキヤハ判事ノ命令ニ依ル

一三九

第八十三條 判事ハ鑑定ヲ不十分ナリト認ムルトキハ同一ノ鑑定人又ハ他ノ鑑定人ニ新ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

判事ハ鑑定人鑑定ヲナシタル後有效ニ忌避セラレタルトキハ他ノ鑑定人ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得
重大ノ場合ニ於テハ専門官署ノ鑑定ヲ求ムルコトヲ得

一四一

第八十四條 鑑定人ハ手数料規則ニ從ヒ時日費消ニ付テノ賠償其生シタル費用ノ辨濟其他相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第八十五條 實驗スルニ特種ノ智識ヲ要スル過去ノ事實又ハ状態ヲ證明スル爲メ此種ノ智識アル人ヲ訊問スヘキトキニ限り人證ニ關スル規定ヲ適用ス

一〇三、

第八十六條 判事檢證ヲナシタルトキハ發見シタル事項ヲ調書ニ明確ニシ且ツ其場合ノ特別ノ性質ニ依リ現存セリト思料スルコトヲ得ヘキ痕跡又ハ徵候中如何ナルモノノ缺乏シタルヤヲ記載ス

第八十七條 判事ノ檢死ハ醫師一名ノ立會ニテ之レヲナシ死體解剖ハ判事ノ目前ニ於テ二名ノ醫師之ヲ爲ス、其中一名ハ裁判醫タルコトヲ要ス死亡ノ原因タル疾病中ニ死者ヲ診察シタル醫師ニハ死體解剖ヲ委託スヘカラス但シ病症ノ經過ヲ説明セシムルタメ死體解剖ニ立會ハシムルコトヲ得

檢死ノ際判事ノ意見ニ依リ不必要ナリト認ムルトキハ醫師ヲ立會ハシメサルコトヲ得
既ニ埋葬シタル死體ト雖モモ之ヲ檢視シ又ハ解剖スル爲メ發掘スルコトヲ得

第八十八條 死體解剖前ニ特ニ死者ヲ知レル人ニ質問シテ何人ナルヤヲ確定スヘシ但特殊ノ障礙アル場合ハ此限リニアラス、嫌疑者アルトキハ認知セシムルタメ同人ニ死體ヲ示スヘシ

第八十九條 死體解剖ハ常ニ頭腔、胸腔及腹腔ニ及フコトヲ要ス但死體ノ狀況カ之ヲ許ササル場合ハ此限ニアラス

第九十條 初生兒ノ死體ヲ解剖スル際ハ特ニ分娩後又ハ分娩中生存シ居リタリシヤ否ヤ母胎外ニ於テ生存ヲ繼續シ得ヘキ程度ニ成熟シ居リタリシヤ否ヤ又ハ少クトモ生存繼續ノ能力ヲ有シ居リタリシヤ否ヤヲ調査スヘシ

第九十一條 毒殺ノ疑ヒアルトキハ死體又ハ其他ニ於テ發見シタル疑ハシキ物質ノ調査ハ化學者又

ハ此種ノ調査ノ爲メニ存スル専門官署ニ於テ之ヲナス

判事ハ此調査ヲ醫師ノ干與又ハ指揮ヲ受ケテナスヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第九十二條 貨幣ニ關スル重罪及ヒ輕罪ニアリテハ必要ノ場合ニ於テハ其貨幣又ハ紙幣ヲ此種ノ眞貨幣又ハ眞紙幣ヲ流通セシムル官廳ニ提出ス此官廳ノ鑑定ハ偽造又ハ變造並ニ如何ナル方法ニヨリ偽造又ハ變造シタリト思料スルヤニ付キ之ヲ求ム

外國ノ貨幣又ハ紙幣ニ關シテハ外國官廳ノ鑑定ニ代ヘ獨逸官廳ノ鑑定ヲ求ムルコトヲ得

第九十三條 書類ノ眞正又ハ不眞正並ニ其執筆者ヲ探究スル爲メ鑑定人ノ立會ヲ以テ手跡ノ對照ヲナスコトヲ得

第八章 差押及搜索

自第九十四條 至第一百十一條

第九十四條 證據方法トシテ審理ニ必用ナル物件又ハ沒收スヘキ物件ハ之ヲ押收シ又ハ其他ノ方法ニヨリ之ヲ保管スヘシ

他人ノ占有中ニアリテ任意ニ引渡ササル物件ハ差押ヲ要ス

第九十五條 前條ニ記載シタル種類ノ物件ヲ占有スル者ハ求メニヨリ之ヲ提出シ且引渡スヘキ義務ヲ有ス

占有者ニ於テ之ヲ拒ムトキハ第六十九條ニ定メタル強制方法ニ依リ強制スルコトヲ得證言ヲ拒ム
權利ヲ有スル者ニハ此強制方法ヲ適用セス

第九十六條 官廳及ヒ官吏ノ作成ニ係ル記録又ハ官ノ保管中ニアル書類ノ提出又ハ引渡ハ其最上級
官廳ニ於テ其内容ノ暴露カ帝國又ハ一聯邦ノ公安ニ損害ヲ加フ可キコトヲ述ヘタルトキハ之ヲ求
ムルコトヲ許サス

一一四
第九十七條 嫌疑者及ヒ之ニ對スル關係上第五十一條第五十二條ニ從ヒ證言ヲ拒ムノ權利ヲ有スル
人トノ間ノ通信書ハ後者ノ手中ニ存シ且此者カ共犯、犯罪庇護又ハ隱私ノ嫌疑ナキ場合ニハ差押
フルコトヲ得ス

第九十八條 差押ハ判事之ヲ命ス遲延ノ恐レアルトキハ檢事局及ヒ檢事局ノ補助官吏トシテ其命令
ニ從ハサルヘカラサル警察官モ亦之ヲ命スルコトヲ得

判事ノ命令ナクシテ差押ヲナシタルトキハ差押ヲ命シタル官吏ハ差押ノ際本人並ニ成長シタル親
屬共ニ不在ナリシトキ又ハ本人及ヒ本人不在ノ場合ニ其成長シタル親屬カ差押ニ對シ明カニ異議
ヲ申立テタルトキハ三日以内ニ判事ノ認可ヲ請フヘシ本人ハ何時ニテモ判事ノ裁判ヲ求ムルコト
ヲ得未タ公訴ヲ提起セサル間ハ此裁判ハ差押ノアリタル地ヲ管轄スル區裁判所判事之ヲナス
公訴ノ提起アリタル後ニ檢事局又ハ警察官吏カ差押ヲナシタルトキハ三日以内ニ其旨ヲ判事ニ通

知シ且差押ヘタル物件ヲ其處分ニ任カスヘシ

軍艦ヲモ併稱スル軍用建造物内ノ差押ハ軍事實署ニ囑託シテ之ヲナス求メニヨリ民事官署^(判事)
局^(檢事)ヲシテ之ニ干與セシム但軍用建造物内ノ専ラ常人ノミ住居スル場所ニ於テ差押ヲナスト
キハ軍事實署ニ囑託スルコトヲ要セス

第九十九條 嫌疑者ニ宛テタル信書及ヒ郵便物ハ郵便局ニ於テ嫌疑者ニ宛テタル電報ハ電信局ニ於
テ差押フルコトヲ得、嫌疑者ノ差出シタルモノ若クハ嫌疑者ニ宛テタルモノト推定シ得ヘクシテ
而モ其内容審理ノ爲メ必用ナリト認ムヘキ事實アル信書郵便物及ヒ電報モ亦其局ニ於テ之ヲ差押
フルコトヲ得

第一百條 差押^(第九十條)ノ權ハ判事ノミ之ヲ有ス遲延ノ恐レアリテ審理違警罪ノミニ關スルトキハ
檢事局モ亦此權ヲ有ス、但檢事局ハ其受取リタル物件特ニ信書其他ノ郵便物ハ開封セスシテ直チ
ニ判事ニ提出スルコトヲ要ス

檢事局ノナシタル差押ハ未タ引渡ヲ受ケサルトキト雖三日以内ニ判事ヨリ認可セラレサルトキハ
其效力ヲ失フ

檢事局ノナシタル差押並ニ受取リタル信書又ハ其他ノ郵便物ノ開封ニ付テノ裁判ハ權限アル判事
之ヲナス^(第九十條)

第一百一條 處分(第九十九條 第一百條)ヲナシタルトキハ直チニ其旨ヲ關係者ニ通知ス但審理ノ目的ヲ害スル
恐レアルトキハ之ヲナサス

開封セサル郵便物ハ直ニ關係者ニ返付ス開封後留置ヲ必要トセサルトキ亦同シ
留置シタル信書中審理上留置ヲ要セサル部分ハ受領權利者ニ謄本ヲ以テ通知ス

第一百二條 犯罪ノ正犯者共犯者犯罪庇護者隱私者タル疑アル者ニ對シテハ之ヲ逮捕スルタメ又ハ
證據方法ヲ發見スルタメニ住居其他ノ場所身體及ヒ其者ニ屬スル物件ノ搜索ヲナスコトヲ得

第一百三條 其他ノ人ニ對シテハ嫌疑者逮捕ノ爲メ又ハ犯罪ノ證據ヲ追行スルタメ又ハ一定ノ物件
ヲ差押フル爲メ及ヒ搜索スヘキ場所ニ搜索セラルル人、證據、又ハ物件ノ存在スルコトヲ推定ス
ヘキ事實アルトキニ限り搜索ヲナスコトヲ得

此制限ハ嫌疑者ノ逮捕セラレタル場所又ハ追行中嫌疑者ノ立入りタル場所又ハ警察監視ヲ受クル
人ノ住居スル場所ニハ之ヲ適用セス

第一百四條 住居、營業場又ハ防圍アル場所ハ現行犯追行ノトキ又ハ遅延ノ恐レアルトキ又ハ逃走
シタル囚徒ヲ再ヒ逮捕スルトキニ限り夜間ニ搜索スルコトヲ得

此制限ハ警察監視ヲ受クル人ノ住居並ニ夜間何人モ出入スル場所又ハ警察署ニ於テ前科者ノ隱
所又ハ集會所又ハ犯罪ニヨリ得タル物ノ貯藏所又ハ常習淫賣所ナリト認ムル場所ニハ之ヲ適用セ

ス
夜間トハ四月一日ヨリ九月三十日マテハ午後九時ヨリ午前四時マテ十月一日ヨリ三月三十一日マ
テハ午後九時ヨリ午前六時マテノ時間ヲ謂フ

第一百五條 搜索ハ判事之ヲ命ス遅延ノ恐レアルトキハ檢事局及ヒ檢事局ノ補助官吏トシテ其命令
ニ從フヘキ警察官吏モ亦之ヲ命スルコトヲ得

判事又ハ檢事ノ居ラサルトキニ住居營業場又ハ防圍アル場所ノ搜索ヲナストキハ成ルヘク搜索ヲ
ナス地ノ町村官吏一名又ハ町村住民二名ヲ立會ハシムヘシ警察官吏ハ町村住民トシテ立會フコト
ヲ得ス

前二項ニ掲ケタル搜索ノ制限ハ第一百四條第二項ニ掲ケタル住居及ヒ場所ニ之ヲ適用セス
軍用建造物内ノ搜索ハ軍事實署ニ囑託シテ之ヲナス民事官署(判事、檢事局)ハ請求シテ之ニ干與スルコ
トヲ得但軍用建造物内ノ専ラ常人ノミ住居スル場所ヲ搜索スル場合ニハ軍事實署ニ囑託スルコ
トヲ要セス

第一百六條 搜索スヘキ場所又ハ物件ノ所持人ハ搜索ニ立會フコトヲ得所持人不在ナルトキハ成ル

ヘク其代理人、成長シタル親屬、同居人又ハ隣佑ヲ立會ハシム

所持人又ハ其不在ナルトキノ立會人ニハ第一百三條第一項ノ場合ニ於テハ着手前ニ搜索ノ目的ヲ告

知スヘシ第四百四條第二項ニ掲ケタル場所ノ所持人ニハ之ヲ適用セス

第七條 搜索ヲ受ケタル者ニハ搜索ノ終リタル後其求メニヨリ書面ヲ以テ告知ス其書面ニハ搜

索ノ理由(第二百二條 第二百三條)並ニ第二百二條ノ場合ニ於テハ犯罪行為ヲモ記載スルコトヲ要ス又此者ニハ求メ

ニヨリ押收物件若クハ差押ノ目錄ヲ交付ス但一モ嫌疑物ヲ發見セサルトキハ其旨ノ證明書ヲ付與ス

第八條 搜索ノ際審理ニハ關係ナキモ他ノ犯罪ヲ犯シタルコトヲ表示スル物件ヲ發見シタルトキハ假リニ之ヲ差押エ且ツ其旨ヲ檢事局ニ通知スヘシ

第九條 押收又ハ差押ヘタル物件ハ詳細ニ記載シ且ツ間違ナカラシムル爲メ官印又ハ其他ノ適當ナル方法ニ於テ識別ヲ容易ナラシムヘシ

第十條 搜索ヲ受ケタル者ノ書類ハ判事ノミ之ヲ閱覽スルコトヲ得

其他ノ官吏ハ發見シタル書類ノ所持人カ閱覽ヲ承諾シタルトキニ限り閱覽スルコトヲ得其他ノ場合ニ於テハ閱覽ヲ必要ト認ムル書類ハ封紙ノ儘之ヲ判事ニ交付スヘシ封紙ハ所持人ノ面前ニ於テ官印ヲ以テ封緘ス

書類ノ所持人又ハ其代理人ニハ其印ノ副捺ヲ許ス又其後書類ノ開封及ヒ閱覽ヲナス場合ニ於テハ成ルヘク之ニ立會ハシムヘシ

判事ハ犯罪ニ關係アル書類ヲ檢事局ニ通知スヘシ

第十一條 犯罪ニ依リ被害者ノ奪ハレタル物件ハ第三者ノ請求權ノ對立セサル場合ニハ審理終結ノ後又ハ時宜ニヨリテハ其終結前ト雖職權ヲ以テ被害者ニ還付ス還付ニ付テハ判決ヲ必要トセス民事訴訟手續ニ於ケル權利ノ行使ヲ關係者ニ留保ス

第九章 拘留及逮捕 自第一百十二條 至第三十二條

第十二條 被告人ニ對シ十分ナル嫌疑ノ理由アリテ逃走ノ虞アルトキ又ハ罪跡ヲ湮滅シ又ハ證人又ハ共犯者ヲ誑誘シテ虛偽ノ供述ヲナサシメントシ又ハ證人ヲ誑誘シテ證言義務ヲ免レシメントスルコトヲ推定スヘキ事實アルトキニ限り之ヲ未決拘留ニ付スルコトヲ得此事實ハ記録上明確ニスルコトヲ要ス

左ノ場合ニ於テハ別段ノ理由ヲ要セスシテ逃走ノ虞アルモノト看做ス

- 第一 審理事件重罪ナルトキ
 - 第二 被告人無籍者、浮浪者又ハ身元ヲ證明スルコト能ハサル者ナルトキ
 - 第三 被告人外國人ニシテ呼出ニ應ジテ裁判所ニ出頭セス且判決ニ服從セサル虞アルトキ
- 第十三條 單ニ拘留又ハ罰金ノミニ處スヘキ犯罪行為ニ付テハ逃走ノ恐レアリテ第一百十二條第二

號又ハ第三號ニ掲ケタル者ナルトキ又ハ警察監視ニ付セラレタルトキ又ハ高等地方警察署ニ送致ノ言渡ヲナスヲ得ヘキ違警罪ナルトキニアラサレハ之ヲナスコトヲ許サス

七六

第百十四條 拘留ハ判事ノ拘留狀ニヨリ之ヲナス

拘留狀ニハ被告人ヲ明示シ且ツ其責ニ歸セラレタル犯罪行為並ニ拘留ノ理由ヲ記載ス

拘留狀ハ拘留ノ際第三十五條ノ規定ニ從ヒ被告人ニ之ヲ告知シ且抗告ヲナスノ權アルコトヲ開示ス拘留ノ際之ヲナスコト能ハサル場合ニハ遅クトモ監獄ニ入レタル翌日ニ之ヲナス

第百十五條 被拘留人ハ遅クトモ監獄ニ入レラレタル翌日ニ被告事件ニ付キ判事ニ訊問セラルルコトヲ要ス

一七六

第百十六條 被拘留人ハ成ルヘク他人ト別異シ既決囚ト同所ニ置クヘカラス被拘留人ノ承諾アルトキハ此規定ニ依ラサルコトヲ得

被拘留人ニハ拘留ノ目的ヲ保全シ又ハ監獄ニ於ケル秩序ヲ維持スルニ必要ナル制限ノミヲ科スルコトヲ得

被拘留人ニハ自費ヲ以テ其身分及ヒ財産上ノ關係ニ相應スル便利及ヒ職業ヲ得ルコトヲ許ス但拘留ノ目的ニ適當シ及ヒ監獄中ノ秩序ヲ紊ラス又其保安ヲ害セサルトキニ限ル

身體拘束ハ被拘留人ノ特別危險性ニ依リ殊ニ他人ヲ保全スル爲メ必要ナリト認ムルトキ又ハ自殺

未遂若クハ逃走未遂ヲナシ又ハ其豫備ヲナシタルトキニ限り監獄ニ於テ被拘留人ニ施スコトヲ許ス公判ノ際被拘留人ハ之ヲ拘束スヘカラス
前數項ノ規定ニ從ヒ必要ナル處分ハ判事之ヲナス急迫ナル場合ニ於テ他ノ官吏ノナシタル命令ハ判事ノ追認ヲ受ク

一五〇

第百十七條 單ニ逃走ノ嫌疑ノタメ拘留ヲ命セラレタル被告人ハ保證ヲ立ツルコトニヨリ未決拘留ヲ免ルルコトヲ得

一五二

第百十八條 保證ハ現金若クハ有價證券ノ供託ニヨリ又ハ質權設定ニヨリ又ハ相當ナル人ノ保證ニヨリ之ヲナス

立ツヘキ保證ノ額及ヒ種類ハ判事ノ自由ナル意見ニヨリ之ヲ確定ス

第百十九條 保釋ヲ申立ツル被告人獨逸帝國内ニ住居セサルトキハ管轄裁判所ノ管轄地内ニ住居スル人ニ送達ノ受領ヲ委任スル義務アリ

一五三
一五四

第百二十條 被告人逃走ヲ準備シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セサルトキ又ハ新タニ生シタル狀況カ拘留ヲ必要トスルトキハ保證ヲ立テタルニ拘ラス之ヲ拘留ス

第百二十一條 未タ満期トナラサル保證ハ被告人拘留セラレタルトキ又ハ拘留狀ヲ取消シタルトキ又ハ言渡シタル自由刑ヲ執行シタルトキハ免除セラル

被告人ノ爲メニ保證ヲ立テタル者ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ被告人ヲ出頭セシムルトキ又ハ被告人ノ企テタル逃走ノ嫌疑ヲ正當トスル事實ヲ正當ノ時期ニ通知シテ拘留ヲナスコトヲ得セシムルトキハ保證ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第二百二十二條 未タ免除セラレサル保證ハ被告人審理又ハ言渡サレタル自由刑ノ執行ヲ免ルルトキハ國庫ニ歸屬ス

裁判前ニ被告人並ニ被告人ノ爲メニ保證ヲ立テタル者ニ意見ヲ述フヘキコトヲ催告スヘシ此裁判ニ對シ此等ノ者ハ即時抗告ノミヲナスコトヲ得、此抗告ニ付テノ裁判前關係者及ヒ檢事局ニ其中立ノ理由ヲ口述スヘキ機會並ニ搜查シタル事實ニ付テ解明スルノ機會ヲ與フヘシ

滿期ヲ言渡ス裁判ハ被告人ノ爲メニ保證ヲ立テタル者ニ對シテハ民事裁判官ノナシタル假執行ノ宣言アル終局判決ノ效力ヲ有ス抗告期間經過ノ後ハ確定シタル民事ノ終局判決ノ效力ヲ有ス

第二百二十三條 拘留狀ハ之ニ記載シタル拘留ノ理由消滅シタルトキ又ハ被告人無罪ノ言渡ヲ受ケ又ハ免訴セラルルトキハ之ヲ取消スヘシ

上訴ノ提起ニ依リ被告人ノ釋放ヲ遅延スルコトヲ得ス

第二百二十四條 未決拘留並ニ保證ニ關スル裁判ハ管轄裁判所之ヲナス

豫審判事ハ豫審中ニ拘留狀ヲ發シ及ヒ檢事局ノ同意ヲ得テ拘留狀ヲ取消シ並ニ被告人ヲ保釋スル

ノ權ヲ有ス檢事局カ右ノ同意ヲ拒ミ豫審判事ハ此異議ヲ受ケタル處分ヲナサントスルトキハ遲滯ナク裁判所ノ裁判ヲ求ムコトヲ要ス遅クトモ二十四時間内ニ之カ求メヲナスヘシ
公判手續開始ノ後急迫ナル場合ニ於テハ判決裁判所ノ裁判長同一ノ權ヲ有ス

第二百二十五條 公訴ノ提起前ト雖拘留狀ヲ發スヘキ正當ノ理由アルトキハ區裁判所判事ハ檢事局ノ申立ニヨリ又ハ遲延ノ恐レアルトキハ職權ヲ以テ拘留狀ヲ發スルコトヲ得

此拘留狀ヲ發シ及ヒ保證ヲ併セ未決拘留ニ關スル裁判ヲナスノ權ハ事件ノ裁判籍ノ歸スル地又ハ拘留セラルヘキ者ノ現在スル地ノ各區裁判所判事ニ屬ス

第二百十四條乃至第二百二十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十六條 公訴提起前ニ發シタル拘留狀ハ檢事局ノ申立アルトキ又ハ拘留狀執行後一週内ニ公訴ノ提起ナク權限アル判事拘留ノ繼續ヲ命令セサルトキ亦此命令アルモ區裁判所判事ニ於テ之ヲ知ラサリシトキハ之ヲ取消スヘシ

公訴ノ準備及ヒ提起ノ爲メ期間一週間ニテ不足ナルトキハ區裁判所判事ハ檢事局ノ申立ニヨリ一週間伸張スルコトヲ得重罪又ハ輕罪ニ係ルトキハ檢事局ノ再度ノ申立ニヨリ更ニ二週間伸張スルコトヲ得

第二百二十七條 現行犯ヲ發見セラレ又ハ追行セラルル者逃走ノ嫌疑アルトキ又ハ其身元ヲ即時ニ確

定スルコト能ハサルトキハ何人ト雖判事ノ命令ナクシテ之ヲ逮捕スル權ヲ有ス
檢事局及ヒ警察官吏ハ拘留狀ノ條件アリテ遅延ノ恐レアルトキモ亦逮捕ヲナスノ權ヲ有ス

告訴アルトキニ限り訴追スル犯罪行為ニアリテモ逮捕ハ告訴ノ有無ニ關スルコトナシ

第二百二十八條 被逮捕者ヲ再ヒ放免セサルトキニ限り逮捕ヲナシタル地ノ區裁判所判事ニ直ニ引致スヘシ區裁判所判事ハ逮捕ヲ理由ナキモノト認メ又ハ其理由消滅シタリト認ムルトキハ釋放ヲ命ス其他ノ場合ニ於テハ拘留狀ヲ發ス拘留狀ニハ第二百二十六條ノ規定ヲ適用ス

第二百二十九條 被逮捕者ニ對シ既ニ公訴ヲ提起シタルトキハ即時ニ又ハ最初引致ヲ受ケタル區裁判所判事ノ處分ニ基キ被逮捕者ヲ管轄裁判所又ハ豫審判事ニ引致ス引致ヲ受ケタル裁判所又ハ豫審判事ハ遅クモ引致ノ翌日ニ被逮捕者ノ釋放又ハ拘留ニ付キ裁判スルコトヲ要ス

第二百三十條 告訴アルトキニ限り訴追スル犯罪行為ノ嫌疑ノタメ告訴前ニ拘留狀ヲ發シタルトキハ直チニ告訴權利者ニ拘留狀ヲ發シタル旨ヲ告知スヘシ告訴權利者數名アルトキハ少クモ其内一名ニ告知スルコトヲ要ス此拘留狀ニモ亦第二百二十六條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十一條 拘留セラルヘキ者逃走又ハ潜匿シタルトキハ判事並ニ檢事局ハ拘留狀ニ基キ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

被逮捕者監獄ヲ脱走シ又ハ其他看守ヲ避クルトキニ限り豫メ拘留狀ヲ發スルコトナク逮捕狀ニヨ

リ進行スルコトヲ得此場合ニ於テハ警察官署モ亦逮捕狀ヲ發スルノ權ヲ有ス
逮捕狀ニハ成ルヘク拘留セラルヘキ者ノ人相及ヒ其責ニ歸セラレタル犯罪行為並ニ引渡ヲ受クヘキ監獄ヲ記載スヘシ

第二百三十二條 拘留狀又ハ逮捕狀ニヨリ逮捕シタル者ヲ遅クモ逮捕ノ翌日ニ管轄權アル判事ニ引渡スコト能ハサルトキハ其求メニヨリ直ニ之ヲ最寄ノ區裁判所判事ニ引致スヘシ

其訊問ハ遅クモ逮捕ノ翌日ニ之ヲナス被逮捕者訊問ノ際被訴追者ニアラサルコト又ハ管轄官廳カ其訴追ヲ取消シタルコトヲ證明シタルトキハ區裁判所判事ハ之ヲ釋放スヘシ

第十章 嫌疑者ノ訊問 第二百三十三條 第二百三十六條

第二百三十三條 嫌疑者ハ訊問ノタメ書面ヲ以テ之ヲ呼出ス

呼出狀ニハ出頭セサルトキハ拘引スヘキ旨ヲ豫告スヘシ

第二百三十四條 拘留狀ヲ發スヘキ正當ノ理由アルトキハ直チニ嫌疑者ヲ引致スルコトヲ得
拘引狀ニハ嫌疑者ヲ明細ニ記載シ且ツ其責ニ歸セラレタル犯罪行為並ニ拘引ノ理由ヲ開示スヘシ

第二百三十五條 被拘引者ハ判事直ニ之ヲ訊問ス之ヲナスコト能ハサルトキハ其訊問ヲナスニ至ルマテ拘留スルコトヲ得但翌日ヲ超ユルコトヲ得ス

第三百三十六條 第一回ノ訊問ヲ初ムル際嫌疑者ニ如何ナル犯罪行為カ其責ニ歸セラルルヤヲ開示スヘシ嫌疑者ニ其嫌疑ニ付キ答辯セント欲スルコトアリヤ否ヤヲ問フヘシ
 訊問ハ嫌疑者ニ其被リタル嫌疑ノ理由ヲ排除シ其利益トナルヘキ事實ヲ申立ルノ機會ヲ與フヘシ
 嫌疑者ノ第一回訊問ノ際ハ同時ニ其身上ノ關係ヲ探知スルコトニ注意スヘシ

第十一章 辯護 自第三百三十七條至第五百十條

一七九

第三百三十七條 嫌疑者ハ訴訟手續中何時タリトモ辯護人ノ補佐ヲ用ユルコトヲ得

嫌疑者法律上代理人ヲ有スルトキハ此者モ亦獨立シテ辯護人ヲ選フコトヲ得

一七九

第三百三十八條 獨逸裁判所々屬ノ辯護士並ニ獨逸大學校ノ法律學教師ハ辯護人ニ選ハルルコトヲ得

其他ノ人ハ裁判所ノ許可アルトキニ限り私選辯護人トナルコトヲ得辯護ヲ必要トスル場合ニ於テ被選者辯護人トナリ得ル資格者ニアラサルトキハ其資格アル者ト共同スルニアラサレハ私選辯護人トナルコトヲ得ス

第三百三十九條 辯護人トシテ選ハレタル辯護士ハ被告ノ承諾ヲ得テ少クトモ二年司法事務ヲ修習シ

一七九

タル司法官試補ニ其辯護ヲ委任スルコトヲ得

第四百十條 第一審トシテノ帝國裁判所又ハ陪審裁判所ニ於テ辯論スヘキ事件ニ付テハ必ラス辯護ヲ要ス

辯護ヲ要ス

第一審トシテノ地方裁判所ニ於テ辯論スヘキ事件ニ付テハ左ノ場合ニ於テノミ必ラス辯護ヲ要ス

第一 被告人、聲又ハ啞又ハ滿十六歳ニ達セサルトキ

第二 被告事件重罪ニシテ嫌疑者又ハ其法律上代理人ヨリ辯護人ノ官選ヲ申立テタルトキ

犯罪行為單ニ累犯ノ爲メ重罪トナル場合ニハ此規定ヲ適用セス

第一項及ヒ第二項第一號ノ場合ニ於テハ未タ辯護人ヲ選ハサル被告人ノ爲メニ第九十九條ニ規定シタル催告ヲナシタル後直ニ辯護人ヲ官選ス第二項第二號ノ場合ニ於テハ催告後三日ノ期間内ニ其申立ヲナス

第四百十一條 第四百十條ニ掲ケタル場合以外ニ於テハ裁判所及ヒ急迫ナルトキハ其裁判長申立ニ

ヨリ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ官選スルコトヲ得

第四百十二條 辯護人ノ官選ハ準備訴訟手續中ト雖之ヲナスコトヲ得

第四百十三條 官選ハ其後他ノ辯護人ヲ選ヒ辯護人之ヲ承諾シタルトキハ之ヲ取消スヘシ

第四百十四條 官選辯護人ハ裁判所ノ裁判長ニ於テ其裁判所所在地ニ住所ヲ有スル辯護士ノ中ヨリ

之ヲ選定ス、準備訴訟手續ニアリテハ區裁判所判事之ヲ選定ス

判事ニ任セラレサル司法官並ニ司法官候補ハ亦辯護人トシテ選定セラルルコトヲ得

第四百四十五條 必要的辯護ノ場合又ハ第四百四十一條ニ從ヒ辯護人ヲ官選シタル場合ニ辯護人公判ニ出頭セサルトキ不時ニ退廷シタルトキ又ハ辯護ヲ拒ミタルトキハ裁判長ハ被告ノタメニ直チニ他ノ辯護人ヲ官選スヘシ但裁判所ハ亦辯論ノ中止ヲ決定スルコトヲ得

新タニ選定シタル辯護人ヨリ辯護準備ノタメニ必要ナル時日ナキ旨ヲ申出ツルトキハ辯論ノ中斷又ハ中止ヲナスヘシ

辯護人ノ過失ニヨリ中止ヲ必要トスルトキハ之ニヨリテ生シタル費用ヲ辯護人ニ負擔セシム但職務上ノ責罰ヲ留保ス

二七九ノ
第四百四十六條 數名ノ嫌疑者ノ辯護ハ辯護ノ職務ニ矛盾セサルトキニ限り共通辯護人一名ニテ之ヲナスコトヲ得

一八〇
第四百四十七條 辯護人ハ豫審終結ノ後又ハ豫審ヲ經サルトキハ公訴狀ヲ裁判所ニ提出シタル後ハ裁判所ニ存スル訴訟記録ヲ閱覽スルノ權ヲ有ス

此時期前ト雖審理ノ目的ニ危害ヲ及ホスコトナキニ限り裁判所ノ審理記録ノ閱覽ヲ辯護人ニ許スヘシ

嫌疑者ノ訊問調書、鑑定人ノ鑑定及ヒ辯護人ノ立會フコトヲ得ル裁判所ノ行爲ニ付テノ調書ノ閱覽ハ辯護人ニ對シ如何ナル場合ト雖之ヲ拒ムコトヲ得ス

裁判長ノ意見ニヨリ證據物ヲ除クノ外訴訟記録ヲ辯護人ノ住居ニ送致スルコトヲ得

第四百四十八條 拘留セラレタル嫌疑者ハ辯護人ト書而上ノ往復ヲナシ又對談スルコトヲ得

公判手續ヲ開始セサル間ハ判事ハ嫌疑者ニ閱覽ヲ許スヘカラサル事項ヲ記載シタル書面ノ發送ヲ拒絶スルコトヲ得

此時期マテ判事ハ單ニ逃走ノ嫌疑ニ止マラサル理由アルタメ拘留シタルトキニ限り辯護人トノ面語ニ裁判所員一名立會フヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

一八一
第四百四十九條 被告ノ夫ハ公判ニ於テ其保佐人トナルコトヲ得及ヒ其求メニヨリ之ヲ訊問ス被告ノ法律上ノ代理人ニ付テモ亦同シ

準備訴訟手續ニ於テハ此種ノ保佐ノ許否ハ判事ノ意見ニ任カス

第五百十條 辯護人ニ選定セラレタル辯護士ニハ其爲シタル辯護ニ付キ手数料規則ニ從ヒ手数料ヲ國庫ヨリ支辨ス

費用負擔ノ言渡ヲ受ケタル被告ニ對スル求償ヲ留保ス

第二編 第一審訴訟手續

第一章 公 訴 自第五十一條至第五十五條

一八四

第一百五十一條 裁判所ハ訴訟ノ提起アルニアラサレハ審理ヲ開始スルコトヲ得ス

一

第一百五十二條 公訴ノ提起ハ検事局之ヲ爲ス

一八

検事局ハ法律ニ別段ノ定メアルニアラサレハ裁判上處罰セラレ且訴追セラルヘキ凡ラノ行爲ニ付
キ事實上ノ憑據アルトキハ處罰及訴追ノ手續ヲ爲ス義務アリ

一八四

第一百五十三條 審理及裁判ハ訴狀ニ記載シタル行爲及訴訟ニヨリ嫌疑ヲ受ケタル人ニ對シテノミ之
ヲナス

此制限内ニ於テ裁判所ハ獨立ノ行動ヲナスノ權利ヲ有シ且ツ義務ヲ負フモノトス殊ニ刑法ノ適用

ニ方リテハ中立ニ拘束セラルルコトナシ

第一百五十四條 審理開始ノ後ハ公訴ヲ取下ルコトヲ得ス

第一百五十五條 本法ニ所謂被告人トハ公訴ヲ提起セラレタル嫌疑者ヲ謂ヒ、被告トハ公判手續開始

ノ決定ヲ受ケタル嫌疑者又ハ被告人ヲ謂フ

第二章 公訴ノ準備 自第五十六條至第七十五條

四九

第一百五十六條 犯罪ノ告發又ハ訴追ノ告訴ハ検事局、警察署、警察官吏、及區裁判所判事ニ口頭又

五一

ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得、口頭ノ告發ハ之ヲ公證ス

五二

告訴アルトキニ限り訴追スルコトヲ得ル犯罪ニアリテハ其告訴ハ裁判所又ハ検事局ニ對シテハ書

面又ハ調書ニヨリ之ヲナシ其他ノ官廳ニハ書面ヲ之ヲナスコトヲ要ス

第一百五十七條 變死者ト認ムヘキ憑據アルトキ又ハ不明者ノ屍體ヲ發見シタルトキハ警察署及市町

村役場ハ即時之ヲ検事局又ハ區裁判所判事ニ通知スルコトヲ要ス

埋葬ハ検事局又ハ區裁判所判事ノ許可アルトキニ限り之ヲナスコトヲ得

四六

第一百五十八條 検事局ハ告發又ハ其他ノ方法ニヨリ犯罪ノ嫌疑ヲ知りタルトキハ直チニ公訴ヲ提起

スヘキヤ否ヤヲ決定スル爲メ其事情ヲ調査セサルヘカラス

検事局ハ歸責ノ爲メニスル狀況ノミナラス免責ノ爲メニスル事由ヲモ穿鑿シ且ツ摺滅ノ恐れアル

證據調ヲナスコトニ注意セサルヘカラス

四七

第一百五十九條 前條ニ掲ケタル目的ノ爲メ検事局ハ總テノ官廳ニ報告ヲ請求シ宣誓質問ヲ除クノ外
各種ノ捜査ヲ自ラナシ又警察署及警察官吏ヲシテナシムルコトヲ得、警察署及警察官吏ハ檢事

局ノ囑託又ハ委任ニ從フヘキ義務アルモノトス

第六十條 検事局ハ判事カ審理行爲ヲナスコトヲ必要ナリト認ムルトキハ其行爲ヲ爲スヘキ地ノ區裁判所判事ニ其申立ヲナス

區裁判所判事ハ其場合ノ事情ニヨリ申立アリタル行爲ノ適否ヲ調査セサルヘカラス

第六十一條 警察署及ヒ警察官吏ハ犯罪ヲ捜査シ且ツ事實ノ曖昧トナルヲ防ク爲メ猶豫スヘカラサル總テノ處分ヲナスヘキモノトス

警察署及警察官ハ其事件ヲ速カニ検事局ニ送致ス判事ノ審査行爲ヲ急速ニ要スルトキハ直接ニ區裁判所判事ニ送致スルコトヲ得

第六十二條 職務執行ノ際其指揮ヲナス官吏ハ職務行爲ヲ故意ニ妨害シ又ハ其權限内ニ於テ發スル命令ニ抵抗スル者ヲ取押ヘ其職務行爲ヲ終ルマテ留置セシムルノ權ヲ有ス但其翌日ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十三條 遅延ノ恐レアル場合ニハ區裁判所判事ハ必要ナル審理行爲ヲ職權ヲ以テナサハルヘカラス

第六十四條 嫌疑者區裁判所判事ノ訊問ヲ受ケ且ツ訊問ノ際免責ノタメ各種ノ證據調ヲ申立ツルトキハ區裁判所判事ハ之ヲ必要ナリト認ムルトキニ限り證據湮滅ノ恐レアルトキ又ハ證據調カ嫌

疑者放免ノ理由トナリウルトキハ證據調ヲナスヘシ

證據調ヲ他ノ區裁判所管轄地ニ於テナスヘキトキハ判事ハ其地ノ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第六十五條 第六十三條第六十四條ノ場合ニ於テ其他ノ處分ハ検事局ニ屬ス

第六十六條 區裁判所判事ノ爲スヘキ審査行爲ノ登錄及裁判所書記ノ立會ハ豫審ニ關スル規定ニ從テ之ヲナス

第六十七條 判事ノ審理ニ於ケル検事局ノ關與ニ關シテハ豫審ニ關スル規定ヲ適用ス

嫌疑者、其資格ニ於テ判事ヨリ訊問ヲウケ又ハ未決拘留ニ付セラルトキハ嫌疑者其辯護人及嫌疑者ノ指名シタル鑑定人ニ付テモ亦同シ

第六十八條 捜査ノ結果公訴ヲ提起スヘキ充分ノ理由アルトキハ、検事局ハ裁判所ニ豫審ヲ求ムル旨ノ申立又ハ公訴狀ヲ裁判所ニ呈出シテ公訴ヲ提起ス

其他ノ場合ニハ、検事局ハ訴訟手續ノ停止ヲ命シ且ツ嫌疑者其資格ニ於テ判事ヨリ訊問ヲウケ又ハ拘留狀ヲ發セラレタルトキハ、嫌疑者ニ訴訟手續ヲ停止シタル旨ヲ通知ス

第六十九條 検事局其受ケタル公訴提起ノ申立ニ從ハサルトキ又ハ捜査ノ終リタル後訴訟手續ノ停止ヲ命スルトキハ申立人ニ對シ其理由ヲ開示シテ裁決ヲナスヘシ

第七十條 申立人同時ニ被害者ナルトキハ此裁決ニ對シ告知後二週間内ニ檢事局ノ本屬官吏ニ抗告ヲナシ之ヲ却下スル裁決ニ對シテハ告知後一ヶ月内ニ裁判所ノ裁判ヲ求ムル申立ヲナスコトヲ得

申立書ニハ公訴提起ノ理由トナルヘキ事實及證據方法ヲ記載シ辯護士之ニ署名スルコトヲ要ス申立書ハ裁判管轄權アル裁判所ニ之ヲ提出ス
其裁判所ハ帝國裁判所ニ屬スル事件ニアリテハ帝國裁判所其他ノ事件ニアリテハ高等地方裁判所之ヲ管轄ス

第七十一條 裁判所ノ請求アルトキハ檢事局ハ是マテナシタル審理ヲ之ニ呈出セサルヘカラス
裁判所ハ期間ヲ定メテ辯明ノ爲メ嫌疑者ニ申立ヲ通知スルコトヲ得

裁判所ハ裁決準備ノタメ捜査ヲ命シ且ツ捜査ヲナスコトヲ其職員ノ一名豫審判事又ハ區裁判所判事ニ委任スルコトヲ得

第七十二條 公訴ヲ提起スヘキ充分ノ理由ナキトキハ裁判所ハ申立ヲ棄却シ、申立人、檢事局及嫌疑者ニ其旨ヲ通知ス
申立ヲ棄却シタルトキハ、公訴ハ新ナル事實又ハ證據方法ニ基クトニ限り更ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第七十三條 裁判所ハ之ニ反シ申立ヲ理由アリト認ムルトキハ公訴ノ提起ヲ決定ス、此決定ノ執行ハ檢事局之ヲ爲ス

第七十四條 裁判所ハ決定ニヨリ申立ニ付テノ裁判前申立ニ付テノ訴訟手續及審理ニヨリ國庫、及嫌疑者ニ生スル豫見費用ニ付キ保證ヲ立ツルコトヲ申立人ニ命スルコトヲ得、保證ハ現金又ハ有價證券ヲ供託シテ之ヲナス、保證額ハ裁判所ノ自由ナル意見ニ從テ之ヲ定ム、裁判所ハ同時ニ保證ヲ立ツ可キ期間ヲ定メサルヘカラス
一定ノ期間内ニ保證ヲ立テサルトキ裁判所ハ申立ヲ取下ケタルモノト宣言スヘシ

第七十五條 申立ニ付テノ訴訟手續ニヨリ生シタル費用ハ第七十二條及第七十四條第二項ノ場合ニ於テハ申立人ヲシテ負擔セシム

第三章 裁判所ノ豫審

自第七十六條至第九十五條

第七十六條 豫審ハ帝國裁判所又ハ陪審裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事事件ニ對シ之ヲナス、地方裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事事件ニ對シテハ左ノ場合ニ限り豫審ヲナス、

第一 檢事局ヨリ豫審ノ申立アリタルトキ

第二 被告人ヨリ第九十九條ニ從ヒ豫審ノ申立テアリ且ツ其辯護準備ノタメ豫審ヲ必要ナリト

スル重大ノ理由ヲ主張スルトキ

四六

六六

參審裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ對シテハ關聯ノ結果併合シタル場合ノ外(第五條)豫審ヲ許サス

第七十七條 豫審ノ開始ヲ求ムル檢事局ノ申立書ニハ嫌疑者及其犯罪事實ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十八條 申立ハ裁判所ノ管轄違ナルコト又ハ刑事訴訟追若クハ豫審ヲ許ササルコト(第七條)又ハ申立書ニ掲ケタル犯罪事實カ刑法ニ該當セサルコトヲ理由トスルニアラサレハ之ヲ却下スルコトヲ得ス却下ニ付テハ裁判所ノ決定ヲ要ス

決定前被告人ヲ審訊スルコトヲ得

第七十九條 檢事局ノ申立ニヨリ豫審ヲ開始シタル處分ニ對シ被告人ハ第七十八條第一項ニ掲ケタル理由ニ基キ異議ヲ申立ツルコトヲ得異議ニ付テハ裁判所之ヲ裁判ス

裁判所ノ決定ニヨリ豫審ヲ開始シ且ツ豫メ被告人ヲ審訊シタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

第八十條 第八十條第二項及第七十九條第一項ノ場合ニ於テ被告人ヨリ申立テアリタル管轄(第十條)ノ抗辯ヲ棄却スル裁判所ノ決定ニ對シ被告人ハ即時抗告ヲナスコトヲ得

其他ノ場合ニ於テ被告人ノ異議ヲ棄却シ又ハ豫審ノ開始ヲ命シタル裁判所ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八十一條 豫審、開始ヲ求ムル檢事局又ハ被告人ノ申立ヲ却下シタル裁判所ノ決定ニ對シテハ

六七

即時抗告ヲナスコトヲ得

第八十二條 豫審ハ豫審判事之ヲ開始シ且ツ之ヲ爲ス

第八十三條 地方裁判所ハ檢事局ノ申立ニ基キ決定ヲ以テ區裁判所判事ニ豫審ノ執行ヲ委任スルコトヲ得各個ノ審理行爲ヲナスタメ豫審判事ハ區裁判所判事ニ囑托スルコトヲ得豫審判事ト同一所在地ニ在ル區裁判所判事ニハ此規定ヲ適用セス

一一二

第八十四條 帝國裁判所ニ於テハ各刑事事件毎ニ豫審判事ヲ其職員中ヨリ所長之ヲ任ス所長ハ他ノ獨逸裁判所ノ各職員及各區裁判所判事ヲモ豫審判事ニ任シ又ハ豫審判事ノ職務ノ一部ニ付キ其代理ヲ命スルコトヲ得

九二

豫審判事及其代理人ハ各個ノ豫審行爲ヲナスコトヲ區裁判所判事ニ囑托スルコトヲ得

第八十五條 被告人、證人、及鑑定人ヲ訊問スルトキ並ニ檢證ノ際ニハ豫審判事ハ裁判所書記一名ヲ立會ハシムヘシ急迫ナル場合ニ於テハ豫審判事ハ宣誓ヲナサシムヘキ者ヲ裁判所書記トシテ立會ハシムルコトヲ得

九五

第八十六條 各個審理行爲ニ付キ調書ヲ作成ス豫審判事及立會裁判所書記之ニ署名ス調書ニハ審理ノ場所及日時並ニ干與又ハ關係シタル人ノ氏名ヲ記載シ且ツ訴訟手續ノ重要ナル方式ヲ履踐シタルヤ否ヤヲ明瞭ナラシムヘシ

調書ハ審理ニ關係シタル者利害ヲ有スルトキニ限り其承諾ヲ得ル爲メ之レニ讀開カセ又ハ通閱ノ
タメ之ヲ示スヘキモノトス承諾アリタルトキハ其旨ヲ記入ス其調書ニハ關係者ヲシテ署名セシム
若シ能ハサルトキハ其理由ヲ記載スヘシ

第百八十七條 警察官署及警察官吏ハ各個ノ處分ノ實行又ハ搜查ヲナスコトニ付キ豫審判事ノ囑托
又委任ニ應スルノ義務ヲ有ス

第百八十八條 豫審ハ公判手續ヲ開始スヘキヤ又ハ被告人ヲ免訴スヘキヤニ付キ裁判ヲナスタメ必
要ナルモノノ外ニ及ホスヘカラス
公判マテニ湮滅スル恐レアル證據、又ハ被告人ノ辯護準備ノタメ必要ナリトスル證據調ハ豫審ニ
於テモ亦之ヲ採用ス

第百八十九條 豫審中ニ檢事局ノ申立書ニ記載セラレサル人又ハ行爲ニ付キ豫審ヲ及ホスヘキ理由
生シタルトキハ豫審判事ハ急迫ナル場合ニ於テハ之ニ關シ必要ナル審理行爲ヲ職權ヲ以テナササ
ルヘカラス

其他ノ處分ハ前項ノ場合ニ於テモ亦檢事局ニ屬ス

第百九十條 豫審ニ於テハ豫審開始前訊問セラレタル場合ト雖被告人ヲ訊問スヘシ此場合ニ於テ
ハ豫審開始ノ處分ヲ被告人ニ告知ス

訊問ハ檢事局及辯護人ノ居ラサル所ニ於テ之ヲナス

第百九十一條 檢證ヲナストキハ檢事局、被告人及辯護人ニ其審理ニ立會フコトヲ許スヘシ
差支又ハ特ニ遠隔ノタメ公判ニ出頭シ難キコトヲ豫知シタル證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキトキ亦
同シ

立會權アル者ニハ豫メ期日ヲ通知スヘシ但之カタメ事件ノ妨ケトナルトキハ此限ニアラス
拘留中ノ被告人ハ拘留地ノ裁判所ニ於テナスヘキ期日ニ限り立會ヲ請求スルコトヲ得

立會權ヲ有スル者ハ差支ノタメ期日ノ變更ヲ請求スルコトヲ得ス

第百九十二條 判事ハ證人カ被告人ノ面前ニ於テ眞實ヲ述ヘサル恐レアルトキハ被告人ニ對シ審理
ニ立會フコトヲ禁スルコトヲ得

第百九十三條 鑑定人ノ立會ヲ以テ檢證ヲナス場合ニハ被告人ハ公判ノタメ推薦スヘキ鑑定人ヲ期
日ニ呼出サレンコトヲ申立ツルコトヲ得、判事其申立ヲ却下スルトキハ自ら呼出サシムルコトヲ
得

被告人ノ指名シタル鑑定人ニハ判事ノ撰任シタル鑑定人ノ行爲ノ妨ケトナラサルトキニ限り檢證
及必要ナル審理ニ干與スルコトヲ許ス

第百九十四條 檢事局ハ常ニ一件記録ヲ閱覽シテ豫審ノ狀況ヲ知り且ツ至當ト認ムル申立ヲナスコ

トヲ得但之ニヨリ訴訟手續ヲ遲滯スルコトヲ許サス

第百九十五條 豫審判事ニ於テ豫審ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ申立ヲナサシムル爲メ其書類ヲ檢事局ニ送致ス

檢事局ヨリ豫審補充ノ申立アリタルトキハ豫審判事ハ其申立ニ同意スルコトヲ欲セサルトキハ裁判所ノ裁判ヲ求ムヘシ
豫審ノ終結ハ被告人ニ通知ス

第四章 公判手續開始ニ付テノ裁判

自第百九十六條至第二百十條

第百九十六條 豫審終結シタルトキハ裁判所ニ於テ公判手續ヲ開始スヘキヤ否ヤ被告人ヲ免訴スヘキヤ否ヤ訴訟手續ヲ一時停止スヘキヤ否ヤヲ裁判ス

檢事局ハ此目的ノ爲メ其申立ト共ニ書類ヲ裁判所ニ提出ス公判手續開始ノ申立ハ公訴狀ヲ提出シテ之ヲナス

第百九十七條 豫審ヲ經スシテ檢事局ヨリ直チニ公訴ヲ提起スル場合ニ於テ事件カ參審裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ公訴狀及一件書類ヲ區裁判所判事ニ提出ス其他ノ場合ニ於テハ之ヲ地方裁判所ニ提出ス

第百九十八條 公訴狀ニハ公訴事實適用スヘキ法條證據方法及ヒ公判ヲナスヘキ裁判所ヲ記載スヘシ

事件カ帝國裁判所、陪審裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ審理スヘキモノナルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ外捜査ノ重要ナル結果ヲモ記載スルコトヲ要ス

第百九十九條 裁判長ハ公訴狀ヲ被告人ニ通知シ同時ニ一定ノ期間内ニ於テ豫審又ハ各個ノ公判前ニ於ケル證據調ヲナスコトヲ申立ントスルヤ又ハ公判手續開始ニ對シ異議ヲ申立ントスルヤ否ヤヲ陳述スヘキ旨ヲ催告スヘシ

豫審ヲ經タルトキハ前項ノ催告ヲ相當ニ制限スヘシ
申立及異議ニ付テハ裁判所之ヲ決定ス、此決定ニ對シテハ第百八十條第一項及第百八十一條ノ規定ニ從テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得

參審裁判所ニ於テ審理スヘキ事件ニハ本條ノ規定ヲ適用セス

第二百條 事件ヲ一層明瞭ナラシムル爲メ裁判所ハ豫審ノ補充ヲ命スルコトヲ得豫審ヲナサザリシトキハ豫審ノ開始又ハ各個ノ證據調ヲ命スルコトヲ得、區裁判所判事モ亦證據調ヲ命スルコトヲ得

此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百一條 裁判所ハ豫審ノ結果又ハ豫審ヲ經サルトキハ準備手續ノ結果ニ照シ被告人カ犯罪ヲナシタリトノ嫌疑十分ナル場合ニ公判手續ノ開始ヲ決定ス

第二百二條 裁判所ニ於テ公判手續ヲ開始セスト決定スルトキハ決定中ニ其基本タル事實上又ハ法律上ノ理由ヲ明示スヘシ

豫審ヲ經タルトキハ被告人ニ免訴ヲ言渡スヘシ
決定ハ被告人ニ告知スヘシ

第二百三條 被告人不在ノ爲メ又ハ犯罪ヲナシタル後精神病ニ罹リタルタメ以後ノ訴訟手續ヲナスコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ一時訴許手續ヲ停止スルコトヲ得

第二百四條 裁判所ハ決定ヲナスニ付キ検事局ノ申立ニ羈束セラルルコトナシ

第二百五條 公判手續開始決定ニハ犯罪事實適用スヘキ法條並ニ公判ヲナスヘキ裁判所ヲ記載スヘシ

裁判所ハ同時ニ職權ヲ以テ未決拘留ヲ命スヘキヤ又ハ拘留スヘキヤヲ決定スヘシ

第二百六條 検事局ヨリ被告人ヲ免訴スヘキ旨ヲ申立タルニ拘ラス裁判所ニ於テ公判手續ノ開始ヲ決定シタルトキハ検事局ハ裁判所ノ決定ニ相當スル公訴狀ヲ提出セサルヘカラス

第一百九十九條ノ規定ハ此場合ニモ亦之ヲ適用ス但被告カ公判前ニ各個ノ證據調ヲナスコトヲ申立テント欲スルヤ否ヤヲ陳述スヘキコトノミニ付キ催告ヲナスモノトス

第二百七條 地方裁判所ハ帝國裁判所ヲ除クノ外各階級ノ判決裁判所ニ先立テ公判手續ヲ開始スルコトヲ得、地方裁判所ニ於テ帝國裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ト認ムルトキハ裁判ヲナサシムルタメ一件記録ヲ検事局ヲ經テ帝國裁判所ニ提出ス

區裁判所判事ニ於テ受理事件カ參審裁判所ノ管轄ヲ超ユルモノナリト思料スルトキハ裁判ヲナサシムルタメ一件記録ヲ検事局ヲ經テ地方裁判所ニ提出スヘシ

第二百八條 準備訴訟手續カ同一ノ人ニ對スル數個ノ犯罪行爲ニ係ル場合ニシテ刑ヲ量定スルニ付キ各犯罪事實ヲ確定スルコトヲ要セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其事實ノ一部ニ付キテノ訴訟手續ヲ一時ニ停止スルコトヲ得

検事局ハ判決確定ノ後三ヶ月内ニ停止決定ノ取消ヲ申立ルコトヲ得但時効ニ罹ラサルトキニ限ル

第二百九條 公判手續開始ノ決定ニ對シ被告ヨリ不服ヲ申立ルコトヲ得ス
公判手續ノ開始ヲ却下シ又ハ検事局ノ申立ニ違ヒ下級裁判所ニ送致スルコトヲ言渡シタル決定ニ對シ検事局ハ即時抗告ヲナスコトヲ得

第二百十條 公判手續ノ開始ヲ最早不服ヲ申立ツルコトヲ得サル決定ヲ以テ却下シタルトキハ新

ナル事實又ハ證據方法ニ依ルニアラサレハ再ヒ訴ヲ受理スルコトナシ

第二百一十一條 參審裁判所ニ於テハ嫌疑者自首シタルトキ逮捕ニ依リテ之ヲ裁判所ニ引致シタルトキ又ハ違警罪事件ナルトキハ起訴狀及公判手續開始ニ付テノ裁判ナクシテ公判ニ着手スルコトヲ得公訴ノ要旨ハ自首又ハ引致ノ場合ニ於テハ公判始末書ニ記載シ其他ノ場合ニ於テハ嫌疑者ノ呼出狀中ニ記載ス

區裁判所判事ハ嫌疑者ヲ引致シタル場合ニ於テ違警罪事件ニシテ嫌疑者ニ於テ犯罪行為ヲ自白スルトキハ檢事局ノ承諾ヲ得テ參審官ノ立會ナクシテ公判ヲ開クコトヲ得區裁判所判事ノ裁判及判決ニ對シテハ參審裁判所ノ裁判及判決ニ對スルト同一ノ上訴ヲナスコトヲ得

第五章 公判ノ準備

自第二百一十二條至第二百二十四條

第二百一十二條 公判ノ期日ハ裁判長之ヲ定ム

第二百一十三條 公判ノタメニ必要ナル呼出及證據方法ニ供スル物件ノ取寄ハ檢事局之ヲナス

第二百一十四條 公判手續開始ニ付テノ決定ハ遅クトモ呼出狀ト同時ニ被告ニ送達スルコトヲ要ス

第二百一十五條 拘留セサル被告ノ呼出狀ニハ故ナクシテ出頭セサル場合ニハ拘留又ハ引致スヘキ旨ヲ豫戒スヘシ第二百三十一條ノ場合ニ於テハ之ヲナササルコトヲ得

拘留セラレタル被告ノ呼出ハ第三十五條ニ從ヒ公判期日ヲ告知シテ之ヲナス此場合ニハ被告ニ公判ニ關スル辯護ニ付キ申立ヲナスヤ及如何ナル申立ヲナスヤヲ問フヘシ

第二百一十六條 呼出狀ノ送達(第二百一十五條)ト公判期日トノ間ニハ少クトモ一週間ヲ存セサルヘカラス

此期間ヲ守ラサルトキハ被告ハ公判手續開始決定ノ朗讀ニ至ルマテ審理ノ中止ヲ求ムルコトヲ得
第二百一十七條 被告ノ外、官選辯護人ハ毎ニ之ヲ呼出スヘク選定辯護人ハ其選定ヲ裁判所ニ届出タルトキニ限り之ヲ呼出スヘキモノトス

第二百一十八條 被告カ公判ノタメ證人又ハ鑑定人ノ呼出ヲ求メ若クハ其他ノ證據方法ノ取寄ヲ求ムルトキハ證據調ヲナスヘキ事實ヲ示シ其申立ヲ裁判長ニナスヘシ
被告ノ證據申立ヲ許シタルトキハ其旨ヲ檢事局ニ通知ス

第二百一十九條 裁判長カ或ル人ノ呼出ヲ求ムル申立ヲ却下シタルトキハ被告ハ其人ヲ直接ニ呼出サシムルコトヲ得被告ハ豫メ申立ヲナササルモ其權アルモノトス
直接ニ呼出サレタル人ハ呼出ノ際旅費及時日消費ニ付キ法律上ノ賠償ヲ現金ヲ以テ受取リタルトキ又ハ之ヲ裁判所書記ニ供託シタル旨ノ證明ニアラサレハ出頭スル義務ナキモノトス
直接ニ呼出サレタル人ノ訊問カ事件ヲ明瞭ナラシムル爲メニ必用ナリシコト公判ニ於テ判然スルトキハ裁判所ハ申立ニヨリ之ニ法律上ノ賠償ヲ國庫ヨリ給スヘキ旨ヲ命セサルヘカラス

第二百二十條 裁判長ハ職權ヲ以テ證人及鑑定人ノ呼出並ニ其他ノ證據方法ノ取寄ヲ命スルコトヲ得

第二百二十一條 被告ハ其直接ニ呼出シタル證人及鑑定人又ハ公判ニ出スヘキ證人及鑑定人ノ氏名住所、又ハ居所ヲ遲滞ナク檢事局ニ届出ツルコトヲ要ス

檢事局ハ公訴狀ニ指名シ若クハ被告ノ申立ニヨリ呼出シタル證人及鑑定人ノ外、猶ホ其他ノ人ヲ呼出ストキハ裁判長ノ命令(第二百二十條)若クハ自己ノ決定ニ依ルト否トヲ問ハス被告ニ對シ前項ト同一ノ義務ヲ負フ

第二百二十二條 證人又ハ鑑定人カ長病癒期不明ノ疾病不具又ハ其他避クヘカラサル事故ノタメ公判ニ出頭スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ其訊問ヲ受託判事又ハ受命判事ニ命スルコトヲ得受命判事又ハ受託判事ハ宣誓ヲ許シタル場合ニ限り宣誓セシメテ之ヲ訊問ス

遠隔ノ爲メ特ニ出頭シ難キ證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキトキ亦同シ

第二百二十三條 此訊問ノタメ定メタル期日ハ遲延ノ恐レナキトキニ限り豫シメ檢事局被告及ヒ辯護人ニ通知ス訊問ニハ此等ノ者ノ立會ヲ必要トセス、作製シタル調書ハ檢事局及ヒ辯護人ニ呈示ス

拘留セラレタル被告ハ拘留地ノ裁判所ニ於テナス期日ニ限り立會ヲ請求スル權ヲ有ス

第二百二十四條 公判準備ノタメ猶ホ判事ノ檢證ヲナスヘキトキニモ亦前條ノ規定ヲ適用ス

第六章 公判

第二百二十五條
第二百七十五條

第二百二十五條 公判ハ判決ヲナスノ任ヲ有スル人竝ニ檢事局及裁判所書記一名中斷ナク臨席シテ之ヲナス

第二百二十六條 檢事局ノ官吏及辯護人ハ數名ニテ公判ニ立會ヒ其事務ヲ分擔スルコトヲ得

第二百二十七條 公判中止ノ申立ニ付テハ裁判所之ヲ裁判シ一時ノ中斷ハ裁判長之ヲ命ス

辯護人ニ差支アルモ被告ハ審理ノ中止ヲ求ムルコトヲ得ス但第四百十五條ノ規定ハ之ニヨリテ妨ケラルルコトナシ

第二百二十六條第一項ノ期間ヲ守ラサリトキハ裁判長ヨリ被告ニ審理ノ中止ヲ求メウルコトヲ告知スヘシ

第二百二十八條 中斷シタル公判ハ遅クトモ中斷後四日目ニ之ヲ續行ス之ニ違フトキハ更ニ訴訟手續ヲ開始スヘシ

第二百二十九條 出頭セサル被告ニ對シテハ公判ヲナサス

正當ノ理由ナクシテ被告出頭セサルトキハ拘引ヲ命シ又ハ拘留狀ヲ發スヘシ

第二百三十條 出頭シタル被告ニハ辯論中退廷スルコトヲ許サス裁判長ハ退廷ヲ防ク爲メ相當ノ處分ヲナスコトヲ得、裁判長ハ亦審理ノ中斷中被告ヲ留置セシムルコトヲ得
 被告猥リニ退廷シタル場合又ハ中斷シタル公判續行ノ際出頭セサル場合ニ公訴ニ付キ被告ノ訊問已ニ終リ裁判所ニ於テ最早被告ノ在廷ヲ必要ト認メサルトキハ被告不在ノ儘公判ヲ終結スルコトヲ得

第二百三十一條 被告出頭セサルトキハ審理ノ目的タル行爲ヲ罰金拘留又ハ沒收ノミニ處シ若クハ之ヲ併科スヘキトキニ限り公判ヲ始ムルコトヲ得
 前項ニ該ル場合ニハ前項訴訟手續ニ則ルヘキコトヲ呼出狀ニ明記シテ被告ニ指示ス
第二百三十二條 裁判所ノ見込ニヨリ六週間内ノ自由刑又ハ罰金又ハ沒收ノミニ處シ又ハ之ヲ併科スルニ止ルコトヲ豫期シ得ヘキトキハ被告ハ申立ニヨリ其現在地遠隔ナリトノ理由ニ基キ公判ニ出廷スルノ義務ヲ免除セラルルコトヲ得
 此場合ニ於テ被告準備訴訟手續中判事ノ訊問ヲ受ケサルトキハ公訴ニ付キ受命判事又ハ受託判事ノ訊問ヲ受クヘキモノトス
 此訊問ノタメ定メタル期日ハ檢事局及辯護人ニ豫メ之ヲ通知ス訊問ヲナスニハ此等ノ者ノ立會ヲ必要トセス訊問調書ハ公判ニ於テ之ヲ朗讀ス

第二百三十三條 被告闕席ノ儘公判ヲナシ得ルトキニ限り被告ハ委任狀アル辯護人ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第二百三十四條 闕席ノマ、公判ヲナシタルトキハ被告ハ判決ニ對シ其送達後一週間内ニ期間ノ懈怠ニ對スルト同一ノ要件ニヨリ原狀回復ノ申立ヲナスコトヲ得但被告其申立ニヨリ公判ニ出廷スルノ義務ヲ免除セラレ又ハ代理セシムルノ權ヲ行使シタルトキハ原狀回復ヲナスコトヲ得ス

第二百三十五條 裁判所ハ常ニ被告本人ノ出廷ヲ命シ及拘引狀又ハ拘留狀ヲ以テ其出廷ヲ強制スルノ權ヲ有ス

第二百三十六條 裁判所ハ其繁劇シタル數多ノ刑事事件カ關係スル場合ニ於テ其關聯カ第三條ニ掲ケタルモノニアラサルトキト雖同時ニ審理センカ爲メ其併合ヲ命スルコトヲ得
第二百三十七條 辯論ノ指揮被告ノ訊問及證據調ハ裁判長之ヲナス
 事件ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命令カ辯論ニ關係シタル者ヨリ不適法トシテ異議ヲ申立ラレタルトキハ裁判所之ヲ裁判ス

第二百三十八條 裁判長ハ檢事局及辯護人ノ一致ノ申立ニヨリ之ニ檢事局及被告ノ指名シタル證人及鑑定人ノ訊問ヲ任スヘキモノトス
第二百三十九條 裁判長ハ檢事局及辯護人ノ一致ノ申立ニヨリ之ニ檢事局及被告ノ指名シタル證人及鑑定人ノ指名シタル證人及鑑定人ニハ檢事局最初ニ訊問シ被告ノ指名シタル證人及鑑定人ニハ辯

護人最初ニ訊問スルノ權ヲ有ス
裁判長ハ此訊問後ト雖事件ヲ一層明瞭ナラシムル爲メニ必要ト認ムル間ヲ證人及鑑定人ニ發セサルヘカラス

第二百三十九條

裁判長ハ陪席判事ニ其求メニヨリ證人及鑑定人ニ問ヲ發スルコトヲ許ササルヘカラス

裁判長ハ檢事局、被告、辯護人、陪審官及參審官ニ前項ト同一ノコトヲ許ササルヘカラス

第二百四十條

第二百三十八條第一項ノ場合ニ訊問權ヲ濫用スル者ニ對シ裁判長ハ其權ヲ奪フコトヲ得

第二百三十八條第一項第二百三十九條第二項ノ場合ニ於テ裁判長ハ不當ナル問又ハ事件ニ必要ナラサル問ヲ却クルコトヲ得

第二百四十一條

問ノ許否ニ付テノ疑ヒハ總テノ場合ニ於テ裁判所之ヲ裁判ス

第二百四十二條

公判ハ證人及鑑定人ノ呼上ケテ以テ始マル

次キニ被告ノ身分ニ付キ訊問ヲナシ公判手續開始ニ付テノ決定ヲ朗讀ス

次キニ第三百三十六條ノ規定ニ從ヒ被告ニ其他ノ訊問ヲナス

決定ノ朗讀及被告ノ訊問ハ訊問スヘキ證人ノ居ラサルトコロニ於テ之ヲナス

第二百四十三條

被告ノ訊問後證據調ヲナス

證據ノ申立ヲ却下スルトキ又ハ證據行爲ヲナス爲メ公判ノ中止ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ決定ヲ要ス

裁判所ハ申立ニヨリ及職權ヲ以テ證人及鑑定人ノ呼出竝ヒニ他ノ證據方法ノ取寄ヲ命スルコトヲ得

第二百四十四條

證據調ハ呼出シタル證人及鑑定人ノ全員竝ニ他ノ取寄セタル證據方法ニ及ホスヘキモノトス但各個ノ證據調ハ檢事局及被告同意シタルトキハ之ヲナササルコトヲ得

參審裁判所及控訴審トシテノ地方裁判所ノ辯論ニ於テハ裁判所ハ申立、拋棄、若クハ前決定ニヨリ拘束セラレルコトナクシテ證據調ノ範圍ヲ定ム但地方裁判所ニ於ケル辯論ハ違警罪ニ關スルトキ又ハ私訴ノ提起アリタルニヨリ之ヲナストキニ限ル

第二百四十五條

立證ハ證據方法又ハ證明スヘキ事實カ時機ニ遲レテ提出セラレタリトノ理由ヲ以テハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但訊問スヘキ證人又ハ鑑定人ノ氏名ヲ申立人ノ相手方ニ通知スルコトヲ遲延シ又ハ證明スヘキ事實ノ提出ヲ遲延シタルニヨリ相手方ニ穿鑿ヲ遂ケル爲メ必要ナル日時ナキトキハ相手方ハ證據調ノ終ルマテ穿鑿ノタメ公判ノ中止ヲ申立ツルコトヲ得

裁判長又ハ裁判所ノ命令ニヨリ呼出サレタル證人及鑑定人ニ付檢事局及被告ハ前項ノ權ヲ有ス

申立ニ付テハ裁判所自由ナル意見ヲ以テ之ヲ裁判ス

第二百四十六條 共同被告又ハ證人ヲ被告ノ面前ニ於テ訊問スルトキハ眞實ヲ供述セサル恐レアルトキハ裁判所ハ其訊問中被告ヲ退廷セシムルコトヲ得但裁判長ハ被告ヲ再ヒ入廷セシメタルトキ直ニ其不在中ノ供述又ハ其他ノ辯論ノ要旨ヲ告知スヘシ

裁判所ハ被告ニ不當ノ行狀アルタメ一時退廷ヲ命シタル場合モ亦同一ノ手續ヲナス

第二百四十七條 訊問セラレタル證人及鑑定人ハ裁判長ノ許可又ハ差圖アルニアラサレハ裁判所ヨリ退去スルコトヲ得ス檢事局及被告ニ豫メ其意見ヲ問フヘシ

第二百四十八條 證書及ヒ證據方法タル其他ノ書類ハ公判ニ於テ之ヲ朗讀ス此規定ハ殊ニ以前言渡シタル刑事判決犯罪簿及寺院簿及身分登記簿抄本ニ適用ス判事ノ檢證調書ニモ亦之ヲ適用ス

第二百四十九條 事實ノ證明カ人ノ實見ニ基クモノナルトキハ公判ニ於テ其人ヲ訊問ス其訊問ハ前ノ訊問ニ付キ作成シタル調書又ハ書面上ノ陳述ノ朗讀ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ許サス

第二百五十條 證人、鑑定人又ハ共同嫌疑者カ死去シタルトキ、精神病ニ罹リタルトキ又ハ其居所知レサルトキハ事故發生前ニナシタル判事ノ訊問調書ヲ朗讀スルコトヲ得、既ニ有罪ノ言渡ヲ受ゲタル共同嫌疑者ニ付テモ亦同シ

第二百二十二條ニ記載シタル場合ニ於テハ前ノ訊問ニ付テノ調書ノ朗讀ハ其訊問ヲ公判手續開始

ノ後ニナシタルトキ又ハ準備訴訟手續ニ於テ第九十一條ノ規定ヲ遵守シテナシタルトキニ之ヲナス

朗讀ハ裁判所ノ決定ニヨリテノミ之ヲ命スルコトヲ得、亦其理由ハ之ヲ言渡シ及ヒ訊問セラレタル人ノ宣誓ヲナシタルヤ否ヤヲ告クヘキモノトス宣誓ヲ要スルニ付テノ規定ハ再度訊問ヲナスヲ得ヘキ場合ニ於テ之レカ爲メ變更ヲ受クルコトナシ

第二百五十一條 公判前ニ訊問セラレ公判ニ於テ始メテ證言拒絶權ヲ行使シタル證人ノ供述ハ朗讀スルコトヲ許サス

第二百五十二條 證人又ハ鑑定人ニ於テ最早事實ヲ記憶セサル旨ヲ申立ツルトキハ前ノ訊問調書中ニ關係アル部分ヲ其記憶ヲ喚起セシムルタメ朗讀スルコトヲ得

訊問中前ノ供述ト牴觸スル場合ニ於テ公判ヲ中止スルニアラサレハ之ヲ確定シ又ハ調停シ得ヘキ方法ナキトキハ前項ト同一ノ處分ヲナスコトヲ得

第二百五十三條 判事ノ調書中ニ記載シタル被告ノ陳述ハ自白ニ關スル證據調ノタメ之ヲ朗讀スルコトヲ得

訊問中ニ前ノ陳述ト牴觸スル場合ニ於テ公判ヲ中止スルニアラサレハ之ヲ確定シ又ハ調停シ得ヘキ方法ナキトキハ前項ト同一ノ處分ヲナスコトヲ得

第二百五十四條 第二百五十二條第二百五十三條ノ場合ニ於テハ朗讀及其理由ハ檢事局又ハ被告ノ申立ニヨリ調書ニ記入ス

第二百五十五條 素行調書ヲ除クノ外證言又ハ鑑定ヲ記シタル官署ノ陳述書並ニ重大ナラサル身體傷害ニ付テノ醫師ノ證明書ハ之ヲ朗讀スルコトヲ得

合議制専門官署ノ鑑定ヲ求メタルトキハ裁判所ハ官署ニ其職員一名ニ公判ニ於ケル鑑定ノ代理ヲ委任シ裁判所ニ通知スヘキコトヲ囑託スルコトヲ得

一九八
第二百五十六條 各證人、鑑定人、又ハ共同被告ヲ訊問シタル後並ニ各書類ヲ朗讀シタル後被告ニ陳述スヘキコトアリヤ否ヤヲ問フヘシ

二二〇
第二百五十七條 證據調ノ終リタル後檢事局次ニ被告ハ其辯明及申立ノ爲メ發言スルコトヲ得
檢事局ハ答辯ノ權利ヲ有ス被告ハ最終ニ發言スルコトヲ得

辯護人被告ニ代リ發言シタルトキト雖其辯護ノ爲メ陳述スヘキコトアリヤ否ヤヲ被告本人ニ問フヘシ

一九六
第二百五十八條 裁判所ノ用語ヲ解セサル被告ニハ最終ノ陳述中少ナクモ檢事局及辯護人ノ申立ヲ通事ヲ以テ告知スヘシ

聾人ノ被告文字ヲ解セサルトキ亦同シ

第二百五十九條 公判ハ判決ノ言渡ヲ以テ終ルモノトス

判決ハ無罪ノ言渡、有罪ノ言渡又ハ訴訟手續ノ停止ニ限り之ヲナスコトヲ得

訴訟手續ノ停止ハ告訴アルニアラサレハ訴訟スルコトヲ得ヘカラサル犯罪行為ニアリテ必要ナル告訴ナキコトノ明カナルトキ又ハ告訴ヲ正當ノ時期ニ取下ケタルトキ之ヲ言渡スヘキモノトナス

第二百六十條 證據調ノ結果ニ付キ裁判所ハ辯論ノ全體ニ依リテ得タル自由心證ニ從ヒ裁判ヲナス

第二百六十一條 行為ノ可罰性民法上ノ權利關係ノ判定ニヨリテ定マルトキハ刑事裁判所ハ此關係ニ付テモ亦刑事事件ノ手續及證據ニ關スル規定ニ從ツテ裁判ヲナス但裁判所ハ審理ヲ中止シ及關係者ノ一名ニ對シ民事訴訟提起ノタメ期間ヲ定メ又ハ民事裁判所ノ判決ヲ待ツヘキ權ヲ有ス

第二百六十二條 責任問題ニ關シ被告ニ不利益ナル裁判ヲナスニハ三分ノ二ノ多數ヲ要ス

責任問題ニハ刑法中特ニ記載シタル可罰ノ阻却又ハ減輕又ハ加重ノ狀情ヲモ合ムモノトス
責任問題ニハ累犯及時效ノ要件ヲ含マズ

第二百六十三條 判決ヲナス事項ハ公訴狀ニ記載シ辯論ノ結果ニヨリ顯出スル行為ナリトス

裁判所ハ公判手續開始ニ付テノ決定ノ憑據トナリタル行為ノ判定ニ拘束セラルルコトナシ

第二百六十四條 公判手續開始ノ決定ニ引用シタル以外ノ刑法ニ基テナス被告ノ有罪判決ハ豫メ被

告ニ法律上ノ意見ノ變更ヲ特ニ指示シテ辯護ノ機會ヲ與フルニアラサレハ之ヲ言渡ス事ヲ得ス
 辯論ニ於テ始メテ刑法上特ニ記載シタル所罰加重ノ狀情ヲ主張スルトキモ亦同一ノ訴訟手續ヲナ
 ス

被告辯護ノ準備不充分ナルコトヲ主張シテ公判手續開始ノ決定ニ引用シタル刑法ヨリモ重キ刑法
 ヲ被告ニ對シ適用スルヲ得ヘキ新ナル精狀又ハ第二項ニ掲ケタルモノニ屬スル新ナル精狀ヲ
 爭フトキハ其中立ニヨリ公判ヲ中止ス

其他裁判所ハ變更シタル事情ノタメ公訴又ハ辯護ノ準備ヲ充分ナラシムルタメ至當ナリト思料ス
 ル場合ニ於テハ申立ニヨリ又ハ職權ヲ以テ公判ヲ中止セサルヘカラス

第二百四十四條第二項ニ記載シタル辯論ニハ第三項ノ規定ヲ適用セス

第二百六十五條 被告カ公判中ニ公判手續ヲ開カレタル行爲以外ノ行爲ニ付キ嫌疑ヲ受クルトキハ
 検事局ノ申立ニヨリ被告ノ承諾ヲ得テ其行爲ヲ同一ノ判決事項トナスコトヲ得

行爲カ重罪ナルトキ又ハ其判決裁判所ノ管轄ヲ超ユルトキハ前項ヲ適用セス

第二百六十六條 被告ニ刑ヲ言渡シタルトキハ判決理由ニ犯罪行爲ノ法律上ノ徵候ヲ表示スル認定
 事實ヲ掲クルコトヲ要ス證據カ其他ノ事實ニヨリ決定セラルルトキハ亦其實實ヲモ掲クヘシ
 辯論ニ於テ特ニ刑法ニ記載シタル可罰ヲ阻却減輕又ハ加重スヘキ事情ヲ主張シタルトキハ判決理

由ニ其事情ヲ確定シタリト認ムルヤ又ハ確定セサルト認ムルヤヲ掲クルコトヲ要ス
 刑事判決ノ理由ニハ其他適用シタル刑法ヲ記シ且ツ刑ノ量定標準トナリタル精狀ヲ掲クヘシ刑法
 カ輕キ刑ノ適用ヲ一般ニ減輕スヘキ精狀アルコトニ繋ラシムルトキハ判決理由ニ此點ニ付テナシ
 タル裁判ヲ顯ハササルヘカラス但其精狀アルコトカ認メラレ又ハ辯論中ニナシタル申立ニ反シテ
 否定セラルルトキニ限ル

被告ニ無罪ノ言渡ヲナストキハ判決理由中ニ被告ヲ證據ナシト認メタルヤ又ハ認定行爲ハ罪トナ
 ラスト認メタルヤ又ハ如何ナル理由ニヨリ其行爲ヲ罪トナルモノニアラスト認メタルヤヲ掲クヘ
 シ

第二百六十七條 判決ノ言渡ハ辯論ノ終リニ又ハ遅クトモ辯論終結ノ後一週間内ニ判決主文ノ朗讀
 及判決理由ノ告知ニヨリ之ヲナス判決理由ノ告知ハ其要領ノ朗讀又ハ口達ニヨリ之ヲナス
 判決ノ言渡ヲ中止シタルトキハ判決理由ハ其言渡前ニ書面ヲ以テ之ヲ確定ス

第二百六十八條 被告ヲ教育場又ハ懲治場ニ入ルルコトヲ命スル判決ハ被告ノ法律上ノ代理人ニモ
 亦之ヲ送達ス但法律上ノ代理人カ公判ニ被告ノ保佐人トシテ出廷シ及判決言渡ノ際在廷シタルトキ
 ハ此限ニアラス

第二百六十九條 裁判所ハ事件カ下級裁判所ニ屬スルノ故ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲナスコトヲ得ス

第二百七十條 公訴事實辯論ノ結果ニ依リ裁判所ノ管轄ヲ越ユルモノナルコト判然スルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲナシ且ツ其事件ヲ管轄裁判所ニ送致ス

此決定ハ公判手續開始決定ノ効力ヲ有ス且ツ開始決定ノ要件ニ適合スルコトヲ要ス

此決定ニ對シ不服ヲ申立得ヘキヤハ第二百九條ノ規定ニ從テ定マルモノトス

參審裁判所カ此決定ヲナシタルトキハ被告ハ決定告知ノ際定ムヘキ期間内ニ公判前各個ノ立證ヲナサンコトヲ申立ルコトヲ得其中立ニ付テハ事件ノ送致ヲ受ケタル裁判所ノ裁判長之ヲ裁判ス

第二百七十一條 公判ニ付テハ調書ヲ作成シ裁判長及裁判所書記之ニ署名ス

裁判長差支アルトキハ年長ノ陪席判事之ニ代リテ署名ス區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記ノ署名ノミヲ以テ足ル

第二百七十二條 公判ニ付テハ調書ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

第一 辯論ノ場所及日時

第二 判事、陪審官、參審官、檢事局ノ官吏、裁判所書記及立會ハシメラレタル通事ノ氏名

第三 公訴ニヨル犯罪ノ表示

第四 被告、其辯護人、私訴人、副訴人、法律上ノ代理人、代理人及保佐人ノ氏名

第五 公ニ辯論ヲナシタルコト又ハ公開ヲ禁シタルコトノ開示

第二百七十三條 調書ニハ公判ノ進行及結果ノ要旨ヲ記シ及總テ重要ナル方式ノ遵守ヲ明カニシ亦朗讀シタル書類ノ表示並ニ辯論中ニナシタル申立言渡シタル裁判及判決主文ヲ掲ケサルヘカラス

參審裁判所ノ公判ニアリテハ此外訊問ノ重要ナル結果ヲ調書ニ記載ス

公判ニ於ケル出來事ノ確定又ハ陳述又ハ發言ノ言辭ノ確定カ要點ナルトキハ裁判長ハ充分ナル記載及朗讀ヲ命セサルヘカラス調書ニハ朗讀ヲナシタルコト及承諾ヲ得タルコト又ハ如何ナル異議ノ申立アリタルヤヲ記入スヘキモノトス

第二百七十四條 公判ノタメ規定シタル方式ノ遵守ハ調書ニヨリテノミ證明スルコトヲ得、此方式

ニ關スル調書ノ内容ニ對シテハ偽造ノ證明ノミヲ許ス

第二百七十五條 判決ハ其理由ト共ニ言渡ノ後三日内ニ判決書ニ作ルヘキモノトス但之ヲ未タ調書

ニ充分記載セザリシトキニ限ル

判決ニハ其裁判ノ際ニ共カシタル判事之ニ署名ス判事其署名ヲナスニ差支アルトキハ差支ノ理由ヲ開示シテ裁判長之ヲ判決ニ記入シ裁判長差支アルトキハ年長ノ陪席判事之ヲ記入ス參審官ノ署名ハ之ヲ要セス

開廷ノ日時ノ表示並ニ開廷ニ干與シタル判事、參審官、檢事局ノ官吏及裁判所書記ノ氏名ハ判決

ニ記載ス

判決ノ正本及抄本ハ裁判所書記之ニ署名シ裁判所ノ印ヲ押捺ス

第七章 陪審裁判所ノ公判

自第二百七十六條
至第三百十七條

第二百七十六條 前二章ノ規定ハ本章ニ別段ノ定メナキトキニ限り陪審裁判所ノ訴訟手續ニ適用ス
第二百七十七條 陪審官ノ當籤名簿ハ公判ヲ開始スヘキ日時前ニ拘留セラレタル被告ニハ之ヲ送達シ拘留セラレサル被告ニハ閱覽ノタメ裁判所書記課ニ備ヘ置クヘキモノトス
後日當籤名簿ニ加ヘタル陪審官ノ氏名ハ公判開始マテニ被告ニ通知ス

第二百七十八條 公判ハ陪審官ノ抽籤ニヨリ陪審席ヲ構成スルヲ以テ始マルモノトス

第二百七十九條 抽籤前ニ陪審官タル能力ナキ者ノ外辯論スヘキ事件ニ付キ職務ノ執行ヨリ法律上除外セララルヘキ陪審官ヲモ除去スヘシ出廷シタル陪審官ニハ除外ノ理由アルトキハ其旨申出ツヘキコトヲ催告スヘシ

陪審官ヲ除去スル裁判ハ其陪審官ヲ訊問シタル後裁判所之ヲナス此裁判ニ對シテハ抗告ヲナスコトヲ得ス陪審官タル能力ナシトノ言渡ヲ受ケタル者ハ當籤名簿ヨリ之ヲ删除ス
第二百八十條 前條ニ從ヒ除去セラレサル出廷陪審官ノ數少ナクトモ二十四名アルトキハ陪審席

ヲ構成スルコトヲ得、二十四名ニ充タサルトキハ補充陪審官名簿ニヨリ總員三十名ニ達スルマテ之ヲ補充ス

補充ハ抽籤ニ依リ公廷ニ於テ裁判長之ヲナス補充ハ開廷期中ニ辯論スヘキ總テノ事件ニ付キ其效力ヲ保有ス

當籤シタル補充陪審官ニハ出廷セサル場合ノ法律上ノ結果ヲ告知シテ之ヲ呼出スヘシ當籤シタル補充陪審官ノ氏名ハ當籤名簿ニ之ヲ記入ス

補充陪審官出廷シタルタメ陪審官ノ數二十四名ニ滿ツルトキハ陪審席ヲ構成スルコトヲ得

其後ノ公判ニ三十名以上ノ陪審官出廷スルトキハ過剩ノ補充陪審官ヲ當籤ノ時ト反對ノ順序ニヨリ退去セシム

第二百八十一條 陪審席ハ公廷ニ於テ之ヲ構成ス抽籤ハ裁判長之ヲナス

第二百八十二條 陪審官ノ氏名ヲ記載シタル籤十二本以上籤壺中ニアル間ハ當籤シタル陪審官ヲ忌避スルコトヲ得

檢事局及ヒ被告ハ平等ノ忌避權ヲ有ス然レトモ忌避ノ總數奇數ナルトキハ被告ニ屬スル忌避數ヲ一個多クスヘシ

第二百八十三條 籤ヲ抽キ陪審官ノ氏名ヲ讀上ケタルトキハ始メニ檢事局次キニ被告ヨリ各「承諾」

又ハ「忌避」ナル語ヲ以テ承諾又ハ忌避ヲ陳述セサルヘカラス此陳述ニハ理由ヲ付スルコトヲ得ス
陳述ヲナササルトキハ承諾シタルモノト看做ス

陳述ハ次キノ陪審官ノ氏名ヲ抽キタル後又ハ總抽籤ノ終リタルコトヲ告ケタル後ハ之ヲ取消スコ
トヲ得ス

第二百八十四條 關係被告數名ノ公判ニ於テハ被告ハ共同シテ忌避權ヲ行使セサルヘカラス

共同シテ忌避權ヲ行使スルコト能ハサルトキニ限リ忌避數ヲ平等ニ分配ス平等ニ分ツコト能ハサ
ル忌避ノ行使並ニ陳述ノ順序ニ付テハ抽籤ニヨリ之ヲ決ス

第二百八十五條 補缺陪審官ノ立會ヲ命シタルトキハ補缺陪審官ノ數タケ忌避數ヲ減ス

立會フヘキ補缺陪審官二名以上アルトキハ其陪審官ハ抽籤ノ順序ニヨリ其任ニ當ルモノトス

第二百八十六條 同日ニ數件ノ辯論ヲ開ク場合ニ於テ關係被告及檢事局カ陪審官ノ宣誓前ニ同意ヲ
表シタルトキハ最初ノ事件ノ辯論ノタメニ構成シタル陪審席ヲ其餘ノ事件ノ辯論ノタメニモ存續
ス

第二百八十七條 公判中斷ノ後訴訟手續ヲ更ラニ開始スヘキトキハ陪審席モ亦新ニ之ヲ構成スヘシ

第二百八十八條 陪審席構成ノ後陪審官ハ裁判ヲナスヘキ被告ノ目前ニ於テ宣誓ヲナス
宣誓ハ公廷ニ於テ之ヲナス

裁判長ハ宣誓者ニ對シ左ノ發言ヲナスヘシ

卿等ハ全知全能ノ神ニ對シ某ニ係ル公訴事件ニ付キ誠實ニ陪審官ノ義務ヲ履行シ良知良心ニ從
ヒ發言スル旨ヲ宣誓セラルヘシ

陪審官ハ各自左ノ文詞ヲ述ヘテ宣誓ヲナス

余之ヲ誓ヘリ神必ラス余ヲ助ケン

宣誓者ハ宣誓ヲナス際右ノ手ヲ舉クヘシ

陪審官カ法律上宣誓ノ代リニ或ル誓約式ノ使用ヲ許サレタル教會員ナルトキハ其教會ノ誓約式ニ
ヨリテナシタル陳述ヲ宣誓ト同一ニ看做ス

第二百八十九條 陪審官カ宣誓ヲナシタル後事件ニ對スル辯論ヲナス

第二百九十條 陪審官ヲシテ答辯セシムルタメ之ニ提出スヘキ問題ハ裁判長之ヲ起草ス

證據調ノ終リタル後起草シタル問題ヲ朗讀ス裁判長ハ問題ヲ陪審官、檢事局及被告ニ謄本ヲ以テ
通知スルコトヲ得、裁判長ハ問題ヲ通知セラレタキ旨ノ申立アリタルトキハ之ニ應セサルヘカラ
ス

檢事局、被告又ハ陪審官一名ノ請求アルトキハ問題審査ノタメ一時辯論ヲ中斷ス

第二百九十一條 檢事局、被告並ニ各陪審官ハ質問ノ瑕疵ヲ注意シ問題ノ變更及補充ヲ申立ツルノ

權ヲ有ス

異議又ハ申立アリタルトキ又ハ判事一名ノ請求アルトキハ裁判所ニ於テ問題ヲ確定ス、確定シタル問題ハ之ヲ朗讀ス

第二百九十二條 問題ハ「然リ」又ハ「然ラス」ト答辯シ得ル如ク之ヲ出スヘシ

後ノ問題前ノ問題ヲ或ル意味ニ解決シタル場合ニアラサレハ答辯シ得ヘカラサルトキハ其旨ヲ注意スヘシ

被告數名アルトキ又ハ犯罪行為數個アルトキハ各被告及各犯罪行為ニ付テノ問題ハ各別ニ之ヲ出スコトヲ要ス

第二百九十三條 主タル問題ニハ冒頭ニ被告ハ有罪ナリヤトノ文詞ヲ記載シ尙ホ被告ノ責ニ歸セラレタル行為ヲ其法律上ノ徵候及其區別ノ爲メ必要ナル情況ヲ擧ケテ記載スヘシ

第二百九十四條 辯論中ニ被告ノ責ニ歸セラレタル行為ニツキ公判手續開始決定ト異ナル判定ヲナスヘキ事由ノ生シタルトキハ之ニ付テノ問題(補)ヲ出スヘシ

此補問ハ公判手續開始決定ト異ナル判定ニヨリ刑ヲ加重スヘキトキハ開始決定ニ適應スル問題ノ前ニ之ヲ出スヘシ

第二百九十五條 刑法上特ニ記載シタル刑ノ減輕又ハ加重ノ情狀ニ付キ時宜ニヨリ陪審官ニ特別ノ

問題(副)ヲ出スヘシ

副問ハ刑法上特ニ記載シタル刑ノ免除ノ情狀ニ付テモ亦之ヲ出スコトヲ得

第二百九十六條 補問又ハ副問ヲ出サンコトヲ申立テラレタルトキハ法律上ノ理由アル場合ニノミ之ヲ拒ムコトヲ得

第二百九十七條 法律カ減輕スヘキ情狀アルトキハ輕キ刑ヲ科スヘキコトヲ規定シタル場合ニ檢事局又ハ被告ヨリ申立アリタルトキ又ハ職權ヲ以テ至當ト認ムルトキハ其情狀ニ關スル副問ヲ出スヘシ

減輕スヘキ情狀ノ存在ニ干スル問題ヲ否定スルニハ少クトモ七名ノ多數ヲ要ス

第二百九十八條 被告カ犯罪當時十八歳未滿ナルトキハ被告ハ犯行當時其行為ニ付キ處刑セラレヘキコトヲ辨別スルニ必要ナル智力ヲ有シタルヤトノ副問ヲ出ササルヘカラス

被告瘖啞者ナルトキ亦同シ

第二百九十九條 問題ヲ出シタル檢事局及被告ヨリ責任問題ニ付キ辯明及申立ヲナスモノトス

第三百條 裁判長ハ證據判斷ニ立入ルコトナク陪審官カ出サレタル問題ヲ解決スルニ當リ考察スヘキ法律上ノ着眼點ヲ告知スルモノトス

裁判長ノ告知ハ孰レノ方面ヨリスルモ事件ノ内容ニ立入ルコトヲ許サス

第三百一一條 問題ハ裁判長署名シテ陪審官ニ交付ス陪審官ハ會議室ニ退キ被告ハ法廷ヲ去ルモノトス

第三百二條 辯論ニ於テ檢査ノタメ陪審官ニ示シタル物件ハ會議室ニ於テ之ニ交付スル事ヲ得

第三百三條 會議室ニ集リタル陪審官ト其他ノ人トハ決シテ交通ヲナスコトヲ許サス

裁判長ハ其許可ナクシテ陪審官ノ會議室ヲ去ラサルコト及第三者ノ會議室ニ入ラサルコトニ注意ス

第三百四條 陪審官ハ書面上ノ表決ニヨリ多數決ニ從ヒ陪審長ヲ選舉ス可否同數ナルトキハ年長者之ヲ決ス

陪審長ハ合議及表決ヲ指揮ス

第三百五條 陪審官ハ提出セラレタル問題ヲ「然リ」又ハ「然ラス」ト答ヘサルヘカラス

陪審官ハ問題ノ一部ヲ然リトシ一部ヲ然ラスト答フルコトヲ得

第三百六條 陪審官其判定ヲナス前ニ他ノ告知ヲ要スヘシト思料スルトキハ陪審官申立ノタメ法廷ニ出テタル後申立ニヨリ裁判長ヨリ之ヲ告知ス

問題ヲ變更又ハ補充スヘキ理由生シタルトキハ被告ヲ辯論ニ立會ハシムヘシ

第三百七條 判定ハ陪審長問題ノ傍ラニ之ヲ記載シ且ツ之ニ署名ス

被告ニ不利益ナル各裁判ニハ其裁判ヲ七名以上ノ多數ヲ以テナシタルコトヲ記載シ減輕スヘキ情狀ヲ否定スルトキハ六名以上ノ多數ヲ以テナシタルコトヲ記載スヘク其他ノ場合ニ於テハ投票關係ヲ記載スルコトヲ得ス

第三百八條 判定ハ法廷ニ於テ陪審長之ヲ公表ス、陪審長ハ左ノ語ヲ述ヘタル後問題ト之ニ付テナシタル答トヲ朗讀ス

予ハ名譽及良心ヲ以テ陪審官ノ判定タルコトヲ證ス

朗讀セラレタル判定書ニハ裁判長及裁判所書記署名ス

第三百九條 裁判所ニ於テ判定カ其形式ニ於テ規定ニ違ヒ又ハ其實質ニ於テ不明瞭不完全又ハ矛盾スルモノト認ムルトキハ裁判長ハ其實問セラレタル欠缺ヲ補正スルタメ會議室ニ歸ルコトヲ陪審官ニ催告スヘシ

此命令ハ裁判所カ判定ニ基キ未タ判決ヲ言渡ササル間之ヲナスコトヲ得

第三百十條 判定ノ形式ニ於ケル欠缺ノミヲ校正スヘキ時ハ實質上ノ變更ヲナスコトヲ許サス
第三百十一條 判定ノ實質上ノ欠缺ヲ校正スヘキトキハ陪審官ハ再合議ノ際前判定ノ如何ナル部分ニモ拘束セララルコトナシ

此欠缺ヲ審究スルニ方リ問題ノ變更又ハ補充ヲナスヘキ理由ヲ生シタルトキハ被告ヲ辯論ニ立會

ハシムヘシ

第三百十二條 校正シタル判定ハ前判定ヲ認識シ得ヘキ方法ヲ以テ記載スヘシ

第三百十三條 陪審官ノ判定ハ被告再ヒ法廷ニ入りタル後朗讀シテ被告ニ言渡スモノトス

第三百十四條 被告陪審官ヨリ罪ナシト宣言セラレタルトキハ裁判所ハ之ニ無罪ノ言渡ヲナスモノトス

其他ノ場合ニハ判決言渡前檢事局及被告ノ辯明及申立ヲ聞クヘシ

第三百十五條 判決ノ言渡ハ辯論ノ終リニ之ヲナス

第三百十六條 判決ノ理由ニハ陪審官ノ判定ヲ援用ス

判定ノ原本ハ判決書ニ添付ス

第三百十七條 陪審官カ被告ノ不利益ニ本案ヲ誤認シタリトノ意見裁判所ニ於テ一致シタルトキハ裁判所ハ決定ニヨリ其意見ニ理由ヲ付スルコトナク事件ヲ次キノ開延期ノ陪審裁判所ニ更ラニ辯論ヲナサシムルタメ移送スルモノトス、移送ハ職權ニヨリテノミ判決言渡ニ至ルマテ之ヲナスコトヲ得

訴訟手續カ數個ノ獨立シタル犯罪行爲又ハ數名ノ被告ニ關スルトキハ其移送ハ裁判所ノ意見ニヨリ陪審官ノ誤認シタル行爲若クハ人ニ限り之ヲナスコトヲ得

前判定ニ干與シタル陪審官ハ再會シタル辯論ニ加ハルコトヲ得ス
判決ハ毎ニ再判定ニ基キ之ヲ言渡スヘシ

第八章 不在者ニ對スル訴訟手續

自第三百十八條
至第三百三十七條

第三百十八條 嫌疑者ハ其居所不明ナルトキ又ハ嫌疑者カ外國ニ滞在シ管轄裁判所ニ出頭スル能ハサルトキ又ハ出頭セシムルコトヲ不適當ト認ムルトキハ不在者ト看做ス

第三百十九條 不在者ニ對シテハ審理ノ目的タル行爲單ニ罰金又ハ沒收ノミニ處スヘキモノナルトキ又ハ之ヲ併科スヘキモノナルトキニ限り公判ヲナスコトヲ得

此訴訟手續ニハ第三百二十條乃至第三百二十六條ノ規定ヲ適用ス

第三百二十條 公判ノ爲メニスル被告ノ呼出ハ其居所不明ナル場合又ハ外國ノ現行送達規定ヲ遵守スルコト能ハスト認ムル場合若クハ之ヲ遵守スルモ其效ナカルヘシト豫想スル場合ニハ呼出狀ノ認證謄本ヲ公判ノ日マテ裁判所ノ掲示板ニ貼附シテ之ヲナス右ノ外呼出狀ノ抄本ハ管轄地ノ公報ヲ掲載スル新聞紙及ヒ裁判所ノ意見ニヨリ其他ノ新聞紙ニ三回掲載スヘシ最終公告ノ日ト公判ノ日トノ間ニハ少クトモ一ヶ月ノ期間ヲ存セサルヘカラス

第三百二十一條 呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

被告ノ氏名及ヒ其氏名不詳ナルトキハ名、年齢、職業、住所又ハ居所及ヒ被告ノ責ニ歸セラレタル犯罪行為並ニ公判ノ日時

同時ニ被告正當ノ理由ナクシテ出頭セサルトキハ公判ヲ開クヘキ旨ノ注意ヲ付記ス

第三百二十二條 辯護人ハ被告ニ代リ公判ニ出頭スルコトヲ得、被告ノ親族モ亦委任ヲ要セスシテ代人トナルコトヲ得

第三百二十三條 判決ノ送達ハ第四十條第二項ノ規定ニ從テ之ヲナス

第三百二十四條 第三百二十二條ニ掲ケタル者ハ嫌疑者ニ屬スル上訴ヲナスコトヲ得

第三百二十五條 判事ノ意見ニ從ヒ被告人ニ科スルコトヲ得ヘキ最高額ノ罰金及ヒ訴訟手續費用ノ填補ニ必要ナル額ニ限リ被告人ノ財産ニ屬スル各個ノ物件ヲ差押ルコトヲ得、此差押ニハ物ノ假差押ノ執行及ヒ效力ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス、差押ハ其理由消滅シタルトキハ之ヲ取消スヘシ

第三百二十六條 前條ノ規定ニ從ヒ填補ヲ得ルコト能ハサルトキニ限リ裁判所ハ決定ニヨリ獨逸帝國內ニ存スル被告人ノ財産ヲ差押フルコトヲ得、此決定ハ獨逸官報及ヒ裁判所ノ意見ニ從ヒ亦其他ノ新聞紙ニヨリ之ヲ公告ス

獨逸官報ニヨリ決定ノ第一回ノ公告後ニ差押財産ニ付キ被告人ノナシタル處分ハ國庫ニ對シテハ

無効ナリ

本條ニヨル財産差押ハ其理由消滅シタルトキ又ハ第三百二十五條ニヨル差押ニヨリ國庫カ填補ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ取消スヘシ

此差押ノ取消ハ差押ヲ公告シタルト同一ノ新聞紙ニヨリ之ヲ公告スヘシ

第三百二十七條 第三百十九條ニ掲ケタル以外ノ場合ニ於テハ不在者ニ對シ公判ヲナスコトヲ得ス不在者ニ對シテ開始シタル訴訟手續ハ後日不在者出頭スル場合ノ爲メノ證據保全ヲ目的トス

此訴訟手續ニハ第三百二十八條乃至第三百三十六條ノ規定ヲ適用ス

第三百二十八條 辯護人ノ出廷ハ嫌疑者不在ノトキト雖之ヲ禁スルコトヲ得ス、嫌疑者ノ親族モ亦辯護人ヲ選定スルコトヲ得

證人及ヒ鑑定人ハ宣誓ヲナサシメテ之ヲ訊問ス

第三百二十九條 不在ノ嫌疑者ハ訴訟手續ノ進行ニ付キ通知ヲ請求スルノ權ナシ但判事ハ居所ノ分明ナル不在者ニ通知スルコトヲ得

第三百三十條 居所ノ不明ナル不在者ニハ新聞紙ヲ以テ裁判所ニ出頭スヘキコト又ハ其居所ヲ届出ツヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得

第三百三十一條 公判手續開始ノ後始メテ被告ノ不在判然スルトキハ猶ホ必要ナル證據調ハ受命判

事又ハ受託判事ニ於テ之ヲナス

第三百三十二條 公訴ヲ提起セラレタル不在者ニ對シ拘留狀ヲ發スヘキ正當ノ理由アルトキハ裁判所ハ決定ニヨリ獨逸帝國內ニ存スル不在者ノ財産ヲ差押フルコトヲ得、前項ニ掲ケタル差押ハ參審裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニアリテハ之ヲナスコトヲ得ス

第三百三十三條 差押決定ハ獨逸官報ニ依リ公告ス、亦裁判所ノ意見ニヨリ他ノ新聞紙ニヨリ公告スルコトヲ得

第三百三十四條 獨逸官報ニ於ケル第一回公告ノ時ト同時ニ被告人ハ差押財産ニ付キ生前處分ヲナスノ權ヲ失フ

差押決定ハ不在者ニ對スル後見開始ニ付キ權限アル官廳ニ通知ス、此官廳ハ財産管理ヲ開始ス

第三百三十五條 差押ノ理由消滅シタルトキハ之ヲ取消スヘシ

差押ノ取消ハ差押ヲ公告シタルト同一ノ新聞紙ニヨリ之ヲ公告ス

第三百三十六條 公訴提起以後ニナス訴訟手續ニハ其他豫審ニ付テノ規定ヲ準用ス

此訴訟手續終了後ニナス決定(第九百九十六條)ヲ以テ同時ニ差押ノ繼續又ハ取消ニ付キ裁判ヲナス

第三百三十七條 裁判所ハ不在ノ嫌疑者ニ出廷保護ヲ與フルコトヲ得裁判所ハ此付與ヲ條件ニ繋ラシムルコトヲ得

出廷保護ハ未決拘留ヲ免除スルモノトス但其保護ヲ與ヘタル犯罪行為ニ限ル
出廷保護ハ自由刑ニ處スル判決ヲナストキ又ハ嫌疑者逃走ノ準備ヲナストキ又ハ出廷保護ヲ與ヘラレタル條件ヲ履行セサルトキハ消滅ス

第三編 上 訴

第一章 通 則

自第三百三十八條至第三百四十五條

第三百三十八條 檢事局並ニ嫌疑者ハ裁判所ノ裁判ニ對シ許サレタル上訴ヲナスコトヲ得

檢事局ハ嫌疑者ノ利益ノ爲メニモ亦上訴ヲナスコトヲ得

第三百三十九條 辯護人ハ嫌疑者ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但嫌疑者ノ明言シタル意志ニ反スルコトヲ得ス

第三百四十條 嫌疑者ノ法律上代理人並ニ嫌疑ヲ受ケタル婦ノ夫ハ嫌疑者ニ許サレタル上訴ヲ嫌疑者ニ對シ進行スル期間内ニ獨立シテナスコトヲ得
前項ノ上訴及其訴訟手續ニハ嫌疑者ノ上訴ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百四十一條 拘留ヲ受ケタル嫌疑者ハ上訴ニ關スル陳述ヲ其監獄署ノ屬スル裁判所書記ノ調書ニヨリテナスコトヲ得其監獄署裁判所ニ屬セサルトキハ其監獄署所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ裁判

二四五

二四四

二四三

二四二

所書記ノ調書ニヨリテナスコトヲ得期間ヲ遵守スルニハ其期間内ニ調書ヲ作成セシムルヲ以テ足ル
第三百四十二條 許サレタル上訴ノ記名ニ付テノ錯誤ハ害トナラサルモノトス

第三百四十三條 検事局ノ提起シタル各上訴ハ不服ヲ申立ラレタル裁判ヲ嫌疑者ノ利益ノ爲メニモ
亦變更シ又ハ廢棄スルヲ得ルノ效力ヲ有ス

第三百四十四條 上訴ノ取下並ニ上訴提起ノ拋棄ハ上訴提起期間經過前ト雖有效ニ之ヲナスコトヲ
得、但嫌疑者ノ利益ノ爲メ検事局ノ提起シタル上訴ハ嫌疑者ノ承諾ナクシテ之ヲ取下クルコトヲ
得ス

辯護人ハ取下ケニ付テハ明示ノ授權ヲ要ス

第三百四十五條 上訴ニ付テノ裁判ヲ口頭辯論ニ基テナスヘキトキハ公判開始ノ後ハ相手方ノ承諾
アルトキニ限り取下ケヲナスコトヲ得

第二章 抗 告

自第三百四十六條
至第三百五十三條

二九三

第三百四十六條 抗告ハ第一審又ハ控訴審ノ裁判所ノ言渡シタル決定及裁判長豫審判事區裁判所判
事及受命判事又ハ受託判事ノ命令ニ對シテ之ヲナスコトヲ得但法律ニ於テ特ニ許ササル場合ハ此
限ニアラス

證人鑑定人其他ノ人モ亦其受ケタル決定及命令ニ對シ抗告ヲナスコトヲ得

高等地方裁判所及帝國裁判所ノ決定及命令ニ對シテハ抗告ヲナスコトヲ得ス

第三百四十七條 判決前ニナス判決裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲナスコトヲ得ス、但拘留、差押
又ハ刑ノ確定ニ付テノ裁判並ニ第三者ニ關スル總テノ裁判ハ此限りニアラス

第三百四十八條 抗告ハ原裁判ヲナシタル裁判所又ハ裁判長ノ屬スル裁判所ニ裁判所書記ノ調書ニ
ヨリ又ハ書面ヲ以テ之ヲナスモノトス急迫ナル場合ニ於テハ亦抗告裁判所ニ之ヲナスコトヲ得
其裁判所又ハ裁判長ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ其他ノ場合ニハ遅クシ
トモ三日内ニ抗告裁判所ニ送致スヘシ

前二項ノ規定ハ準備訴訟手續ニ於ケル區裁判所判事ノ裁判、受命判事又ハ受託判事及豫審判事ノ
裁判ニモ亦之ヲ適用ス

第三百四十九條 不服ヲ申立テラレタル裁判ノ執行ハ抗告ニヨリ停止セララルコトナシ但裁判ニ不
服ヲ申立テラレタル裁判所、裁判長又ハ判事並ニ抗告裁判所モ亦不服ヲ申立テラレタル裁判ノ執
行ヲ中止スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第三百五十條 抗告裁判所ハ抗告人ノ相手方ニ書面ニヨル答辯ヲナサシムルタメ抗告ヲ通知スル
コトヲ得、時宜ニヨリ必要ナル探知ヲ命シ又ハ自ラ之ヲナスコトヲ得

二九六

二九七

第三百五十一條 抗告ニ付テノ裁判ハ豫メ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲナシ時宜ニ依リテハ檢事局ノ意見ヲキキタル後之ヲナス

三〇〇

抗告ヲ理由アリトスルトキハ抗告裁判所ハ同時ニ事件ニ關シ必要ナル裁判ヲナスヘシ

二九四ノ
二項

第三百五十二條 抗告審ノ資格ヲ以テスル地方裁判所ノ言渡シタル決定ニ對シテハ拘留ニ關スルトキニ限り更ニ抗告ヲナスコトヲ得

其他ノ場合ニ於テハ抗告審ニ於テナシタル裁判ニ對シ更ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百五十三條 即時抗告ノ場合ニハ左ノ特別規定ヲ適用ス

抗告ハ裁判ノ告知ヲ(第三十條)以テ始マル一週間ノ期間内ニナスコトヲ要ス、期間ヲ遵守スルタメニ

ハ事件ヲ急迫ナリト認メサル場合ト雖抗告裁判所ニ抗告ヲナスヲ以テ足ル

裁判所ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ變更スルノ權ナキモノトス

第三章 控 訴

自第三百五十四條
至第三百七十三條

二五〇

第三百五十四條 控訴ハ參審裁判所ノ判決ニ對シ之ヲナスコトヲ得

二五二
二五四

第三百五十五條 控訴ハ判決言渡ノ後一週間内ニ裁判所書記ノ調書又ハ書面ニヨリ第一審裁判所ニ提起スヘシ

判決ノ言渡ヲ被告ノ闕席ニ於テナシタルトキハ期間ハ被告ニ對シ送達ヲ以テ始ルモノトス

第三百五十六條 控訴提起ノ期間ノ始マリハ被告ノ闕席ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ原狀回復ノ申

立ヲナシ得ルモ之レカ爲メ停止セラルルコトナシ

被告原狀回復ノ申立ヲナストキ控訴ハ原狀回復ノ申立ヲ棄却セラルル場合ノタメ直ニ期間内ニ之

ヲ提起スルニアラサレハ其效ナキモノトス控訴ニ關スル其後ノ處分ハ原狀回復申立ノ終結ニ至ル

マテ之ヲ中止ス

控訴ヲナシテ之ニ原狀回復ノ申立ヲ附帶セサルトキハ原狀回復ノ申立ヲ拋棄シタルモノト看做ス

第三百五十七條 期間内ノ控訴ノ提起ニヨリ判決ハ不服ヲ申立ラレタル部分ニ限り其確定力ヲ停止

セラル

理由ヲ付シタル判決ヲ未タ送達セラレサリシ控訴申立人ニハ控訴提起ノ後直ニ其判決ヲ送達スヘ

キモノトス

第三百五十八條 控訴ハ上訴提起期間經過ノ後一週間内ニ又ハ此時マテニ未タ判決ヲ送達セラレサ

リシトキハ其送達ノ後一週間内ニ第一審裁判所ニ於テ裁判所書記ニ調書ヲ作ラシメテ之ヲ辯明シ

又ハ抗告狀ヲ以テ辯明スルコトヲ得

第三百五十九條 控訴ハ一定ノ不服ナル部分ヲ限ルコトヲ得、之ヲ限ラサルトキハ又ハ全ク辯明ヲ

二五一

ナササルトキハ判決ノ全部不服ナリト看做ス

第三百六十條 控訴ヲ期間ヲ經過シテ申立タルトキハ第一審裁判所ハ其上訴ヲ不適法トシテ棄却スヘシ

控訴申立人ハ決定送達後一週間内ニ控訴裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得此場合ニハ訴訟記録ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ但判決ノ執行ハ之カ爲メニ停止セララルコトナシ

控訴ヲ期間内ニ提起シタルトキハ辯明期間經過ノ後裁判所書記ハ辯明アリタルト否トヲ問ハス訴訟記録ヲ検事局ニ提出スヘキモノトス検事局ハ自ラ控訴ヲシタルトキハ控訴ノ提起及辯明ニ付テノ書類ヲ被告ニ送達ス

第三百六十二條 検事局ハ訴訟記録ヲ控訴裁判所ノ検事局ニ送致シ其検事局ハ一週間内ニ裁判所ノ裁判長ニ差出スヘシ

第三百六十三條 控訴裁判所控訴提起ニ付テノ規定ヲ遵守セスト認ムルトキハ決定ニヨリ上訴ヲ不適法トシテ棄却スルコトヲ得其他ノ場合ニアリテハ上訴ニ付キ判決ヲ以テ裁判スルモノトス此決定ニ對シ即時抗告ニヨリ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第三百六十四條 公判準備ニハ第二百十三條第二百十五條乃至第二百二十四條ノ規定ヲ適用ス呼出ニハ被告ニ闕席ノ結果ヲ明示スヘキモノトス

第一審ニ於テ訊問セラレタル證人及鑑定人ノ呼出ハ其事件ヲ明瞭ナラシムル爲メ其再度ノ訊問ヲ必要ナラスト認ムルトキニ限り之ヲ爲ササルコトヲ得
新ナル證據方法ハ之ヲ許ス

呼出スヘキ證人及鑑定人ノ撰擇ニ方リテハ控訴辯明ノ爲メ被告ノ指名シタル者ニ注意スヘキモノトス

第三百六十五條 公判ヲ第二百四十二條第一項ノ規定ニ從ヒ開始シタル後報告者ハ證人ノ不在ニ於テ此マテナシタル訴訟手續ノ結果ニ付キ演述ヲナス第一審ノ判決ハ常ニ之ヲ朗讀スヘシ
次キニ被告ノ訊問及證據調ヲナスモノトス

第三百六十六條 報告及證據調ニ方リテハ書類ヲ朗讀スルコトヲ得第一審ノ公判ニ於テ訊問セラレタル證人及鑑定人ノ陳述ニ付テノ調書ハ第二百五十條第二百五十二條ノ場合ヲ除ク外證人又ハ鑑定人ヲ再ヒ呼出ストキ又ハ被告正當ノ時期ニ公判前其呼出ヲ申立タルトキハ検事局及被告ノ承諾ナクシテ之ヲ朗讀スルコトヲ許サス

第三百六十七條 證據調ヲ終リタル後検事局並ニ被告及其辯護人ハ其辯明及申立ヲ訊問セラレ特ニ不服申立人第一ニ訊問セラルモノトス被告ハ最終ノ發言權ヲ有ス

第三百六十八條 判決ハ其不服ヲ申立テラレタル部分ニ限り裁判所ノ審査ヲ受クルモノトス

二六二ノ

九〇

第三百六十九條 控訴ヲ理由アリト認ムルトキニ限り控訴裁判所ハ判決ヲ取消シテ事件ニ付テノ判決ヲナスヘキモノトス

訴訟手續ニ付テノ法則ニ違背シタルカタメ上告ノ理由トナルヘキ欠缺、判決ニ存スルトキハ控訴裁判所ハ其判決ヲ取消シ其場合ノ狀況ニヨリ必要ナルトキ裁判ノタメ第一審ニ差戻スコトヲ得

二六二

第一審裁判所不當ニ其管轄ヲ認メタルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ取消シテ事件ヲ管轄裁判所ニ移送シ又自ら第一審トシテ其事件ニ付キ管轄權ヲ有スルトキハ其事件ニ付キ判決ヲナスヘシ

二六六

第三百七十條 公判開始ニ方リ被告又ハ代理ヲ許サレタル場合ニ於テ其代理人出頭セス其闕席宥

恕スヘキ充分ノ理由ナキトキハ被告控訴ヲナシタルトキニ限り直ニ之ヲ棄却シ檢事局控訴ヲナシタルトキニ限り之ニ付テ辯論シ又ハ被告ノ引致又ハ拘留ヲ命スヘシ

被告ハ判決送達ノ後一週間内ニ第四十四條第四十五條ニ記載シタル要件ニヨリ原狀回復ヲ請求スルコトヲ得

二六五

第三百七十一條 第三百四十條ニ記載シタル者ノ一名ヨリ控訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ被告ヲ

モ公判ニ呼出ササルヘカラス其闕席シタルトキハ被告ヲ公判ニ強制シテ引致セシムルコトヲ得

第三百七十二條 判決ニ對シ被告又ハ被告ノ利益ノ爲メ檢事局又ハ第三百四十條ニ記シタル者ノ一名ヨリ不服ヲ申立タルトキハ被告ノ不利益ニ判決ヲ變更スルコトヲ許サス

第三百七十三條 其他ノ場合ニ於テハ第二編第六章ニ於テ公判ニ付キ掲ケタル規定ヲ適用ス

第四章 上 告

自第三百七十四條
第三百九十八條

二六七

第三百七十四條 上告ハ地方裁判所及陪審裁判所ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

二六七

第三百七十五條 判決前ニナシタル裁判ト雖其判決ノ證據トナリタルモノハ亦上告裁判所ノ判斷ヲ

受ク

二六八

第三百七十六條 上告ハ法律ニ違背シタル判決ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

二六九

法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

第三百七十七條 判決ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所又ハ陪審席ヲ構成セサリシトキ

第二 法律ニヨリ職務ノ執行ヨリ除外セラレタル判事、陪審官、又ハ參審官判決ニ參與シタルト

キ

第三 判事又ハ參審官偏頗ノ恐レアルカ爲メ避忌セラレ其避忌ノ申請ヲ理由アリト認メ又ハ不當

ニ棄却シタルニ拘ラス判決ニ參與シタルトキ

第四 裁判所ニ於テ其管轄ヲ不當ニ認メタルトキ

- 第五 公判ヲ檢事局又ハ法律上在廷ヲ要スル者ノ闕席ニ於テナシタルトキ
- 第六 訴訟手續公行ニ付テノ規定ニ違背シタル口頭辯論ニヨリ判決ヲナシタルトキ
- 第七 判決ニ裁判ノ理由ヲ付セサルトキ
- 第八 裁判ノ爲メ重要ナル點ニ關スル辯護ヲ裁判所ノ決定ニヨリ不適法ニ制限シタルトキ
- 第三百七十八條 檢事局ハ被告ノ不利益ニ判決ヲ廢棄セシムルタメ被告ノ利益ノタメ設ケタル規定ニ背キタルコトヲ上告ノ理由トナスコトヲ得ス
- 第三百七十九條 陪審官被告ヲ無罪ナリト言渡シタルトキハ檢事局ハ第三百七十七條第一、第二、第三、第五ノ規定又ハ問題ヲ出シタルコト又ハ出ササルコトヲ理由トスル場合ニ限り上告ヲナスコトヲ得
- 第三百八十條 控訴審ノ資格ヲ以テ言渡シタル地方裁判所ノ判決ニ對シ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルタメニナス上告ハ第三百九十八條ノ規定ニ背キタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲナスコトヲ得
- 第三百八十一條 上告ハ原裁判所ニ判決言渡後一週間内ニ裁判所書記ノ調書ニヨリ又ハ書面ヲ以テ之ヲナスヘシ
- 被告在廷セサルニ拘ラズ判決ヲ言渡シタルトキハ上告期間ハ判決ノ送達ヲ以テ始マル

- 第三百八十二條 上告ヲナスヘキ期間ノ開始ハ被告ノ缺席ノ儘言渡シタル判決ニ對シ原狀回復ヲ申立テ得ルモ之レカタメニ停止セララルルコトナシ
- 被告原狀回復ノ申立ヲナスモ原狀回復ノ申立ヲ棄却セラルル場合ノ爲メ上告期間内ニ上告ノ申立ヲナシ且ツ理由ヲ付スルニアラサレハ上告ハ其效ナキモノトス、上告ニ關スル其後ノ處分ハ原狀回復申立ノ完結スルマテ之ヲ中止ス
- 上告ト同時ニ原狀回復ノ申立ヲナササルトキハ原狀回復ノ申立ヲ拋棄シタルモノト看做ス
- 第三百八十三條 期間内ニ上告ヲナストキハ判決ノ確定ヲ停止ス但シ不服ヲ申立テラレサル部分ハ此限ニアラス
- 理由ヲ付シタル判決ヲ未タ送達セサル上告申立人ニハ上告ヲナシタル後判決ヲ送達ス
- 第三百八十四條 上告申立人ハ判決ニ服セスシテ其破毀ノ申立(上告申立)ヲナス部分ヲ陳述シ及其申立ニ理由ヲ付セサルヘカラス
- 其理由中ニ訴訟手續ニ付テノ規定ニ違背シタルカタメ又ハ其他ノ規定ニ違背シタルカ爲メ判決ニ不服ナルヤヲ明瞭ナラシムルコトヲ要ス始メノ場合ニハ瑕疵アル事實ヲ開示スルコトヲ要ス
- 第三百八十五條 上告申立及其理由ハ遅クトモ上訴期間終了後一週間内ニ若シ此時マテニ未タ判決ノ送達ヲ受ケルトキハ其送達後一週間内ニ原裁判所ニ差出スヘシ

被告ニアリテハ辯護人又ハ辯護士ノ署名シタル書面又ハ裁判所書記ノ調書ニヨルニアラサレハ前項ノ行爲ヲナスコトヲ得ス

二七四

第三百八十六條 上告ヲ期間經過後ニ提起シタルトキ又ハ上告申立ヲ期間内ニ差出ササルトキ又ハ第三百八十五條第二項ニ規定シタル方式ニ遵ツテ差出ササルトキハ原裁判所ハ決定ヲ以テ上訴ヲ不適法トシテ棄却スヘシ

上告申立人ハ此決定送達ノ後一週内ニ上告裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ得、此場合ニハ書類ヲ上告裁判所ニ送致ス但判決ノ執行ハ之カ爲メニ停止セラルルコトナシ

二七五

第三百八十七條 上告ヲ期間内ニ提起シ且ツ上告申立ヲ規定ノ方式ニヨリ期間内ニ差出シタルトキハ上告狀ヲ上告申立人ノ相手方ニ送達ス相手方ハ一週内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得、被告ハ亦其答辯ヲ裁判所書記ノ調書ニヨリテナスコトヲ得

答辯ヲナシタル後又ハ其期間經過ノ後検事局ハ訴訟記録ヲ上告裁判所ニ送致ス

二七三

第三百八十八條 訴訟記録ノ送致ヲ受ケタル裁判所ニ於テ上訴ニ付テノ辯論及裁判カ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルコトヲ發見シタルトキハ決定ニヨリ管轄違ヲ言渡スヘシ

管轄權ヲ有スル上告裁判所ヲ記載スヘキ前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス此決定ハ之ニ記載シタル裁判所ヲ拘束ス

二八五

訴訟記録ノ交附ハ検事局之ヲナス

第三百八十九條 上告裁判所ニ於テ上告提起ニ付テノ規定又ハ上告申立差出ニ付テノ規定ヲ遵守セサルモノト認ムルトキハ決定ニヨリ上訴ヲ不適法トシテ棄却スルコトヲ得

二七七

其他ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ上訴ニ付キ判決ヲ以テ裁判ス

第三百九十條 被告又ハ其請求ニヨリ被告ノ辯護人ニハ公判ノ日ヲ通知スヘシ、被告ハ公判ニ出頭シ若クハ委任狀ヲ有スル辯護人ヲシテ代理セシムルコトヲ得

二八二

拘留ヲ受ケタル被告ハ出頭ヲ請求スルコトヲ得ス

二八三

第三百九十一條 公判ハ報告者ノ演述ヲ以テ始マルモノトス

次ニ検事局並ニ被告及其辯護人ニ其辯明及申立ヲ審問ス但シ上告申立人ヲ第一ニ審問ス被告ハ最終ノ發言權ヲ有ス

二八六

第三百九十二條 上告申立及訴訟手續ノ欠缺ヲ上告ノ理由トスルトキハ上告申立ヲナスニ方リ記載シタル事實ニ限リ上告裁判所ノ審査ヲ受ク

第三百九十三條 上告ヲ理由アリトスルトキニ限リ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ破毀スヘシ

モ害トナルコトナシ

判決ノ基礎タル確定事實ハ判決破毀ノ基礎タル法律違背ニ關係スルトキニ限り同時ニ之ヲ破毀ス
ヘシ

二二八
八八七
八七六

第三百九十四條 判決ノ基礎タル確定事實ニ法律ヲ適用スル際法律ニ違背シタルカ爲メニノミ判決
ヲ破毀スルトキハ上告裁判所ハ刑ニ事實上ノ審理ナクシテ單ニ無罪又ハ停止又ハ確定シタル刑ヲ
言渡スヘキ場合又ハ上告裁判所カ検事局ノ申立ニ同意シテ法律上最下限ノ刑ニ處スルヲ相當ト認
ムルトキニ限り事件ニ付キ自ら裁判ヲナスヘシ
其他ノ場合ニ於テハ更ニ辯論及裁判ヲナサシムルタメ原裁判所又ハ同邦ニ屬スル同等ノ接近シタ
ル裁判所ニ事件ヲ差戻スヘシ

尙ホ審問ヲ要スル犯罪行為カ下級裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ其裁判所ニ事件ヲ差戻スコトヲ得
第三百九十六條 判決ノ言渡ハ第二百六十七條ニ從テ之ヲナス

二八九

第三百九十七條 擬律錯誤ニ因リ被告ノ利益ノ爲メニ判決ヲ破毀シタル場合ニ於テ其判決ノ破毀セ
ラルル部分尙ホ上告ヲナササリシ他ノ被告ニ及フトキハ此被告モ亦上告ヲナシタルモノト看做シ
テ言渡スヘキモノトス

第三百九十八條 更ニ辯論及裁判ヲナスタメ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ判決ヲ破毀ス
ル基本トナシタル法律上ノ判斷ヲ其裁判ノ基本トナス義務アリ

判決ニ對シ被告又ハ被告ノ利益ノタメニ検事局又ハ第三百四十條ニ記載シタル者ノ一名不服ヲ申
立タルトキニ限り新ナル判決ハ最初言渡シタル刑ヨリ重キ刑ニ處スルコトヲ得ス

第四編

確定判決ニヨリ終結シタル訴訟手

續ノ再施

自第三百九十九條
至第四百十三條

三〇一

第三百九十九條 確定判決ニヨリ終結シタル訴訟手續ノ再施ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲
メニ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得

第一 公判ニ於テ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ不利益ノ爲メニ真正ナルモノトシテ提出セラレタル
證書カ偽造又ハ變造ナリシトキ

第二 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ不利益ノタメナシタル證言又ハ鑑定ノ宣誓ニヨリ證人又ハ鑑定
人カ故意又ハ過失ニヨリ宣誓義務ニ違背スル罪ヲ犯シタルトキ

第三 事件ニ付キ其職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ犯シタル判事、陪審官又ハ參審官カ判決ニ參
與シタルトキ但此違背カ裁判上ノ刑事訴訟手續ノ方法ニ於テ科スヘキ公然ノ刑ニ處スヘキモノニ
シテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ起因セサルトキニ限ル

第四 刑事判決ノ憑據トナリタル民事判決カ他ノ確定判決ニヨリ廢棄セラレタルトキ

第四編 確定判決ニヨリ終結シタル訴訟手續ノ再施

第五 單獨ニテ又ハ以前ノ立證ト結合シテ被告ヲ無罪トナスノ理由又ハ輕キ刑罰法ヲ適用シテ輕ク處罰スルノ理由トスルニ適當ナル新事實若クハ證據方法ヲ提出シタルトキ但參審裁判所ニ於テ辯論シタル事件ニアリテハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者カ以前ノ訴訟手續(控訴審ヲ含ム)中ニ知ラサリシ又ハ過失ナクシテ主張スルコトヲ得サリシ事實又ハ證據方法ノミヲ提出スルコトヲ得

第四百 條 再審ノ申立ニヨリ判決ノ執行ヲ停止セララルルコトナシ但裁判所ハ執行ノ延期又ハ中斷ヲ命スルコトヲ得

三〇二

第四百一 條 刑ヲ執行シタル後又ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡シタル後ト雖再審ノ申立ヲナスコトヲ得

死亡シタル場合ニ於テハ死者ノ配偶者、直系ノ尊族親又ハ卑屬親並ニ兄弟姉妹ヨリ其申立ヲナスコトヲ得

第四百二 條 確定判決ニヨリ終結シタル裁判手續ノ再施ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ不利益ノタメニ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得

第一 公判ニ於テ其利益ノ爲メニ眞正ナルモノトシテ提出セラレタル證書カ偽造又ハ變造ナリシトキ

第二 其利益ノ爲メニナシタル證言又ハ鑑定ノ宣誓ニヨリ證人又ハ鑑定人カ故意又ハ過失ニヨリ

宣誓義務ニ違背スル罪ヲ犯シタルトキ

第三 其事件ニ付キ職務上ノ義務ニ違背スル罪ヲ犯シタル判事、陪審官又ハ參審官カ判決ニ參與シタルトキ但此違背裁判上ノ刑事訴訟手續ニヨリ公然ノ刑ヲ以テ罰セラルヘキトキニ限ル

第四 無罪ノ言渡ヲ受ケタル者裁判所又ハ裁判所外ニ於テ犯罪行爲ノ信用スヘキ自白ヲナシタルトキ

第四百三 條 同一ノ法律ニヨリ定メタル刑ノ範圍内ニ於ケル刑ノ變更ヲ目的トスル再審ハ之ヲナスコトヲ得ス

第四百四 條 犯罪行爲ノ主張ヲ理由トスル再審ノ申立ハ此行爲ニ付キ有罪言渡ノ確定シタルトキ又ハ證據ノ欠缺外ノ理由ニヨリ刑事訴訟手續ヲ開始シ又ハ續行スルコトヲ得ヘカラサルトキニアラサレハ之ヲ許サス

第四百五 條 上訴ニ付テノ一般ノ規定ハ再審ノ申立ニモ亦之ヲ適用ス

第四百六 條 申立ニハ再審ノ法律上ノ原因及ヒ證據方法ヲ開示スヘシ

被告及ヒ第四百一 條第二項ニ掲ケタル者ハ辯護人又ハ辯護士ノ署名シタル書面又ハ裁判所書記ノ調書ニヨリニアラサレハ申立ヲナスコトヲ得ス

第四百七 條 再審ノ申立ノ許否ハ其申立ニヨリ不服ヲ申立テラレタル判決ヲナシタル裁判所之

三〇四

ヲ裁判ス上告審ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ第三百九十九條第三號又ハ第四百二條第三號以外ノ理由ニヨリ不服ヲ申立ツルトキハ上告セラレタル判決ヲナシタル裁判所之ヲ裁判ス
裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲナス

第四百八條 申立ヲ定規ノ方式ニヨリナササルトキ又ハ其申立中一モ再審ノ法律上ノ理由ヲ主張セス又ハ一モ適切ナル證據方法ヲ申述セサルトキハ其申立ハ許スヘカラサルモノトシテ之ヲ棄却ス

其他ノ場合ニ於テハ期間ヲ定メテ辯明セシムル爲メニ申立ヲ申立人ノ相手方ニ送達ス

第四百九條 申立ヲ許スヘキモノト認ムルトキハ裁判所ハ申出テタル證據調ヲ一名ノ判事ニ委任ス但證據調ヲナスヲ必要トセサルトキハ此限ニアラス

證人及ヒ鑑定人ヲ宣誓セシメテ訊問スルヘキヤ否ヤハ裁判所ノ意見ニ任カス
證據調ニ在席スル關係人ノ權利ニ付テハ豫審ニ關スル規定ヲ適用ス

證據調ノ終リタル後期間ヲ定メ更ニ辯明スヘキ旨ヲ檢事局及ヒ被告ニ催告ス

第四百十條 再審ノ申立ハ之ニ掲ケタル主張ヲ充分確認シ能ハサルトキ又ハ第三百九十九條第一號第二號若クハ第四百二條第一號第二號ノ場合ニ於テ事件ノ狀況上此等ノ規定ニ掲ケタル行爲カ裁判ニ影響シタリト認ムヘカラサルトキハ口頭辯論ヲ經スシテ理由ナキモノトシテ棄却スヘシ

其他ノ場合ニ於テハ裁判所ハ再審及ヒ公判ノ再開ヲ命ス

第四百十一條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者既ニ死亡シタルトキハ裁判所ハ公判ヲ再開スルコトナク尙ホ必要ナル證據調ヲ爲シタル後無罪ヲ言渡シ又ハ再審ノ申立ヲ却下スヘシ

其他ノ場合ニ於テモ裁判所ハ無罪ヲ言渡スニ足ル證據アルトキハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ直ニ無罪ノ言渡ヲナスコトヲ得但公訴ノ場合ニ於テハ檢事局ノ承諾アルトキニ限ル
無罪ノ言渡ト同時ニ原判決ヲ廢棄スヘシ

此廢棄ハ申立人ノ請求アルトキハ獨逸官報ニ公告ス裁判所ノ意見ニヨリ他ノ新聞紙ニモ公告スルコトヲ得

第四百十二條 再審ノ申立アリタルニヨリ第一審裁判所ノ言渡ス總テノ裁判ニ對シテハ即時抗告ニヨリ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第四百十三條 再開シタル公判ニ於テハ原判決ヲ維持スルカ又ハ原判決ヲ廢棄シテ更ニ事件ニ付キ判決ヲナスヘシ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ又ハ其者ノ利益ノタメニ檢事局若クハ第三百四十條ニ掲ケタル者ノ一名ヨリ再審ノ申立ヲナシタルトキハ新判決ヲ以テ原判決ニテ言渡シタルヨリモ重キ刑ヲ科スルコトヲ得ス

第五編 訴訟手續ニ於ケル被害者ノ關與

第一章 私 訴 自第四百三十四條至第四百三十四條

第四百十四條 誹毀及ヒ身體傷害ハ告訴ヲ待テ訴追スル場合ニ限リ豫メ檢事局ニ犯罪ヲ告知スルコトヲ要セスシテ私訴ヲ以テ被害者ヨリ訴追スルコトヲ得

刑法ニ於テ獨立シテ處罰ヲ申立ツル權利ヲ與ヘラレタル者ハ前項ト同一ノ種ヲ有ス
被害者カ法律上ノ代理人ヲ有スルトキハ此代理人ニ於テ私訴提起ノ權ヲ執行ス社團、會社、其他ノ組合ニシテ其資格ニ於テ民事訴訟ヲナシ得ル者カ被害者ナルトキハ民事訴訟ニ於テ其代理ヲナス者私訴提起ノ權ヲ執行ス

第四百十五條 同一ノ犯罪行為ニ付キ私訴權利者二人以上存スルトキハ各自獨立シテ此權利ヲ執行スルコトヲ得

但權利者ノ一人ヨリ私訴ヲ提起シタル後ハ其他ノ權利者ハ該訴訟手續ニ參加スルノ權ノミヲ有ス
特ニ參加申立ヲナストキノ訴訟手續ノ現狀ニ於テ參加スルコトヲ要ス
事件ニ付キ言渡シタル裁判ハ總テ私訴ヲ提起セサル權利者ニ對シテモ亦嫌疑者ノタメニ其效力ヲ有ス

第四百十六條 第四百十四條ニ掲ケタル犯罪行為ニ付テハ公益ニ關スルトキニ限リ檢事局ヨリ公訴ヲ提起ス

第四百十七條 私訴ノ訴訟手續ニハ檢事局關與スルノ義務ナシ但公判期日ハ檢事局ニ通知スヘシ
檢事局ハ判決確定ニ至ルマテハ事件ノ如何ナル程度ニアルヲ問ハス明示ノ陳述ニヨリ訴追ヲ引受クルコトヲ得、上訴ヲナシタルトキハ訴追ヲ引受ケタルモノト看做ス
檢事局訴追ヲ引受クルトキハ其後ノ訴訟手續ハ副訴人トシテノ被害者ノ附帶ニ付キ本篇第二章ニ定メタル規定ニ從フ

第四百十八條 私訴人ハ辯護士ノ保佐ヲ以テ出頭シ又ハ委任狀ヲ有スル辯護士ヲシテ代理セシムルコトヲ得後ノ場合ニハ私訴人ニナス送達ヲ有效ニ辯護士ニ對シテナスコトヲ得

第四百十九條 私訴人ハ國庫及ヒ嫌疑者ニ生スル豫定費用ノタメ民事訴訟ニ於テ原告カ被告ノ求メニヨリ訴訟費用ニ付キ保證ヲ立テサルヘカラサルト同一ノ要件ニ從ヒ保證ヲ立テサルヘカラス保證ハ現金又ハ有價證券ヲ供託シテ之ヲナス
保證ノ額及ヒ保證ヲ立ツヘキ期間並ニ受救權ノ許可ニ付テハ民事訴訟ニ於ケルト同一ノ規定ヲ適用ス

第四百二十條 誹毀ニ付テハ刑法第九十六條ニ掲ケタル場合ノ一モ存セサルトキニ限リ獨逸各

邦司法省ノ指定スヘキ和解官廳ノ和解不調トナリタル後始メテ訴ヲ提起スルコトヲ得、原告ハ和解不調證明書ヲ訴ト共ニ差出スヘシ

當事者カ同一市町村内ニ住居セサルトキハ此規定ヲ適用セス

第四百二十一條 訴ノ提起ハ裁判所書記ノ調書ニヨリ又ハ公訴狀ヲ提出シテ之ヲナス、訴ハ第九百九十八條第一項ニ掲ケタル要件ニ適合セサルヘカラス公訴狀ト共ニ其謄本ニ通テ提出スヘシ

第四百二十二條 訴ヲ規定ニ從ヒ提起シタルトキハ裁判所ハ陳述ヲナサシムル爲メ期間ヲ定メテ之ヲ嫌疑者ニ通知シ且ツ之ヲ了知セシムル爲メ検事局ニ通知ス

第四百二十三條 嫌疑者ノ陳述アリタル後又ハ期間經過ノ後、裁判所ハ検事局ヨリ直接ニ提起シタル公訴ニ適用スル規定ニ從ヒ公判手續ヲ開始スヘキヤ又ハ訴ヲ却下スヘキヤニ付キ裁判ヲナス

第四百二十五條 其後ノ訴訟手續ハ公訴ニ關スル訴訟手續ノタメタル規定ニ從テ

陪審裁判所ニ於テハ公訴ニヨリ繫屬シタル事件ト同時ニ私訴事件ニ就キ辯論スルコトヲ得ス

第四百二十六條 裁判所ノ裁判長ハ證人又ハ鑑定人トシテ公判ニ呼出スヘキ者ヲ定ム

私訴人及ヒ被告ハ直接ニ證人又ハ鑑定人ヲ呼出スコトヲ得

第四百二十七條 公判ニ於テハ被告モ亦辯護士ノ保佐ヲ以テ出頭シ又ハ委任狀ヲ有スル辯護士ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第三百二十九條ノ規定ハ原告ノ辯護士竝ニ被告ノ辯護士ニ適用ス

裁判所ハ原告本人竝ニ被告本人ノ出頭ヲ命シ亦被告ヲ拘引セシムルコトヲ得

第四百二十八條 相互誹毀又ハ相互身體傷害ノ場合ニ於テ嫌疑者ハ第一審ニ於ケル最終ノ供述^(第二十七條)ヲ終ルマテ反訴ニヨリ原告ノ處罰ヲ申立ツルコトヲ得

本訴及ヒ反訴ニ付テハ同時ニ判決ヲナスヘシ

本訴ノ取下ハ反訴ニ付テハ訴訟手續ニ影響スルコトナシ

第四百二十九條 裁判所ハ事件ニ付キ辯論ヲナシタル後本章ニ規定シタル訴訟手續ヲ適用スヘカラサル犯罪行為カ確定シタリト認ムヘキ事實ヨリ顯ハレタリト認ムルトキハ此事實ヲ掲ケサルヘカラサル判決ニヨリ訴訟手續ノ停止ヲ言渡スヘシ

此場合ニ於テハ辯論ヲ検事局ニ通知スヘシ

第四百三十條 公訴ニ付テハ訴訟手續ニ於テ検事局ノナシ得ル上訴ハ私訴人モ亦之ヲナスコトヲ得第四百二條ノ場合ニ於ケル再審ノ申立ニ付テモ亦同シ第三百四十三條ノ規定ハ私訴人ノ上訴ニ適用ス

私訴人ハ辯護士ノ署名シタル書面ニヨルニアラサレハ上告申立及ヒ確定判決ヲ以テ終結シタル訴訟手續再施ノ申立ヲナスコトヲ得ス

公訴ニ付テノ訴訟手續ニ於ケルト同一ニ第三百六十一條第三百六十二條第三百八十七條ニ於テ命シタル書類ハ之ヲ検事局ニ提出ス其送致ハ検事局之ヲナス不服申立人ヨリ相手方ニナス控訴狀及ヒ上告狀ノ送達ハ裁判所書記之ヲナス

第四百三十一條 私訴ハ第一審ノ判決言渡マテハ之ヲ取下ルコトヲ得、適法ナル控訴ノ提起アリタルトキハ第二審ノ判決言渡ニ至ルマテ之ヲ取下クルコトヲ得

第一審ノ訴訟手續ニ於テ又ハ被告カ控訴ヲ提起シタル場合ノ第二審ノ訴訟手續ニ於テ私訴人公判ニ出頭セサルトキ又ハ辯護士ヲシテ代理セシメサルトキ又ハ裁判所ニ於テ本人出頭ヲ命シタルニ拘ラス公判又ハ其他ノ期日ニ出頭セサルトキ又ハ訴訟手續ノ停止ヲ豫告シテ定メタル期間ヲ遵守セサルトキハ私訴ヲ取下タルモノト看做ス

私訴人ヨリ控訴ヲ提起シタル場合ニ前項ニ掲ケタル懈怠アルトキハ直ニ控訴ヲ棄却スヘシ但第三百四十三條ノ規定ハ之カタメニ妨ケラルルコトナシ

私訴人ハ懈怠後一週間内ニ第四十四條第四十五條ニ記載シタル要件ニ從ヒ原狀回復ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十二條 取下ケタル私訴ハ再ヒ提起スルコトヲ得ス

第四百三十三條 私訴人死亡スルトキハ訴訟手續ヲ停止ス但嫌疑者カ不實ナルコトヲ知リテ他人ニ

對シ之ヲ蔑視スヘキ事實公衆ヨリ輕侮ヲ受クヘキ事實ヲ唱導シ又ハ流布シタルコトヲ理由トシテ私訴ヲナセシトキハ此訴ハ原告ノ死亡後父母子女又ハ子女ノ配偶者之ヲ繼續スルコトヲ得
此繼續ハ私訴人ノ死亡ノ時ヨリ起算シ二ヶ月内ニ權利者ヨリ裁判所ニ申立ツルニアラサレハ其權利ヲ失フモノトス

第四百三十四條 私訴ノ取下及ヒ私訴人ノ死亡竝ニ私訴ノ繼續ハ嫌疑者ニ告知ス

第二章 副

訴 自第四百三十五條至第四百四十六條

第四百三十五條 何人タリトモ第四百十四條ノ規定ニ從ヒ私訴人タル權利ヲ有スルモノハ提起シタル公訴ニ副訴ノ原告トシテ訴訟手續中何時タリトモ附帶スルコトヲ得此附帶ハ判決言渡ノ後ト雖
上訴提起ノ爲メ之ヲナスコトヲ得

裁判所ノ裁判ヲ求ムル申立ニ依リ(第七十條)公訴ヲ提起セシメタル者ハ其生命、健康、自由、身分又ハ財産權ニ對シ犯罪アリタルトキニ限り同一ノ權ヲ有ス

第四百三十六條 附帶申立ハ裁判所ニ書面ニヨリ之ヲナス

裁判所ハ検事局ノ意見ヲ求メタル後副訴人ニ附帶ノ權アリヤ否ヤニ付キ裁判スヘシ
副訴人ハ保證ヲ立ツル義務ナシ

第四百三十七條 副訴人ハ附帶後私訴人ノ權利ヲ取得ス

副訴人ハ陪審官ノ承認又ハ忌避ニ付キ意見ヲ述フルコトヲ得ス

第四百三十八條 訴訟手續ノ進行ハ附帶ニヨリテ妨ケラルルコトナシ

既ニ指定シタル公判期日竝ニ他ノ期日ハ日限ナキタメ副訴人ヲ呼出シ又ハ之ニ通知スルコト能ハサルトキト雖之ヲ變更セス

第四百三十九條 附帶前ニ言渡シ既ニ檢事局ニ通知シタル裁判ハ副訴人ニ通知スルヲ要セス

前項ノ裁判ニ對シ檢事局ノ不服申立期間經過シタルトキハ副訴人モ亦之ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百四十條 副訴人又ハ其辯護人公判ニ出頭セサルトキハ判決ノ送達ハ副訴人ニ對シテ之ヲナスモノトス

第四百四十一條 副訴人ハ檢事局ト關係ナク上訴スルコトヲ得

原裁判カ副訴人ノ上訴ニヨリ取消サルルトキハ檢事局ハ更ニ其事件ヲ擔任スルノ責ニ任ス

第四百四十二條 附帶ノ申立ハ取消並ニ副訴人ノ死亡ニヨリ其效力ヲ失フモノトス

第四百四十三條 償金ノ言渡ヲ請求シ得ル者ハ第四百三十五條乃至第四百四十二條ノ規定ニ從ヒ副訴人トシテ公訴ニ附帶スルコトヲ得

公訴ノ提起ニヨリ繫屬セル訴訟手續ニ於テ償金ノ言渡ヲ申立ントスル者ハ此目的ノタメニ副訴人トシテ公訴ニ附帶スルコトヲ要ス

第四百四十四條 償金言渡ノ申立ハ第一審判決ノ言渡マテ之ヲナスコトヲ得

此申立ハ判決ノ言渡アルマテ之ヲ取下ルコトヲ得、一旦申立ヲ取下ケタルトキハ更ニ之ヲナスコトヲ得ス

被告無罪ノ言渡ヲ受ケ又ハ訴訟手續ヲ停止シ又ハ判決ナクシテ事件ノ完結シタルトキハ申立モ亦別段ノ裁判ナクシテ完結シタルモノト看做ス

償金請求權ハ被害者ノ相續人之ヲ提起シ又ハ續行スルコトヲ得ス

第四百四十五條 副訴人ハ償金トシテ請求スル金額ヲ開示スルコトヲ要ス

申立額以上ノ償金ヲ言渡スコトヲ許サス

第四百四十六條 第四百四十四條第四百四十五條ノ規定ハ償金請求者カ私訴ヲ提起スル場合ニ準用ス

第六編 特種ノ訴訟手續

第一章 區裁判所判事ノ處刑命令ニ付テノ

訴訟手續 自第四百四十七條 至第四百五十二條

第四百四十七條 參審裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ裁判所構成法第二十七條第三號乃至第八號ニ掲ケタル輕罪ヲ除クノ外檢事局カ書面ニヨリ豫メ審理ヲナサスシテ刑ヲ確定セラレタシトノ申立ヲナシタルトキハ區裁判所判事ハ其申立ニ從ヒ書面上ノ處刑命令ニヨリ刑ヲ確定スルコトヲ得但百五十マルク以下ノ罰金、六週間以下ノ自由刑竝ニ沒收以外ノ刑ハ處刑命令ニヨリ確定スルコトヲ許サス

高等地方警察官署ニ被告人ヲ送致スル言渡ハ處刑命令ヲ以テ之ヲナスコトヲ許サス

第四百四十八條 申立ハ特定ノ刑ヲ目的トセサルヘカラス區裁判所判事ハ處刑命令ノ言渡ニ付キ疑ナキトハ其申立ニ應セサルヘカラス

區裁判所判事公判ヲ經スシテ刑ヲ確定スルニ付疑アルトキハ其事件ヲ公判ニ移スヘシ區裁判所判事申立以外ノ刑ヲ確定セントシ檢事局其申立ヲ固守スル場合モ亦同シ

第四百四十九條 處刑命令ニハ刑ノ確定ノ外、犯罪行為、適用法條及證據方法竝ニ嫌疑者送達後一

週間内ニ書面又ハ裁判所書記ノ調書ニヨリ區裁判所ニ異議ノ申立ヲナササルトキハ命令ヲ執行スヘキ旨ノ告知ヲモ記載スルコトヲ要ス

故障ハ期間満了前ト雖拋棄スルコトヲ得

第四百五十條 正當ノ時期ニ於テ故障ヲ申立ラレサル處刑命令ハ確定判決ノ效力ヲ生ス

第四百五十一條 正當ノ時期ニ故障ノ申立アリタルトキハ參審裁判所ノ公判ヲ開ク但公判開始前ニ檢事局ニ於テ訴ヲ取消シタルトキ又ハ故障ノ取下アリタルトキハ此限ニアラス被告ハ公判ノ際委任狀ヲ交付シテ辯護人ニ代理セシムルコトヲ得

參審裁判所ハ判決ヲナスニ方リ處刑命令ニ掲ケタル言渡ニ拘束セララルコトナシ

第四百五十二條 被告故ナク公判ニ出頭セサルトキハ證據調ヲナサスシテ判決ヲ以テ故障ヲ棄却スヘシ但辯護人ヲシテ代理出頭セシメタルトキハ此限ニアラス

故障申立期間ノ満了ニ對シ原狀回復ヲ許サレタル被告ハ判決ニ對シ原狀回復ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二章 警察即決處分後ノ訴訟手續 自第四百五十三條 至第四百五十八條

第四百五十三條 各邦法律ノ規定上警察署ニ其處分ニヨリ刑法上科セラルヘキ刑ヲ確定スル權アル

トキハ此權ハ違警罪ニノミ及ホスコトヲ得

警察署ハ十四日以内ノ拘留、罰金、罰金ヲ徵收スルコト能ハサル場合ニ於ケル換刑拘留及沒收以外ノ刑ヲ科スルコトヲ得ス

即決處分ニハ刑ノ確定ノ外犯罪行為、證據方法及適用法條ヲ掲ケ尙ホ嫌疑者ヨリ言渡後一週間内ニ其處分ヲナシタル警察署又ハ管轄區裁判所ニ正式裁判ノ申立ヲナシ得ル旨ヲモ記載スルコトヲ要ス但嫌疑者ニ於テ上級警察署ニ抗告シタル場合ハ此限ニアラス

時効ノ中斷ニ付テハ即決處分モ判事ノ行為ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百五十五條 申立期間ヲ懈怠シタルトキハ第四十四條第四十五條ニ掲ケタル要件ニ從ヒ原狀回復ヲナスコトヲ得原狀回復ノ申立ハ第四百五十四條第一項ニ掲ケタル官廳ニ差出スヘシ
此場合ニモ第四十六條第二項ノ規定ヲ適用ス

第四百五十六條 期間内ニ申立ヲナシタルトキハ參審裁判所ニ於テ公判ヲ開ク但此場合ニハ公訴狀ノ呈出又ハ公判開始ノ決定ヲ要セス

申立ハ公判開始ニ至ルマテ之ヲ取下クルコトヲ得

第四百五十七條 參審裁判所ニ於ケル訴訟手續ハ檢事局ヨリ提起シテ公判ニ付セラレタル公訴ノ場合ニ同シ

被告ハ委任狀ヲ有スル辯護人ヲ以テ代理セシムルコトヲ得

裁判所ハ判決ヲナスニ當リ警察官署ノ言渡ニ拘束セラルルコトナシ

第四百五十八條 公判ノ結果被告ノ行為警察官署ニ於テ即決處分ノ言渡ヲナス權ナカリシコト判然スルトキハ裁判所ハ其事件ニ付キ裁判ヲナス判決ヲ以テ其處分ヲ取消スヘシ

第三章 公課及租稅徵收ニ關スル規則ノ違犯行為ニ

付テノ訴訟手續 自第四百五十九條至第四百六十九條

第四百五十九條 公課及租稅徵集ニ關スル規則ノ違反行為ニ付キ行政官廳ノナス處刑裁決ハ罰金並ニ沒收ソミニ限り之ヲ確定スルコトヲ得

右ノ外處刑裁決ニハ犯罪行為、適用シタル刑法及證據方法ヲ掲ケ又嫌疑者カ法律上許サレタル抗告ヲ上級行政官廳ニナササルトキニ限り其裁決告知ノ後一週間内ニ之ヲ言渡シタル行政官廳又ハ之ヲ告知シタル行政官廳ニ裁判所ノ裁判ヲ求ムル申立ヲナシ得ル旨ノ告知ヲ記載スルコトヲ要ス處刑裁決ハ時効ノ中斷ニ付テハ判事ノ行為ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百六十條 裁判所ノ裁判ヲ求ムル申立アリタルトキハ行政官廳ハ記錄ヲ管轄檢事局ニ送致ス但シ行政官廳カ處刑裁決ヲ取消シタルトキハ此限ニアラス檢事局ハ更ラニ之ヲ裁判所ニ提出ス

第六編 特種ノ訴訟手續 第三章 公課及租稅徵收ニ關スル規則ノ違反行為
ニ付テノ訴訟手續

第四百六十一條 原狀回復ニ付テハ第四百五十五條ノ規定ヲ準用ス

第四百六十二條 期間内ニ裁判所ノ裁判ヲ求ムル申立アリタルトキハ管轄裁判所ハ公訴狀ノ提出又ハ公判手續開始ノ裁判ヲ要セスシテ公判ヲ始ムルコトヲ得

公判開始ニ至ルマテ申立ヲ取下ルコトヲ得

第四百六十三條 執行力アル處刑裁決ニヨリ確定シタル罰金ヲ嫌疑者ヨリ徴收スルコト能ハサルタメ自由刑ニ換刑スル必要アルトキハ検事局及嫌疑者ノ意見ヲ聞キタル後處刑裁決ヲ審査セスシテ裁判所ノ裁判ヲ以テ換刑ヲ言渡スヘシ

換刑ノ裁判ハ判決ヲナスニ付キ參審裁判所ニ管轄權アルトキハ區裁判所判事ノ處分ニヨリ之ヲナシ其他ノ場合ニ於テハ地方裁判所ノ決定ニヨリ之ヲナス
此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲナスコトヲ得

第四百六十四條 行政官廳ニ於テ處刑裁決ヲ言渡サス検事局ニ於テ其受ケタル訴退ノ申立ヲ拒絕スルトキハ行政官廳ハ自ラ公訴ヲ提起スルコトヲ得

行政官廳カ自カラ公訴ヲ提起スル場合ニハ行政部ノ官吏又ハ辯護士ヲ其代理人ニ任シ且ツ代理人ノ氏名ヲ公訴狀ニ記載スヘシ

第四百六十五條 検事局ハ訴訟手續中何時タリト雖干與スルコトヲ得

公判ニハ検事局ノ立會ヲ要ス又検事局ハ公判ノタメニ裁判所ノ命シタル呼出ヲナスヘシ
訴訟手續中ニナス總テノ裁判ハ検事局ニ告知ス

第四百六十六條 其他行政官廳ノ提起シタル公訴ニ付テノ訴訟手續ハ私訴ニ付キ定メタル規定ニ從フ

第四百六十七條 處刑裁決ニ對シ嫌疑者ヨリ裁判所ノ審理ヲ申立タルトキ又ハ検事局ヨリ公訴ノ提起アリタルトキハ行政官廳ハ其訴退ニ附帶スルコトヲ得此場合ニハ行政官廳自ラ公訴ヲ提起シタル場合ノ如ク代理人ヲ撰任スヘシ

此場合ニハ被害者カ副訴人トシテ附帶スルニ付キ定メタル規定ヲ適用ス

第四百六十八條 行政官廳カ公訴ヲ提起シタルトキ又ハ行政官廳カ訴退ニ附帶シタルトキハ判決及其他ノ總テノ裁判ハ其言渡ノ際行政官廳ノ代理人カ立會タルトキト雖行政官廳ニ送達スヘシ

第四百六十九條 上訴提起ノ期間ハ行政官廳ニ對シテハ送達ヲ以テ始マルモノトス
行政官廳ハ一ヶ月ノ期間内ニ上告申立書ヲ差出シ及ヒ其答辯ヲナスコトヲ得

第四章 兵役義務ヲ免レタル不在者ニ對スル

訴訟手續 自第四百七十條至第四百七十六條

第四百七十條 左ノ者ニ對スル審理ニ方リテハ被告ノ不在ニ於テ以下數條ノ規定ニ從ヒ公判ヲナスコトヲ得

陸海軍ノ現役ニ服スルコトヲ忌避スル爲メ許可ヲ得スシテ聯邦領域ヲ脱去シ又ハ徵兵適齡後聯邦領域外ニ滞在スル兵役義務者(刑法第四百十條第一項第一號)

許可ヲ得スシテ外國ニ移住シタル非職士官及ヒ之ニ相當スル軍醫、竝ニ陸海軍ノ豫備兵及後備兵(刑法第四百十條第一項第二號) 竝ニ豫メ軍事官廳ニ届出スシテ外國ニ移住シタル第一補充兵(刑法第三百六號及七百六十條第三號) 戰時又ハ戰端ヲ開カントスルノ際皇帝ノ發シタル勅令ヲ布告シタル後之ニ違背シテ外國ニ移住シタル兵役義務者(刑法第四百十條第一項第三號)

第四百七十一條 訴訟手續ニ付テハ被告獨逸國內ニ於テ最後ニ有セシ住所又ハ平常ノ居所ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

此訴訟手續ニ同時ニ數人ニ對シ之ヲナシ且ツ辯論及ヒ裁判ヲ分離セスシテ之ヲナスコトヲ得

第四百七十二條 公訴ノ提起及ヒ審理ノ開始ハ兵役義務者ノ監督ヲ命セラレタル官廳ノ陳述ニ基キ

之ヲナスモノトス

此陳述ハ刑法第四百十條第一項第一號ノ場合ニ於テハ左ノ如クナスヘキモノトス

兵役義務者其命セラレタル檢閲ニ出頭セサリシコト

兵役義務者ノ居所ヲ獨逸國ニ於テ探知スルコト能ハサリシコト

探究ヲナシタルニ拘ラス兵役義務者、陸海軍ノ現役ニ服スルコトヲ忌避スルタメ許可ヲ得スシテ聯邦領域ヲ脱去シ又ハ徵兵適齡後外國ニ在留シタリト認ムヘカラサル情況ナキコト

刑法第四百十條第一項第二號ノ場合竝ニ許可ヲ得スシテ外國ニ移住シタルタメ歸休ノ豫備兵及後備兵ニ對シテ審理ヲナス場合ニハ(刑法第三百六號及七百六十條第三號) 其陳述ヲ左ノ如クナスヘキモノトス

士官、軍醫、豫備兵又ハ後備兵ノ居所ヲ獨逸國ニ於テ探知シ能ハサリシコト

前項ノ者ニ外國移住ノ許可ヲ與ヘサリシコト

探究ヲナシタルニ拘ラス前項ノ者外國ニ移住シタリト認ムヘカラサル情況ナキコト

軍事官廳ニ届出スシテ外國ニ移住シタルタメ第一補充兵ニ對シテ審理ヲナス場合ニ於テ(刑法第三百六號) ハ其陳述ヲ左ノ如クナスヘキモノトス

補充兵ノ居所ヲ獨逸國ニ於テ探知シ能ハサリシコト

補充兵外國ニ移住スル前軍事官廳ニ届出ヲナササリシコト

探究ヲナシタルニ係ラス補充兵外國ニ移住シタリト認ムヘカラサル情況ナキコト
刑法第四百十條第一項第三號ノ場合ニ於テハ其申立ヲ左ノ如クナスヘキモノトス

兵役義務者ノ居所ヲ獨逸國內ニ於テ探知シ得サルコト及ヒ探究ヲナシタルニ拘ラス兵役義務者
皇帝ノ勅令ヲ公布シタル後外國ニ移住シタリト認ムヘカラサル情況ナキコト

第四百七十三條 公判ノ爲メニスル被告ノ呼出ハ第三百二十條第三百二十一條第一項ノ規定ニ從テ
之ヲナス

公示送達ノ場合ニ於ケル呼出ニハ被告ノ獨逸國內ニ於ケル最後ノ住所又ハ居所ヲ掲クヘキモノト
ス

呼出狀ニハ何レノ場合ヲ問ハス理由ナクシテ出頭セサルトキハ第四百七十二條ニ規定シタル申立
ニヨリ被告ニ有罪ノ言渡ヲナスヘキ旨ノ諭告ヲ附記スヘキモノトス

第四百七十四條 公判ニ付テハ第三百二十二條ノ規定ヲ適用ス

第四百七十五條 定規ノ法式ヲ遵守シタルトキハ第四百七十二條ニ規定シタル申立ニヨリ不在ノ被
告ニ對シ有罪ノ言渡ヲナスモノトス但此申立ニ反對スル情況アルトキハ此限ニアラス

或ル被告ニ付キ證據調ヲ要スルトキハ之ヲ他ノ事件ト分離シ別ニ終結スヘキモノトス

第四百七十六條 判決ノ送達ハ第四十條第二項ノ規定ニ從テ之ヲナスモノトス

第五章 沒收及財産差押ニ付テノ訴訟手續

自第四百七十七條
至第四百八十條

第四百七十七條 刑法第四十二條又ハ他ノ法規ニヨリ物件ノ沒收、毀棄又ハ廢棄ヲ獨立シテ言渡ノ

得ル場合ニハ其申立ハ本案ノ判決ト併合シテ裁判ヲナササルトキニ限り一定ノ人ヲ訴追スル場合
ニ管轄權ヲ有スヘキ裁判所ニ檢事局又ハ私訴人之ヲナスモノトス

陪審裁判所ニ代ハルモノハ其所在地ニアル刑事部ナリトス

辯論及ヒ裁判ハ期日ニ於テ之ヲナスモノトス其期日ニハ公判ニ付テノ規定ヲ準用ス

沒收、毀棄又ハ廢棄スル物件ニ付キ法律上請求權ヲ有スル者ハ之ヲ期日ニ呼出スヘキモノトス但
其呼出ハ之ヲナシ得ルトキニ限ル

其權利者ハ被告ニ屬スル凡テノ權利ヲ行使シ亦委任狀ヲ有スル辯護人ヲ以テ代理セシムルコトヲ
得此等ノ者出頭セサルモ訴訟手續及判決ヲナスコトヲ停止セス

第四百七十九條 判決ニ對スル上訴ハ檢事局、私訴人及ヒ第四百七十八條ニ規定シタル者ニ屬ス

第四百八十條 刑法第九十三條ニ記載シタル被告人ノ財産差押ニハ第三百三十三條乃至第三百三
十五條及ヒ刑法第四百十條ニ規定シタル差押ニハ第三百二十五條第三百二十六條ノ規定ヲ準用ス

第七編 刑ノ執行及訴訟費用

第一章 刑ノ執行

自第四百八十一條
至第四百九十五條

三一七

第四百八十一條 刑事判決ハ確定前ニ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第四百八十二條 執行スヘキ自由刑ニハ被告上訴ノ提起ヲ拋棄シ又ハ提起シタル上訴ヲ取下ケ又ハ申立ヲナサスシテ提起期間ヲ經過シタル後ニ受ケタル未決拘留日數ヲ算入スヘシ

第四百八十三條 刑ノ執行ハ裁判所書記ノ付與スル判決主文ノ認證アル謄本ニヨリ検事局之ヲナス但謄本ニハ執行力アルコトノ證明ヲ要ス

區裁判所検事ハ刑ヲ執行スルコトヲ得ス

參審裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ各邦司法省ノ命令ニ依リ刑ノ執行ヲ區裁判所判事ニ委任スルコトヲ得

三一八

第四百八十四條 帝國裁判所カ第一審トシテ判決シタル事件ニ付テハ恩赦權ハ皇帝ニ屬ス

第四百八十五條 死刑ノ判決ハ其執行ノ爲メ認可ヲ要セス但其執行ハ各邦君主、帝國裁判所カ第一審トシテ判決シタル事件ニ付テハ獨逸皇帝、恩赦權ヲ行フコトヲ欲セサルノ決定ヲナシタルトキ始メテ之ヲ行フコトヲ得

三一八ノ

懷胎ノ婦女又ハ精神病者ニハ死刑ノ判決ノ執行ヲナスコトヲ得ス

三一八ノ

第四百八十六條 死刑ノ執行ハ防圍アル場所ニ於テ之ヲ爲スモノトス

執行ノ際ハ第一審裁判所ノ職員二名、検事局ノ官吏一名、裁判所書記一名及監獄官吏一名立會フ可キモノトス、斬首ヲ行フ地ノ町村長ハ町村ノ議員又ハ其他名望アル住民ノ内十二名ヲ斬首ニ立會フ爲メ差遣セシムヘキコトヲ催告セラルヘキモノトス

其他有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ宗派ノ僧侶一名辯護人及執行ヲ指揮スル官吏ノ見込ヲ以テハ亦其他ノ人ニ入場ヲ許スヘキモノトス

三二一

其始末ニ付テハ調書ヲ作り検事局ノ官吏及裁判所書記之ニ署名スヘキモノトス

斬首セラレタル者ノ死體ハ其親族ノ求メニヨリ禮式ヲ用キス單ニ埋葬スルタメ之ニ引渡スヘキモノトス

三一九

第四百八十七條 自由刑ノ執行ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者精神病ニ罹リタルトキハ之ヲ延期スヘキモノトス

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者其執行ニヨリ直ニ生命ニ危害ヲ蒙ルノ恐レアルトキハ其他ノ疾病ニ付テモ亦同シ

刑ノ執行ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者監獄ノ設備ニヨリ即時ノ執行ニ堪ヘサル身體上ノ狀況ヲ有ス

ルトキモ亦之ヲ延期スルコトヲ得

第四百八十八條 其執行ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立ニヨリ即時ノ執行ノタメ本人又ハ其家族ニ刑ノ目的以内ノ重大ナル損害ヲ生スルトキニ限り之ヲ延期スルコトヲ得
刑ノ延期ハ四ヶ月ヲ超ユルヲ許サス

延期ノ許可ニハ保證又ハ其他ノ條件ヲ付スルコトヲ得

第四百八十九條 検事局ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者就刑ノ呼出ヲ受ケテ出頭セス又ハ逃走ノ嫌疑アルトキハ自由刑執行ノタメ拘引狀又ハ拘留狀ヲ發スルノ權ヲ有ス

検事局ハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者逃走シ又ハ隱匿シタルトキハ亦前項ト同一ノ目的ノタメ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

此權利ハ第四百八十三條第三項ノ場合ニ於テハ區裁判所判事ニモ亦屬スルモノトス

第四百九十條 刑事判決ノ解釋又ハ言渡シタル刑ノ計算ニ付キ疑ヲ生スルトキ又ハ刑ノ執行ノ許否ニ對シ異議ヲ申立ツルトキハ裁判所ノ裁判ヲ受クヘキモノトス

第四百八十七條ニ從ヒ刑ノ執行延期ノ申立ノ拒絕ニ對シ異議ヲ申立ツルトキモ亦同シ

執行ノ續行ハ之カタメニ停止セラルルコトナシ但裁判所ハ執行ノ延期又ハ停止ヲ命スルコトヲ得
第四百九十一條 言渡シタル罰金ヲ徵收スルコト能ハス且ツ之ニ代フヘキ自由刑ノ確定ヲナサザリ

シトキハ其罰金ハ後日裁判所ニ於テ之ヲ相當ノ自由刑ニ換フヘキモノトス

第四百九十二條 數個ノ確定判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲナシタル場合ニ於テ併合刑言渡ニ付テノ規定(刑法第七十九條)ヲ適用セザルトキハ其言渡シタル刑ヲ後日裁判所ノ裁判ヲ以テ合併刑ニ改ムヘキモノトス

第四百九十三條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者刑ノ執行始マリタル後疾病ノ爲メ監獄外ノ病院ニ入レラレタル場合ニ於テ入院日數ハ刑ノ執行ヲ停止スルノ目的ヲ以テ疾病ヲ生セシメタルニアラザルトキハ之ヲ刑期ニ算入スヘキモノトス

検事局ハ前項ノ目的ヲ以テ疾病ヲ生セシメタル場合ニハ裁判所ノ裁判ヲ請フヘキモノトス

第四百九十四條 刑ノ執行ノ際ニ要スル裁判所ノ裁判(第四百九十三條乃至第四百九十四條)ハ第一審裁判所口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ言渡スモノトス

其裁判前検事局及ヒ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ申立及辨明ヲナスノ機會ヲ與フヘキモノトス
併合刑ヲ確定スヘキ場合ニ於テ(第四百九十二條)之ニ依リ變更スヘキ數個ノ判決ヲ數個ノ裁判所ニ於テ言渡シタルトキハ其裁判ハ最モ重キ種類ノ刑ヲ言渡シタル裁判所又同種類ノ刑ナルトキハ最高ノ刑ヲ言渡シタル裁判所又此等ノ場合ニ於テ數個ノ裁判所其管轄權ヲ有スルトキハ最後ニ判決ヲ爲シタル裁判所之ヲナスモノトス以上ノ場合ニ於テ標準トナル判決ヲ上級裁判所ニ於テ言渡シタルト

キハ其第一審裁判所併合刑ヲ確定シ刑事判決ノ一ヲ帝國裁判所カ第一審トシテ言渡シタルトキハ帝國裁判所併合刑ヲ確定ス

此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ申立ツルコトヲ得但帝國裁判所之ヲ言渡シタルトキハ此限ニアラス
第四百九十五條 財産刑又ハ贖罪金ニ付キ言渡シタル裁判ノ執行ハ民事裁判所ノ判決執行ニ關スル規定ニ從テ之ヲナス

第二章

訴訟手續ノ費用

第四百九十六條 至第五百六條

第四百九十六條 各判決、各刑ノ執行命令及審問ヲ停止スル各裁判ニハ訴訟手續ノ費用ヲ負擔スヘキ者ヲ定ムヘキモノトス
費用ノ額又ハ其費用中ニ含マレタル立替金ノ要否ニ付キ爭ヲ生スルトキハ之ニ付キ別ニ裁判ヲナスモノトス

第四百九十七條 被告有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ費用ヲ負擔ス但其費用中ニハ公訴ノ準備及ヒ刑ノ執行ニヨリ生シタルモノヲ含ムモノトス
有罪ノ言渡ヲ受ケタル者判決確定前ニ死亡スルトキハ費用ハ其者ノ遺産之ヲ負擔ス

第四百九十八條 被告數個ノ犯罪行爲ヲ合シタル審問ニ於テ其一部ニ付テノミ有罪ノ言渡ヲ受ケタ

ルモ其他ノ刑事ノ辯論ニヨリ別段ノ費用ヲ生シタルトキハ其費用ノ負擔ヲ免ルルモノトス
同一ノ行爲ニ付キ有罪ノ言渡ヲ受ケタル共同被告ハ立替金ニ付キ連帶債務者タルノ責アルモノトス此規定ハ刑ノ執行又ハ未決拘留ニ依テ生シタル費用ニハ之ヲ適用セス

第四百九十九條 無罪ノ言渡ヲ受ケ又ハ訴追ヲ免セラレタル被告人ハ宥恕スヘカラサル懈怠ニヨリ生シタル費用ノミヲ負擔ス

被告人ニ生シタル必要ノ立替金ハ國庫ニ負擔セシムルコトヲ得

第五百條 相互誹毀又ハ相互身體傷害ノ場合ニ於テ其一方又ハ雙方無罪ノ言渡ヲ受クルモ其一方又ハ雙方ニ費用ヲ負擔セシムルノ言渡ヲナスコトヲ得

第五百一條 惡意若クハ重過失ニ出テタル告發ニ依リ裁判所外ニ於ケル訴訟手續タリトモ之ヲナサシメタルトキハ裁判所ハ告發者ヲ訊問シタル後國庫及嫌疑者ニ生シタル費用ヲ告發者ニ負擔セシムルコトヲ得

此裁判ハ未タ事件ヲ受理シタル裁判所ナキトキハ檢事局ノ申立ニヨリ公判手續ヲ開始スルノ權アルヘキ裁判所之ヲ爲ス

此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ申立ルコトヲ得

第五百二條 告訴アルニアラサレハナスコトヲ得サル訴訟手續ヲ其告訴ヲ取下タルカ爲メ停止

シタルトキハ告訴人其費用ヲ負擔ス

第五百三條 提起セラレタル私訴ニ付テノ訴訟手續ニ於テ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ亦私訴人ニ生シタル必要ノ立替金ヲ賠償スヘキモノトス

嫌疑者訴追ヲ免セラレ又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキ又ハ訴訟手續ヲ停止シタルトキハ私訴人ハ訴訟手續ノ費用並ニ嫌疑者ニ生シタル必要ノ立替金ヲ負擔スヘキモノトス

私訴人ノ申立ノ一部ノミ採用セラレタルトキハ裁判所ハ其費用ヲ相當ニ分擔セシムルコトヲ得

數名ノ私訴人及數名ノ被告ハ連帶債務者トシテ其實ニ任ス
賠償義務者ノ相手方カ辯護士ヲ用ユルトキハ本條ノ規定ニヨリ賠償スヘキ立替金ニハ民事訴訟法第八十七條ノ規定ニ從ヒ敗訴者ヨリ勝訴者ニ賠償スヘキ額ニ限り其手数料及立替金ヲ含ムモノトス

第五百四條 第七十三條ノ場合ニ於テ被告人訴追ヲ免セラレ又ハ無罪ヲ言渡サレ又ハ訴訟手續ヲ停止シタルトキハ第五百三條第二項第三項第四項第五項ノ規定ヲ告訴人ニ準用ス但裁判所ハ狀況ニヨリ告訴人ニ對シ其費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ免除スルコトヲ得

告訴人ハ副訴人トシテ出廷スルノ權ヲ有セサリシトキニ限り費用ニ付テノ裁判前訊問セラルヘキモノトス

第五百五條 取下ケタル上訴又ハ提起シタルモ其效ナキ上訴ノ費用ハ上訴者之ヲ負擔ス檢事局上訴ヲナシタルトキ嫌疑者ニ生シタル必要ノ立替金ヲ國庫ニ負擔セシムルコトヲ得上訴ノ一部其效アリタルトキハ裁判所其費用ヲ相當ニ分擔セシムルコトヲ得

再審ノ申立ニ因リ生シタル費用ニ付テモ亦同シ
原狀回復ノ費用ハ申立人ノ負擔トス但相手方ノ理由ナキ異議ニヨリ生シタル費用ハ此限ニアラス
第五百六條 第一審トシテ帝國裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付テハ國庫ノ負擔スヘキ費用ヲ獨逸國庫ニ負擔セシム

新譯 獨逸六法 刑事訴訟法 終

附錄

帝國刑事訴訟法對比條文索引

第一條	一五二條	第二十八條	九條
第二條		第二十九條	一〇條
第三條		第三十條	一四條
第四條		第三十一條	一四條
第五條		第三十二條	一四條
第六條		第三十三條	一四條
第七條		第三十四條	一五條
第八條		第三十五條	一五條
第九條		第三十六條	一五條
第十條		第三十七條	一五條
第十一條		第三十八條	一五條
第十二條		第三十九條	一五條
第十三條		第四十條	二二條
第十四條		第四十一條	二四條
第十五條			
第十六條	四二條、四三條		
第十七條	四四條		
第十八條			
第十九條	三七條、四〇條		
第二十條			
第二十一條			
第二十二條	三一條、二		
第二十三條			
第二十四條			
第二十五條	一條、二條		
第二十六條	七條、八條		
第二十七條	一二條		

附錄

一

第四十二條 二五條、二六條、二七條、二八條
 第四十三條 二九條
 第四十四條 三〇條
 第四十五條 三一條
 第四十六條 一五八條
 第四十七條 一五八條
 第四十八條 一五六條
 第四十九條 一五六條
 第五十條
 第五十一條 一五六條
 第五十二條 一五六條
 第五十三條 一五六條
 第五十四條
 第五十五條
 第五十六條
 第五十七條
 第五十八條

第五十九條
 第六十條
 第六十一條
 第六十二條 一六八條、一七六條、一九七條
 第六十三條
 第六十四條
 第六十五條 一六九條
 第六十六條 一七七條
 第六十七條 一八二條
 第六十八條 一九四條
 第六十九條 一三三條
 第七十條 一八三條
 第七十一條 一三四條
 第七十二條 一三四條
 第七十三條 一三五條
 第七十四條
 第七十五條 一一二條

第七十六條 一一四條
 第七十七條
 第七十八條
 第七十九條
 第八十條 一二七條
 第八十一條
 第八十二條
 第八十三條
 第八十四條
 第八十五條
 第八十六條 一二三條
 第八十七條
 第八十八條
 第八十九條
 第九十條
 第九十一條
 第九十二條 一八五條、一八六條
 第九十三條 一九〇條

第九十四條
 第九十五條 一八六條
 第九十六條
 第九十七條
 第九十八條
 第九十九條
 第一百條
 第一百一條
 第一百二條 八六條
 第一百三條 八六條
 第一百四條 一〇二條、一〇五條、一〇六條
 第一百五條 一〇二條
 第一百六條 九四條
 第一百七條
 第一百八條 一九一條
 第一百九條
 第一百十條

第一百十一條
 第一百十二條 一八四條
 第一百十三條 九九條
 第一百十四條 九五條、九七條
 第一百十五條 四八條
 第一百十六條
 第一百十七條 四八條
 第一百十八條 五〇條
 第一百十九條 五〇條
 第一百二十條
 第一百二十一條 六七條
 第一百二十二條 六一條
 第一百二十三條 五一條、五七條
 第一百二十四條 五四條、五六條
 第一百二十五條 五二條、五三條、五五條
 第一百二十六條 六九條
 第一百二十七條 五八條
 第一百二十八條

第一百二十九條
 第一百三十條 四九條
 第一百三十一條
 第一百三十二條
 第一百三十三條
 第一百三十四條 七〇條
 第一百三十五條 七三條、八七條
 第一百三十六條 七二條
 第一百三十七條 七九條
 第一百三十八條 七七條
 第一百三十九條 八三條
 第一百四十條 八二條
 第一百四十一條 八四條
 第一百四十二條
 第一百四十三條
 第一百四十四條
 第一百四十五條
 第一百四十六條

附 錄

第四百四十七條
 第四百四十八條
 第四百四十九條
 第四百五十條
 第四百五十一條
 第四百五十二條
 第四百五十三條
 第四百五十四條
 第四百五十五條
 第四百五十六條
 第四百五十七條
 第四百五十八條
 第四百五十八條之二
 第四百五十八條之三
 第四百五十九條
 第四百六十條
 第四百六十一條
 第四百六十二條
 第四百六十三條

第四百六十四條
 第四百六十五條
 第四百六十六條
 第四百六十七條
 第四百六十八條
 第四百六十九條
 第四百七十條
 第四百七十一條
 第四百七十二條
 第四百七十三條
 第四百七十四條
 第四百七十五條
 第四百七十六條
 第四百七十七條
 第四百七十八條
 第四百七十九條
 第四百七十九條之二
 第四百七十九條之三
 第四百八十條
 第四百八十一條
 第四百八十二條
 第四百八十三條
 第四百八十四條
 第四百八十五條
 第四百八十六條
 第四百八十七條
 第四百八十八條
 第四百八十九條
 第四百九十條
 第四百九十一條
 第四百九十二條
 第四百九十三條
 第四百九十四條
 第四百九十五條
 第四百九十六條
 第四百九十七條
 第四百九十八條

四

第四百九十九條
 第五百條
 第五百一條
 第五百二條
 第五百三條
 第五百四條
 第五百五條
 第五百六條
 第五百七條
 第五百八條
 第五百九條
 第五百十條
 第五百十一條
 第五百十二條
 第五百十三條
 第五百十四條
 第五百十五條
 第五百十六條

第五百十七條
 第五百十八條
 第五百十九條
 第五百二十條
 第五百二十一條
 第五百二十二條
 第五百二十三條
 第五百二十四條
 第五百二十五條
 第五百二十六條
 第五百二十七條
 第五百二十八條
 第五百二十九條
 第五百三十條
 第五百三十一條
 第五百三十二條
 第五百三十三條

第五百三十四條
 第五百三十五條
 第五百三十六條
 第五百三十七條
 第五百三十八條
 第五百三十九條
 第五百四十條
 第五百四十一條
 第五百四十二條
 第五百四十三條
 第五百四十四條
 第五百四十五條
 第五百四十六條
 第五百四十七條
 第五百四十八條
 第五百四十九條
 第五百五十條
 第五百五十一條

附錄

五

第三百五十二條	三五五條	第二百七十條	三七八條	第三百八十八條	三九四條
第三百五十三條	三五七條	第二百七十一條	三八一條	第三百八十九條	三九七條
第三百五十四條	三五五條	第二百七十二條	三八三條	第二百九十條	
第三百五十五條	三六〇條	第二百七十三條	三八一條、三八七條	第二百九十一條	
第三百五十六條	三六二條	第二百七十四條	三八六條	第二百九十二條	
第三百五十七條		第二百七十五條	三八七條	第二百九十三條	三四六條
第三百五十八條		第二百七十六條		第二百九十四條	
第三百五十九條		第二百七十七條	三九〇條	第二百九十五條	
第三百六十條		第二百七十八條	三八五條	第二百九十六條	三四八條
第三百六十一條	三六九條	第二百七十九條		第二百九十七條	
第三百六十二條	三六九條	第二百八十一條		第二百九十八條	
第三百六十三條	三六九條	第二百八十二條	三九一條	第二百九十九條	
第三百六十四條		第二百八十三條	三九二條	第三百條	三五一條
第三百六十五條	三七二條	第二百八十四條		第三百一一條	三九九條
第三百六十六條	三七〇條	第二百八十五條	三八九條	第三百二條	四〇一條
第三百六十七條	三七四條、三七五條	第二百八十六條	三九三條、三九四條	第三百三條	四〇一條
第三百六十八條	三七六條	第二百八十七條	三九四條	第三百四條	四〇六條
第三百六十九條	三七七條			第三百五條	四〇九條

第三百六條	
第三百七條	
第三百八條	四一一條
第三百九條	四一一條
第三百十條	
第三百十一條	
第三百十二條	
第三百十三條	

第三百十四條	
第三百十五條	
第三百十六條	
第三百十七條	四八一條
第三百十八條	四八五條
第三百十八條ノ二	四八六條
第三百十八條ノ三	四八五條
第三百十九條	四八七條、四八八條

第三百二十條	
第三百二十一條	四八六條
第三百二十二條	四九〇條
第三百二十三條	
○刑法施行法	
第六十一條	一一二條

附錄

帝國刑事訴訟法對比條文索引終

16640

3048
18

明治四十四年一月十五日印刷
明治四十四年一月二十日發行

新譯獨逸六法

刑事訴訟法奧附

翻譯者 阿部文二郎

發行者 三書樓
東京市神田區南神保町二番地
合資

右代表者 波多野重太郎

印刷者 藤田知治
東京市本郷區眞砂町三十八番地



發行所

東京市神田區
仲猿樂町一番地

振替東京六五五六番
電話本局二二五四番

巖松堂書店

法學博士 中村 進午著

法學通論

全一冊 定價金貳圓

內地送料 金拾五錢

法學通論ハ法律學ノ全般ニ涉リテ其大體ヲ會得セシムルノ學ナリ隨テ學者モ之カ記述ヲ難スル所ニシテ其著者ニ乏シキ所以ナリ著者中村先生ハ我邦法學界ノ嚮導トシテ推重セララルノ人ナリ先生ノ博識ト能文トヲ以テ茲ニ本書ヲ公ニセラル論議明確ニシテ記述序アリ文章雄健ニシテ要領ヲ得タリ試ニ法學通論ノ良著トシテ推稱スルニ憚ラス

法典質疑會編纂 法典質疑錄

全三冊 定價金壹圓五拾錢 內地送料 各金六錢

上卷 憲法、行政法、刑法 中卷 民法、商法、刑事訴訟法、民事訴訟法 下卷 破産法、競賣法、裁判所構成法

一 本書ハ法學志林第一號ヨリ第百三號(四十一年三月)ニ至ル十箇年間登載ノ質疑問答ヲ編別輯録シタルモノナリ
一 法學志林ノ質疑問答ハ法政大學校友及日法典質疑會々員ノ提出シタル疑問ニ對シ各專門學者カ一々明快ナル答辯ヲ與ヘラレタルモノナリ
一 本書ノ解答者ハ梅、富井、富谷、岡村、岡野、岡田、仁井田、志田、加藤、川名、横田、寺尾、副島、中村、秋山、栗津、山田、清水、岡松、山口、織田ノ二十一博士及ヒ上杉、牧野(菊之助)、牧野(英一)、谷野、豊島、松岡、小崎、泉二、松本、和仁、岩田(宙造)、岩田(一耶)、片山、佐竹、鈴木(英太郎)其他數十ノ學士ナリ

法學士 岡村 玄治著 法之眞髓

全一冊 定價金七拾五錢 內地送料 金六錢

宇宙ニ觀念... 體下用... 物質ノ不滅不増... 眞理ト智識... 因果關係

要次目

- 第一編 人生
 - 法ノ觀念
 - 法ノ效力
 - 法ノ主體
 - 人格者
 - 法ノ觀念ニ關スル學說
 - 法律ト道德
 - 禮ト法
 - 實法(眞法)ト形式法
 - 實法ト自然法
 - 強制法ト非強制法
 - 公法私法
 - 國內法ト國際法
- 第二編 權利義務ノ觀念
 - 權利ノ觀念
 - 義務ノ觀念
 - 實質的權利義務ト形式的權利義務
 - 強制的權利義務ト非強制的權利義務
- 第三編 法人
 - 法人ノ觀念
 - 法人ノ權利能力
 - 法人ノ行為能力
 - 國家

著者ハ少壯法學者トシテ十年來ノ好題目ヲ提ヘ研鑽ノ功ヲ積ムテ斯ノ一書ヲ成ス法理ノ基礎觀念ヲ解説シテ自ラ一家ノ見ヲ立ツ文章明快暢達、議論穩健深刻、著者力眞率ナル努力ノ跡ハ亦以テ學界ノ珍トス可キモノナリ苟クモ法學ヲ修ムルノ士殊ニ法理ノ秘奧ヲ窮メント欲スル人ハ本書ヲ一讀セサル可カラズ

法學士 山本 晋著

法理に關する初學者の疑問

全一冊 定價金壹圓貳拾錢 內地送料 金八錢

法學博士本書ノ卷頭ニ序シテ曰ク「高遠ヲ遠觀スルハ卑近ヲ洞察スル所以、卑近ヲ實行スルハ遠大ヲ實現スル所以ナリ、故ニ近キヲ忘レサル

ハ元ヨリ悟ニシテ、爲メニ違キテ忘ルルハ大ナル迷ナリ、學問山水習君此ノ時弊ヲ匡正セントシ、其ノ一端トシテ法理ニ關スル疑義ヲ公ニセントス蓋シ疑ヒハ智ヲ待ツテ生シ、疑起ツテ智益々明カナリ、轉疑即明智、斷惑即證智ノミ、今君力誠意提出スル疑問ハ自家ノ智ヲ明カニスル順序ニシテ亦少クモ現代學界ノ惑ヲ斷スル階梯ナリ、然モ其最後ノ根據ヲ汎論ニ求メ、小智ニ拘束セラレシテ大智ニ頼ラントスルニ至ツテハ既ニ斷惑證智ニ屬スルモノノミト法理ノ根本觀念タル因果關係ニ意思ニ意識ニ法ニ人格ニ物ニ推理ニ對シテ大々疑問ヲ提出シ蓄來ノ學說ヲ論評シテ自家ノ見ヲ立ツ此ノ精銳勁拔ノ筆鋒ニ當リテ能ク收レザル者幾クカアル

法學士 島村他三郎著

行政法要論 新一版 定價貳圓貳拾五錢 內地送料 金拾九錢

分類一覽

各論

總說篇

行政法研究ノ前提 (法理、公法及私法、權利、公權、人格、國家事務ノ範圍、行政ノ觀念、行政法ノ觀念、行政法學ト行政學、行政法學ノ研究範圍)

行政ノ組織

自治機關 (官制、官廳ノ觀念、官廳ノ類別、官廳ト補助機關トノ關係、官廳相互ノ關係、官廳ノ權限、中央官廳、地方官廳、官廳ノ監督)

官吏 (官吏ノ觀念、官吏ノ種類、官吏ノ權利義務、官吏ニ對スル制裁、官吏ノ賠償責任)

自治機關 (公共團體) (自治行政ノ觀念、公共團體ノ性質、自治團體ノ種類、自治行政ノ範圍及種類、自治行政ノ沿革、現行自治團體ノ種類及系統、國家ト自治團體トノ關係)

地方自治團體 (市町村、郡、縣、府、省、重要物產同業組合、其他ノ特別公共團體)

特別公共團體 (水利組合、商會會議所、重要物產同業組合、其他ノ特別公共團體)

總論 (營造物ノ觀念、營造物ノ成立及ヒ消滅、營造物ノ種類、營造物ノ使用)

行政設備篇

行政作用ノ範圍 (行政行為ノ實質的分類、行政行為ノ形式的分類、行政行為ノ主體及客體、行政行為ノ成立要件、行政行為ノ效力)

行政作用篇

行政作用ノ範圍 (行政行為ノ實質的分類、行政行為ノ形式的分類、行政行為ノ主體及客體、行政行為ノ成立要件、行政行為ノ效力)

第二位的行政行為 (行政行為ノ第二位的行政行為、行政行為ノ第二位的行政行為ノ形式ニ依ル行政作用、行政行為ノ第二位的行政行為ノ目的ヲ有スル第二位的行政行為)

大權作用ニ附隨スル行政 (軍務行政、其他ノ軍務行政事項、外務行政、其他ノ外務行政ノ機關、領事ノ職務、領事裁判ノ性質)

司法作用ニ附隨スル行政 (財務行政、總稅、豫算、會計、國家ノ收入、決算)

抄錄目書圖律法賣發店書堂松巖

純粹行政

內務行政

總論 (警察ノ意義及範圍、警察ト法令トノ關係、警察ノ種類、保安警察ノ範圍)

助長行政 (衛生行政、產業行政、通信行政、風化教育行政、宗教行政)

手段行政 (土地收用ニ關スル行政、身分戶籍ニ關スル行政)

島村先生行政法ヲ研鑽セラレルモノ、茲ニ二年アリ其遺蹟ニ至リテハ冷ク世ノ認ムル所、今ヤ此著アル偶然ニ非ス、本書ハ紙數七百餘頁ニシテ總論各論ノ全部ニ涉リテ能ク詳説ヲ盡サレタルモノナリ加之ラズ文章平明、議論穩健、殊ニ分類按排ノ方ニ至リテハ現今ノ著書中ニ異彩ヲ放テリ行政實務ノ指針トシテ各種試驗ノ參考書トシテ無比ノ良書ナリト謂フ可シ

法曹閣書院編纂

行政法理研究書 第四版定價上製 金貳圓貳拾五錢 拾九錢 第一册定價並製 金貳圓貳拾五錢 拾九錢

一本書ハ行政法學ニ關スル内外諸家ノ學說ヲ網羅シテ之ヲ組織的教科書的ニ編纂シタルヲ以テ二書即チ他ノ著書數十冊ヲ縮減スルニ値ヒ

一本書ニ輯録シタル學說ニハ一々其出所及ヒ論者ノ氏名ヲ示シタルヲ以テ讀者ハ各大家ノ異論異說ヲ明カニ甄別シテ領得スルコトヲ得

一本書ハ讀者ニ正確ナル智識ヲ與ヘンカ爲メニ處々新式ナル法理圖解ヲ加ヘタリ

一本書ハ總論各論ヲ通シテ殆ント一千頁ノ大冊ニシテ處々六號活字ヲ用ヒタルヲ以テ其內容ハ豐富ナリ

法曹閣書院編纂

行政執行法要義 新一版 定價金五拾錢 內地送料 金六錢

檢察事 谷田勝之助著

警察犯處罰令講義 新一版 定價金拾錢 內地送料 金貳錢

內容

緒論 (警察犯ノ性質、警察犯ノ刑、警察犯ノ處罰令ノ效力、人及所ニ關スル效力、時ニ關スル效力、犯罪ノ成立及ヒ刑ノ減輕、法令行爲及ヒ正當業務行爲、正當補助行爲、緊急狀況行爲、假出場、刑ノ時効、行爲ノ處分、共犯、幼者ノ行爲、自首、各論、逐條講義、附錄、警察犯處罰令、關東州警察犯處罰令)

梶 康 郎 著

日本刑法綱要 全一册 定價金壹圓貳拾錢 內地送料 金拾貳錢

本書ハ新刑法ノ理論ヲ最モ簡明快ニ解説セシメテ目的ヲ達スルモノナリ、即チ(イ)各章各條下ニ於テ一般ノ理論及ヒ學說ヲ掲ク成ル可ク具體的設例ヲ爲シ(ロ)且ツ新刑法ノ理論トシテ參考トナル可キ大審院判決例ヲ引用シ(ハ)更ニ各章各節毎ニ新刑法條項

抄錄目書圖律法賣發店書堂松巖

ノ全文ヲ掲ケ其末尾ニ附刑法律ノ對照索引ヲ設ケ專ラ實用ノ便宜ヲ圖レリ紙數僅ニ四百五十頁内外ナリト雖モ其書法簡潔ノ巧妙ナリ
 二千頁以上ノ著書ニ相當ス受驗者ノ參考實務家指針トシテ恰好ノ著書ナリ

法學士奧村政雄著 新刑法正義
 全一册 定價上製金壹圓四拾五錢 內地送料 拾貳錢

本書ハ逐條講義ノ方法ニ依リ各條毎ニ其意義精神及改正ノ理由等ヲ説明セラレタルモノニシテ殊ニ其特色トモ稱スヘキハ各條下ニ「字義」ナル一欄ヲ設ケ新刑法ニ於テ始メテ用ヒラレタル法語ハ勿論尙クモ刑法ヲ研究スル者ノ先ツ知ラントナ要スル法語ヲ説明シ以テ容易ニ條文ノ意義ヲ知ルヲ得セシメタルニ在リ

法曹閣書院編纂 新式刑法論綱
 全一册 定價上製金壹圓五拾錢 內地送料 拾貳錢

法曹閣書院編纂 刑法原理研究書論總
 全一册 定價金參圓 內地送料 拾五錢

法學士甘糟勇雄著 犯罪論
 全一册 定價壹圓七拾五錢 內地送料 拾貳錢

要次目

編前

- 犯罪論ノ範圍
- 犯罪學ノ基礎
- 哲學ト科學ト
- 科學的社會觀
- 社會ト犯罪
- 犯罪原因論
- 犯罪的人類學
- 犯罪的社會學
- 法律ト犯罪
- 刑罰權ノ基本
- 刑罰適用ノ性質
- 犯罪ノ意義
- 惡性ノ哲學的考察
- 犯罪ノ效果
- 刑事上ノ效果
- 民事上ノ效果

編後

- 犯罪ノ主體
- 法人ノ本質
- 法人ノ犯罪能力
- 餘論
- 犯罪ノ客體
- 犯罪ノ主觀的要件
- 刑事責任論
- 責任無能力ノ原因
- 犯罪論
- 過失論
- 犯罪ノ客觀的要件
- 行為論
- 因果關係論
- 違法阻却ノ事由
- 違法行為ノ概念
- 緊急行為
- 權利行為
- 自衛及承諾
- 錯誤論
- 犯罪ノ態樣
- 犯罪ノ完了
- 單獨犯及共犯
- 一罪及數罪
- 犯罪學ヲ叙述シ、深ク社會心理學ノ靈奧ニ入りテ終ニ哲學ノ
- 本書前編ハ社會學ヲ根トシテ、社會上ヨリ犯罪ヲ論評シ、刑事政策ヲ説キ、犯罪學ヲ叙述シ、廣ク試驗問題ノ解説ヲ試ミテ能ク刑法學ノ
- 本書後編ハ新刑法ヲ帶トシテ、法律上ヨリ犯罪ヲ考察シ東西ノ學說ヲ援キ、判決例ヲ摘示シ、廣ク試驗問題ノ解説ヲ試ミテ能ク刑法學ノ
- 疑ヲ闡ク
- 文章雄健、理論整正、一度ヒ本書ヲ精ケハ坐ロニ卷ヲ措ケ能ハサラシム、從來無味潤滑トシテ人ノ厭フ所ナリシモノモ本書ニ依テ無限ノ
- 趣味ヲ隨所ニ溢ルルヲ見ン

抄錄目書圖律法賣發店書堂松巖

司法省參事官 大場茂馬著 **刑法各論**
 上卷三版 定價金貳圓五拾錢 內地送料 各拾九錢
 下卷再版 定價金參圓參拾錢 各拾九錢

分類大綱

- 一個人ノ法益ニ對スル罪(上卷)
 - 生命ニ對スル罪
 - (一)生命ヲ害スル罪
 - (二)生命ヲ危リスル罪
 - 身體ニ對スル罪
 - (一)故意傷害罪
 - (二)過失傷害罪
 - (三)其他ノ傷害罪
 - 自由ニ對スル罪
 - (一)身上ノ自由ヲ害スル罪
 - (二)性交ノ自由ヲ害スル罪
 - (三)個人ノ法律的平穩ニ對スル罪
 - (四)刑法上ノ名譽ニ對スル罪
 - (五)特別法上ノ名譽ニ對スル罪
 - 名譽ニ對スル罪
 - (一)財產上ノ法益ヲ直接ニ侵害スル罪
 - (二)其他ノ財產權ヲ害スル罪
 - (三)法益ヲ侵害スル罪
 - (四)其他ノ財產權ヲ害スル罪
 - (五)法益ヲ侵害スル罪
 - (六)其他ノ財產權ヲ害スル罪
 - 財產ニ對スル罪
 - (一)財產上ノ法益ヲ直接ニ侵害スル罪
 - (二)其他ノ財產權ヲ害スル罪
 - (三)法益ヲ侵害スル罪
 - (四)其他ノ財產權ヲ害スル罪
 - (五)法益ヲ侵害スル罪
 - (六)其他ノ財產權ヲ害スル罪
 - 社會ノ公安ニ對スル罪
 - (一)放火及ヒ失火罪
 - (二)瓦斯、電氣、蒸氣ノ漏出、流
 - (三)山火ノ起シ
 - (四)往來妨害罪
 - (五)飲水及ヒ水利ニ關スル罪
 - (六)傳染物ニ關スル罪
 - 公共ニ危險ナル罪
 - (一)放火及ヒ失火罪
 - (二)瓦斯、電氣、蒸氣ノ漏出、流
 - (三)山火ノ起シ
 - (四)往來妨害罪
 - (五)飲水及ヒ水利ニ關スル罪
 - (六)傳染物ニ關スル罪
 - 交通取引ノ誠實及ヒ信用ニ對スル罪
 - (一)通貨偽造罪
 - (二)印章偽造罪
 - (三)文書偽造罪
 - (四)有價證券偽造罪
 - (五)偽造罪
 - (六)賭博及ヒ
 - 社會ノ風俗ニ對スル罪
 - (一)猥褻、姦淫、重婚ニ關スル罪
 - (二)賭博及ヒ
 - (三)阿片煙ニ關スル罪
 - (四)禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪
 - (五)內亂ニ關スル罪
 - 國家ノ存立ニ對スル罪
 - (一)暴行、脅迫、強姦ニ關スル罪
 - (二)公務員ニ對スル罪
 - (三)公務員ノ職務執行ニ對スル罪
 - (四)公務員ノ職務執行ニ對スル罪
 - (五)公務員ノ職務執行ニ對スル罪
 - (六)公務員ノ職務執行ニ對スル罪
 - 國家ノ法益ニ對スル罪(下卷)
 - (一)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (五)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (六)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (七)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (八)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (九)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十一)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十二)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十三)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十四)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十五)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十六)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十七)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十八)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (十九)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十一)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十二)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十三)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十四)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十五)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十六)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十七)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十八)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (二十九)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十一)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十二)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十三)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十四)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十五)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十六)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十七)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十八)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (三十九)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十一)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十二)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十三)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十四)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十五)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十六)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十七)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十八)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (四十九)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪
 - (五十)職權濫用ニ依リ一個人ノ法益ヲ害スル罪

大場先生ハ我邦正統刑法學派ノ重鎮トシテ盛名籍甚タリ殊ニ本邦ハ先生苦心ノ大作ニシテ日本刑法各論唯一ノ著ナラシムハアラズ宜ナル
 カナ譯價日ニ高キコトヤ、今既ニ其完成ヲ告グ誠ニ最近刑法學界ノ一大產物ナリ分類ノ最新ト内容ノ豊富トハ未タ曾テ其比ヲ見サル所、
 敢テ篤學ノ士ノ一讀ヲ勸ム

判事 田山卓爾著 **刑法施行法要論**
 全一册 定價上製金九拾錢 金八錢
 並製金六拾五錢 金六錢

新刑法ハ全然新派ノ思想ヲ襲テ一躍新派ノ學理ヲ採用シタルヲ以テ舊法ト新法トハ其内容ニ甚クシキ懸隔アリ從ツテ刑法施行法ニ於テモ持殊ノ規定頗多ク到底新派ノ家ノ解説ヲ採ラザレハ之ヲ解シ得ヘキニ非サル也本書ハ刑法ニ堪能ノ命問高キ山田判事カ其明晰ナルヲ以テ得意ノ筆ヲ呵シ詳論細說大ニ新法ノ真髓ヲ開明セラレタルモノニシテサシモ難解ナル法條モ本書ヲ一讀過スレハ頗ル明白ニ理解ヲ感得スヘシ今ヤ刑事事務ニ關係アルノ士ニ取テハ刑法ノ研究ト共ニ新法ノ研究ハ急務中ノ一大急務ニ屬ス本書ハ即チ是等人士ノ指針ナリ伴價タルニ庶幾ランカ

檢事 山岡萬之助著

刑事政策學

檢事 山岡萬之助著

刑事政策學

司法省參事官 大場茂馬著

刑事政策根本問題

新 一册 定價金壹圓拾錢 内地送料 金拾貳錢

犯罪ノ發生ハ如何ナル原因ニ基クカ犯罪及ヒ其原因ト牽連スル社會政策ヲ如何ニ料理スヘキカ抑犯罪ノ檢罪刑罰ノ量定刑罰ノ執行ヲ如何ニスヘキカ大凡此等ノ諸問題ハ皆刑事政策學ノ分野ニ屬スルモノニシテ以テ犯罪ノ撲滅減少ヲ講スヘキ任務ヲ有スル所以ナリ
著者ハ西歐ニ遊學中風ク斯學ニ歸スル一書ヲ公刊シテ歐洲ノ學界ニ一大警鐘ヲ喚ベ噴々タル盛名ヲ博セラレタリキ爾來造詣益々深ク今ヤ刑事政策叢書ノ完成ヲ企圖セラレ茲ニ本書ノ刊行ヲ告グルニ至レリ蓋シ此種ノ著作ハ我國ニ於テハ本書ヲ以テ嚆矢ト爲スヘキモノナリ敢テ當路ノ有司或ニ憂國愛民ノ士ノ座右ニ薦焉

註 民法全書

全十二卷

釋 民法全書發行ノ趣旨

民法施行セラレテヨリ茲ニ二十年之ニ關スル述作ノ公刊セラレタルモノ少ナカラスト雖モ其全部ニ亘ル學理的ノ著書ハ殆ト之ヲ見ルコトヲ得ス是レ我法學界ノ大缺陷ト謂ハサルヘカラス而シテ其逐條的ノ註釋書ニ至リテハ特ニ一層ノ切要ヲ感セスハアラス近時我法學界ノ傾向ハ學理ノ講究ヲ偏重スルノ結果動モスレハ逐條的註釋書ヲ輕視スルカ如シト雖モ一國ノ成法ヲ研鑽スルニ當リテハ法文ヲ離レテ學理ヲ求ムルコト能ハス學理ヲ講究セント欲スレハ必ス先ツ法文ノ意義ニ精通セサル可ラサルナリ故ニ註釋書ニシテ兼テ學理ノ蘊奧ヲ極メタルモノアラハ講學者及ヒ實際家ニ對スル無上ノ指針ナル

ヘシ而シテ此ノ如キ良著ヲ渴望セルノ急ナルニ拘ハラヌ未タ之ヲ得ルコト能ハサルハ蓋シ其編纂事業ノ至難ナルニ由ルモノナルヘシ今敢テ吾力ヲ顧ミズ茲ニ註釋民法全書ヲ發行スル所以ノモノハ一世人ノ此渴望ヲ充タシテ以テ我法學界ニ貢獻スル所アラントスルノ微意ニ外ナラス幸ニ多數碩學ノ贊成ヲ得終ニ此至難ノ事ヲ成スル機ニ際セリ本書ノ内容ノ完全一辭ノ贊ス可キモノナカルヘキハ分擔著者ノ名聲之ヲ證ス豈ニ之レヲ廣告スルヲ須ヒンヤ著書ハ各最モ得意トスル部門ニ就キ執筆ヲ分擔セラレ且敘述ノ體裁ニ關シテ十分ノ協議ヲ遂ケラレタルヲ以テ庶幾クハ此ニ偏重シテ彼ニ偏輕スルノ憾無キヲ得テ眞ニ完璧ノ註釋書ヲ得ヘキナリ吾人ハ本書ノ發行カ吾人責務ノ一端ヲ竭シ得タルモノナルコトヲ以テ衷心ノ欣悅トシ併セテ現時ノ法學界ニ此光輝アル大著ヲ紹介シ得ルコトヲ以テ無上ノ光榮トスル者ナリ

明治四十三年

發行 者 識

第一卷	人、法人及物	第一條乃至第八十九條	東京帝國大學法科大學教授 松本 丞 治
第二卷	法律行為乃至時效	第九十條乃至第一百七十四條	東京帝國大學法科大學助教授 法學士 鳩山 秀 夫
第三卷	物權總則及占有權	第一百七十五條乃至第二百五條	東京高等工業學校教授 法學士 乾 政 彦
第四卷	所有權乃至地役權	第二百六條乃至第二百九十四條	早稻田大學法科大學教授 法學士 三 瀨 信 三
第五卷	留置權乃至抵當權	第二百九十五條乃至第三百九十八條	神戸高等商業學校教授兼神戸地方裁判所檢察官 法學士 吾 孫 子 勝
第六卷	債權總則	第三百九十九條乃至第四百六十五條	京都帝國大學法科大學教授 法學士 中 島 玉 吉
第七卷	債權總則	第四百六十六條乃至第五百二十條	京都帝國大學法科大學助教授 法學士 中 島 文 藝
第八卷	契約總則	第五百二十一條乃至第五百四十八條	慶應義塾大學法科大學教授 法學士 神 戶 寅 次 郎
第九卷	契約各論	第五百四十九條乃至第六百九十六條	司法省參事官兼東京控訴院檢察官 法學士 池 田 寅 二 郎

抄 錄 目 書 圖 律 法 賣 發 店 書 堂 松 巖

抄 錄 目 書 圖 律 法 賣 發 店 書 堂 松 巖

第十卷 事務管理乃至不法行為

第六百九十七條乃至第七百二十四條 東京地方裁判所部長判事 法學士 飯島喬平

第十一卷 親族

第七百二十五條乃至第九百六十三條 東京地方裁判所部長判事 法學士 島田鐵吉

第十二卷 相續

第九百六十四條乃至第一千四百六十六條 東京帝國大學法科大學教授 法學博士 川名兼四郎

明治大學出版部編纂 法學大家論文集之民部

新二冊 定價上製金壹圓五拾錢 貳拾參錢 並製金壹圓 拾六錢

本書ハ諸大家ノ諸雜誌ニ寄稿セラレタル民法ノ諸問題ニ對スル論文ニシテ、學理ノ攻究上實際ノ應用上必讀スヘキ金玉ノ名篇二百有餘ヲ輯メタルモノナルヲ以テ學者、實務家、殊ニ各種ノ受驗者ノ看過ス可カラサル良書ナリ本書ハ各論文ヲ民法編章ノ順序ニ從ヒ排列シタルヲ以テ索出ニ至便ナリ

法學士 村上 恭一著

債權各論

全一冊 定價貳圓貳拾五錢 內地送料 金拾八錢

東京控訴院判事團野新之著

損害賠償論

全一冊 定價貳圓貳拾五錢 內地送料 金拾八錢

要次目

論損害賠償請求權 ①總論 ②人格 ③法律上ノ事實 ④損害賠償額 ⑤損害賠償ノ性質 ⑥損害賠償額ノ算定 ⑦損害賠償額ノ減額原因 ⑧債務不履行ノ原因 ⑨損害賠償ノ費用 ⑩委任及請負 ⑪寄託貨物借使 ⑫不法行為ニ因ル損害賠償 ⑬總論 ⑭占有ノ權利ノ限界 ⑮工作物ノ占有者及占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ⑯無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ⑰工業所有權者及著作權者 ⑱無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ⑲工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ⑳無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㉑工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㉒無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㉓工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㉔無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㉕工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㉖無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㉗工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㉘無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㉙工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㉚無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㉛工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㉜無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㉝工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㉞無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㉟工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㊱無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㊲工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㊳無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㊴工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㊵無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㊶工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㊷無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㊸工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㊹無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㊺工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㊻無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㊼工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㊽無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者 ㊾工物ノ占有者並ニ所有權者及占有者並ニ保管者 ㊿無能力者ノ監督義務者事務ニ付テノ使用者又ハ監督者及ヒ法文者

法學士 牧野菊之助著

日親族法論

第三版 定價金貳圓 內地送料 金拾五錢

法學士 牧野菊之助著

日相續法論

再一版 定價金貳圓 內地送料 金拾五錢

著者ハ最高法院ニ判官トシテ命令アルノ人、殊ニ其親族法相續法ニ於ケル造詣ニ至リテハ現今ノ學界第一ニ指テ之レニ屈セサルヲ得ヌニ日本親族法論ヲ公ニハルヤ忽チニシテ再版ヲ促スノ盛況ヲ見次テ日本相續法論ノ出ルヤ好評一段ノ高キモノアリ蓋シ親族相續ノ法規ハ本邦特有ノ家族制度ニ淵源スルモノ多クシテ學者ノ解説ヲ難ニスル所之レニ關スル著述ハ僅カニ逐條註釋書ノ一ニテ算スルノミナシ今論理的ニ論述シタル良著ニ至リテハ此兩者ヲ以テ唯一ト爲ササルヲ得ヌ即引旁證、論理精透、眞ニ未曾有ノ良著タル名ニ頁カス

法學博士 岡村 不二男著

戶籍法釋義

第七版 定價上製金壹圓四拾錢 拾五錢 並製金壹圓 拾貳錢

法學士 板垣 不二男著

不動產登記法正義

再一版 定價上製金壹圓四拾錢 拾貳錢 並製金壹圓 拾錢

法學士 青山 衆司著

商法要論

全六冊 定價上製金壹圓四拾錢 拾貳錢 並製金壹圓 拾錢

法學士 花岡 敏夫著

貨物運送ト其判決例

全一冊 定價金八拾五錢 內地送料 金六錢

本書ハ商法ニ造詣深キ花岡先生力幾多ノ實例ニ據リテ運送ニ關スル法理ヲ論セラレタルモノニシテ且少許法修正案ニ論及セラレタルハ實務家必讀ノ參考書タルト共ニ修正商法批評家ノ好資料トナラン

法學博士 粟津 清亮著

日本保險法論

全一册 定價金壹圓五拾錢 內地送料 金拾五錢

我邦保險法學ノ大家ト言ヘハ何人モ先ツ指テ粟津博士ニ加スルニ躊躇セサルヘシ博士其博識ヲ以テ仍ホ意ヲ斯學ノ研究ニ注キ精勵ノ功ヲ積リテ遂ニ遺ノ著アリ暢達ノ文章ヲ以テ得意ノ論議ヲ盡シ難解ノ法理ヲ剖析シテ餘ス所無シ意ヲニ本書ノ如キハ正ニ斯學ノ長著タルノミナラス亦以テ最新學界ノ一大產物トシテ永久ニ光輝アルモノナラシム

法學博士 粟津 清亮著

保險論集

全一册 定價金貳圓五拾錢 內地送料 金拾五錢

法學士 豐田 多賀雄著

有價證券論

全一册 定價金壹圓八拾錢 內地送料 金拾五錢

商事取引ノ發達ト共ニ有價證券ノ組織的研究ハ刻下ノ急務ト爲レリ著者此ニ見ル所アリ乃チ此一ホチ公ニス有價證券ノ法理ヲ詳論シテ且ツ其經濟的研究ヲ説キ團體的證券トシテハ株券、物權的證券トシテハ貨物引換證、無荷證券、倉庫證券、債權的證券トシテハ手形、社債ニ直リ特ニ公債ノ證券の理論ヲ釋明シ且ツ多年ノ疑團タリシ荷爲替及荷爲替類似契約ノ性質ヲ解説シタルカ如キハ此書ノ特色ナリ加之判例ヲ引照シテ商事實際ト法律トノ交渉ヲ明カニス眞ニ法學研究者、商事實務家必讀ノ長著ナリ

法學士 板倉 松太郎著

刑事訴訟法玄義

全三册 前編金壹圓四拾錢 內地送料 金拾貳錢

著者ハ訴訟法學ノ泰斗トシテ景仰セラルルノ人ナリ著者ノ斯學ニ於ケル推展研究十年一日ノ如ク其大審院ニ檢事トシテ公務ニ熱心スルノ間ヲ以テ本書ヲ公ニス其將々熱誠ノ餘ニ非ストセンヤ而モ本書ハ理論精敏、内容豊富、稀ニ見ルノ大著ニシテ加フルニ文章雄健、趣味無限ナリ
殊ニ本書前編ハ刑事訴訟ノ原理ヲ論スルコト詳細ナク東西古今ノ裁判制ヲ述ヘテ陪審制度ノ利害ニ及ヒ學說ノ推移、立法ノ發達等ヲ細説シテ著者ノ卓拔ノ識見、到ル處ニ其光芒ヲ放ツ、朝野篤學ノ士ノ一讀ヲ切望ス

法學士 清水 孝藏著

刑事訴訟法論綱

全一册 定價金壹圓六拾錢 內地送料 金拾貳錢

本書ハ刑事訴訟法ニ造詣深キ著者カ斯學攻究者ナシテ容易ニ大綱ヲ得セシムルノ目的ヲ以テ述作セラレタルモノニシテ總紙數四百餘頁、要ヲ摘ミ粹ヲ拔キ冗漫ヲ避ケテ實質ヲ主トシ文章簡明ニシテ理論一貫、能ク著者ノ期シタル所ニ協フモノナリ實務及ヒ受験ノ指針トシテ最モ適當ナルヘキナ信ス

法學士 岩田 一郎著

民事訴訟法大要

全一册 定價金壹圓參拾五錢 內地送料 金拾貳錢

民事訴訟ノ法文八百餘條、之ヲ解説スルノ書何レモ數千頁ノ大冊ヲ成ス、斯法研究ノ業亦甚タ難シト謂フ可シ。先生茲ニ察スル所アリテ本書ヲ著ハス、要ヲ摘ミ、粹ヲ拔キ、冗漫ヲ避ケテ簡明ヲ旨トシ僅々四百頁ノ冊子ニシテ斯法全般ノ精髓ヲ説キ盡セリ、固ニ斯法研究ニ缺ク可カラサル指針ナリ

法學士 岩田 一郎著

民事訴訟法原論

全四册 定價金參圓五拾錢 內地送料 貳拾參錢

本書ハ多年民事訴訟法運用ノ實務ニ當リ、傍ラ各私立大學ニ於テ斯法ノ講座ヲ擔任セララル著者力、其豊富ナル學識ト、多年ノ經驗トニ基キ、學理上實際上ヨリ斯法ヲ詳論セラレタルモノナレハ、實務家學生及諸試驗ニ應セントスル者ノ座右ニ缺クヘカラサル長著ナリ、本書ニハ民事訴訟法、人事訴訟手續法條文索引ヲ添ヘテ附シ讀者ノ便ヲ圖リタリ

法學士 岩本 勇次郎著

民事訴訟法註釋

全二册

辯護士 河西 善太郎著

確認訴訟論

全一册 定價金五拾五錢 內地送料 金八錢

確認訴訟ハ民事訴訟中ノ一大疑團ナリ然モ由來此疑團ニ向テ明快ナル說明ヲ與フル長著無ク實際家及ヒ學生ヲ迷惑セシムルコト多カリシハ是レ眞ニ我民事訴訟法學界ノ一大缺陷タリシヲ免カレヌ著者ハ研學ニ忠實ニシテ實務ニ熱心ナルノ人ナリ其多年獲得ル所ノモノヲ將テ茲ニ本書ヲ公ニス確認訴訟ヲ縱論橫論シテ餘ス所無ク文章平明ニシテ論理穩健慮幾クハ民事訴訟界積年ノ疑義ヲ氷釋スルコトヲ得ン切ニ朝野法曹及ヒ學生諸子ノ一讀ヲ促ササルヲ得ス

判 事 佐藤 重之著

強制執行法

全三册 定價金壹圓貳拾錢 內地送料 金拾貳錢

強制執行ハ民事訴訟ノ生命ニシテ私權保護ノ最終手段ナリ、而モ其法理ト實際トニ至リテハ紛雜交錯解シ難キモノ多クシテ且ツ之ニ恰好ノ長著少キ所ナリ著者ハ多年東京區裁判所ノ執行部ニ在リテ夙ニ令聞アリ常ニ世間實際家ノ多クカ執行手續ニ暗キヲ概シ完備ナル強制執行論ヲ著ハサントスルノ意アリ茲ニ其第一卷トシテ不動產競賣稿ヲ上梓セラレ既ニ第參版ニ及ヒタリ以テ其内容如何ヲ想像スルニ餘リアルヘシ

內容
●競賣申立附屬書類 ●執行方法 競賣開始決定 ●手續ノ取消 ●手續ノ進行 競賣實施 ●配當要求 ●競落 競否
●陳述競 ●執行異議 ●執行停止 ●抗告 ●代金配當 ●手續完結 ●追奪擔保

法學士 吾孫子 勝著

競賣法論

全一册

嚴松堂書店編輯部編纂

現行商

商法修正案

全一册

定價金拾貳錢

內地送料

最近發表ニ係ル司法省法律取調委員起草ノ商法修正案ニ就キ現行商法ノ規定ヲ引照シタルヲ以テ修正ノ箇所及ヒ修正内容ヲ明瞭ニ知ラント欲セハ須ラク本書ヲ一讀スヘシ

法律 日日社編輯

最近判例集

判例集

全五册

定價四卷各金六拾錢

五卷金壹圓五拾錢

第一卷(明治四十二年) 第二卷(明治四十一年) 第三卷(明治四十一年) 第四卷(明治四十二年) 第五卷(明治四十二年)

內容

大審院 東京控訴 大阪控訴 名古屋控訴 廣島控訴 長崎控訴 宮城控訴 東京地方 仙臺 長崎 大阪 神戸 兩府 宮城 行政 合計

Table with columns for volume numbers (第一卷 to 第五卷), page counts, and case counts. Includes a '合計' (Total) row at the bottom.

法律新聞社編纂 判決要録

全五册

各册金壹圓五拾錢

內地送料

本書第一卷ハ法律新聞發行以來即明治三十三年ヨリ四十四年一月迄第二卷ハ同四十四年二月ヨリ本年二月迄ノ大審院各控訴院各地方裁判所行政裁判所等ノ判決例ハ勿論司法省民刑局訓令回答及ヒ諸家ノ高論卓識等ニ關スル要旨ヲ摘録シタルモノニシテ殊ニ大審院ノ判例ハ獨リ同院民刑兩部ニ於テ判例トシテ示サレタルモノニ止マラス本社認メテ以テ法曹及ヒ實業家諸氏ノ參考ノ資ト爲スニ足ルヘシト思惟セルモノハ悉ク之ヲ収録シタリ

法學士 小 嚳 傳著

大審院新刑法判例要旨

全一册

定價金貳圓貳拾錢

內地送料

附錄舊刑法刑事訴訟法特別法罰則判例要旨

嚴松堂書店編輯部編纂

外交官受驗提要

全一册

定價金參拾五錢

內地送料

嚴松堂書店編輯部編纂

四十二年試驗問題集

全一册

定價金貳拾五錢

內地送料

本書ハ最近ノ試験問題ヲ知ラント欲スル人ノ爲メニ明治四十二年中ニ於ケル各種試験問題ノミチ蒐録シテ別冊ト爲シタルモノニシテ外交官領事官、文官高等、刑事檢察辯護士、東西法科大學、日本、法政、中央、早稻田、明治、關西ノ各私立大學ノ試験問題ハ網羅シテ此中ニ在リ

嚴松堂書店編輯部編纂

試驗問題集

全一册

定價金五拾五錢

內地送料

本書ハ明治三十年ヨリ最近ニ至ル十三年間ノ外交官、高等文官、刑事檢察、辯護士、東京帝國大學、京都帝國大學、日本大學、法政大學、中央大學、早稻田大學、明治大學等ノ試験問題ヲ悉ク網羅シテ之ヲ各科目ニ分類シ更ニ之レヲ編纂節款ニ細別シテ學理的教科書的ニ編纂セシモノナレハ秩序整然トシテ法律學及ヒ經濟學全般ノ骨髄ヲナシ恰モ維新維新タルノ感アリ學生受驗者ハ勿論法曹家警察官財務官教育家等ノ座右ニ缺クヘカラサル好參考書ナリ

嚴松堂書店編輯部編纂

法律經濟論題輯覽

全一册

上製金壹圓五拾錢

內地送料

本書ハ基間雜誌七十餘種數千冊ニ登載セラレタル法律經濟ニ關スル大家ノ論說ノ題號ヲ教科書的ニ彙別類聚シ各題號ノ下ニ論者氏名、雜誌名、年度、卷數及號數ヲ揚クテ其索引ノ便ヲ圖リタルモノナレハ講法家及ヒ實際家ノ机上ニ缺クヘカラサル珍寶ナリ

3048-18

外交官志望者ノ羅針盤タラントナ期シ外交官試験合格者ガ自己ノ經驗ニ徴シテ一切ノ準備及心掛ヲ親切叮嚀ニ説述セラレタル筆記ニシテ果年ノ試験問題及外交官ニ關係アル法令ヲモ録シタルハ將ニ外交官タラント欲スル士ハ本書ニ依リテ學校ノ選擇其他ノ注意ヲ受クルコトヲ得ヘク又既ニ學校ヲ卒業シタル士ハ本書ニ依リテ受驗中ノ心掛及試験程度其他ノ必要事項ヲ知ルコトヲ得ヘシ

巖松堂書店編輯部編纂

高等官判檢事辯護士受驗提要

新一冊 定價 金參拾五錢 内地送料 金四錢

本書ハ高等文官、判檢事、辯護士ノ諸試験ニ應セント欲スル人ノ爲メニ受驗準備、受驗資格、志願手續、試験規則ヲ細説シタルモノニシテ尙ホ參考書、同最近試験問題、關係諸法令ヲ添ヘ完全ナル指針タラシメンコトヲ期ス

警視廳 小田明次監修 巖松堂書店編輯部編纂

警察官吏受驗提要

新一冊 定價 金參拾五錢 内地送料 金四錢

本書ハ巡査ノ地位及待遇、巡査採用方法、巡査志願手續、巡査採用試験、巡査部長採用方法、警部並ニ消防士ノ地位及待遇、警部並ニ消防士採用方法試験等ニ關シ流暢ニ且ツ明快ノ筆ヲ以テ之レカ詳明ヲ爲シ傍ヲ試験ニ課セラレタル實地試験問題ヲ掲載シ之カ應募者ノ爲メニ極メテ親切ニ極メテ叮嚀ニ其應募準備並ニ心得ヲ説明セラレタルモノ也

組織 本書ハ其ノ第一編ニ於テ警察官ノ地位、待遇、採用ノ方法並ニ應募ノ準備、心得ヲ詳述シ第二編ニ於テ警察官吏ニ關スル總テノ法規ヲ組織的ニ然モ各細別シテ最モ叮嚀ニ之ヲ掲載セルヲ以テ應募者ノ爲メニハ實ニ唯一ノ好指針タルヲ疑ハサル也

法學士阿部文二郎譯

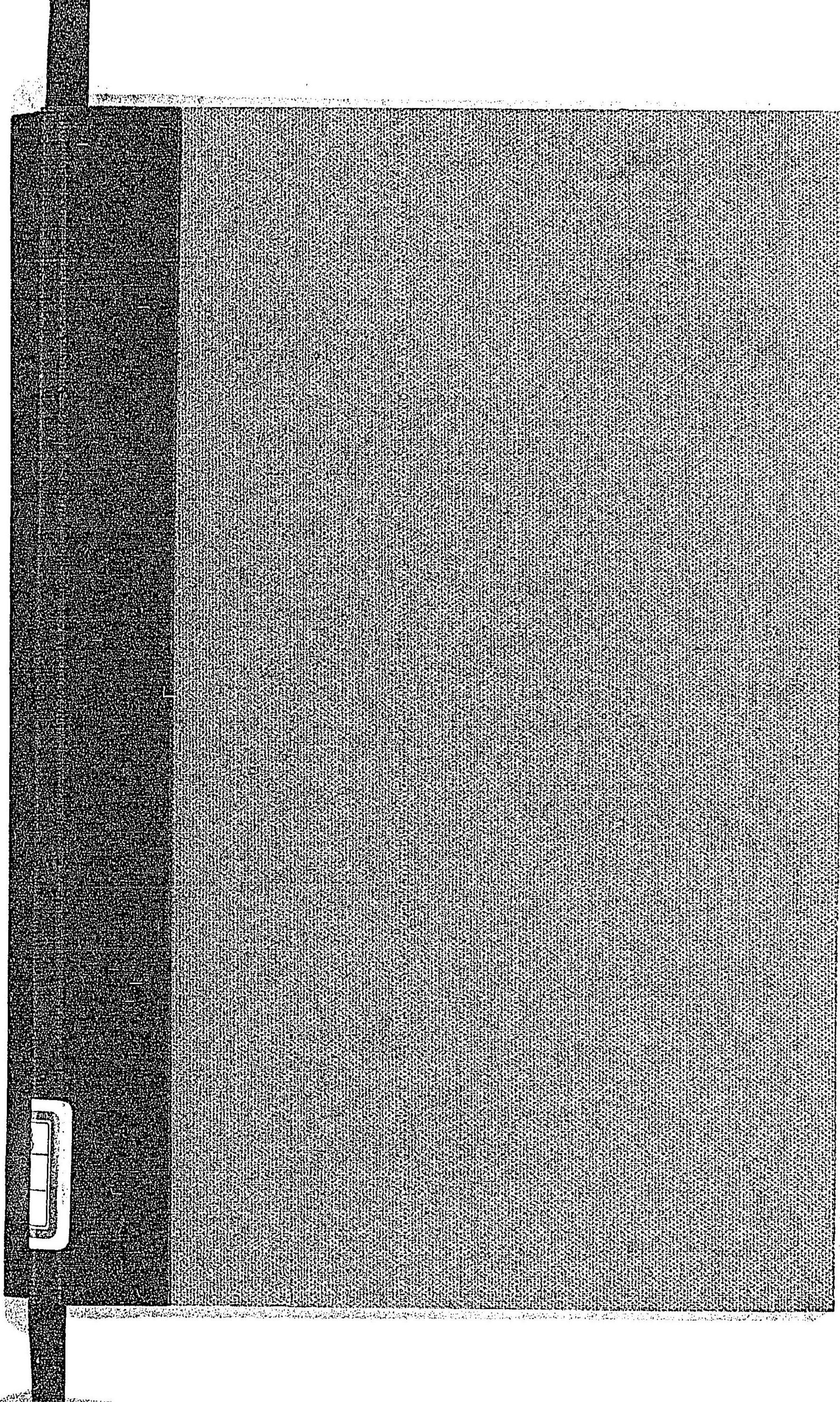
新選六法 刑事訴訟法

全一冊

法律ノ研究モ漸ク國內的ナル風ヲ脱シ漸ク世界的ナラントスルノ勢ヲ成セリ本書ノ如キモ亦之等研究者ノ爲メニ獨逸刑事訴訟法ノ規定ヲ翻譯シタルモノニシテ譯文妥當加フルニ日本刑事訴訟法ノ法條ヲ引照シタルヲ以テ斯法研究者必携ノ要書ナリ

讀者諸賢と出版者

此書物を御講讀の上は、何事によらず是に附ての所感を寄せられん事を希望します。敢て本文の批評に限らず、体裁の上にも、挿畫の上にも、御考を其ま記して戴きたい。文体は書簡文でも、言文一致でも、論文体でも差支ありません。長短も制限なく、葉書でも、封書でも御隨意です。宛名は東京市神田區南神保町二番地、三書樓と願ひます。御注意の事項は増版の時に増訂又は爾後の出版物の参考に致します。



新譯
独逸大法 刑事訴訟法

国立国会図書館



036669-000-6

CG3-781-03

刑事訴訟法 (新訳独逸六法)

阿部 文二郎 / 訳

M44

BBS-0088

